

Journal of Japan Society of Information and Knowledge

情報知識学会誌

Vol.21 No.4 (Oct. 2011)

~~~~~目 次~~~~~

## 巻頭言

知的活動を左右する情報技術の新たな動向への対処…………… 細野 公男…419

## 特集 第 16 回 情報知識学フォーラム

### 「電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流」

電子出版の可能性と印刷会社の役割

…………… 千葉 弘幸…423

電子書籍フォーマット XMDF と作成環境

…………… 花田 恵太郎, 梅本 あずさ, 沢田 裕司, 齋鹿 尚史…430

電子出版には、WEB ブラウザだけがあればいい

…………… 小池 利明, 林 純一…441

いま Adobe が考える電子出版の制作フロー

…………… 岩本 崇…452

## メール・マガジン・アーカイブ

情報知識学会メール・マガジン (2010 年 11 月号～2011 年 9 月号) …… 456

## お知らせ

役員候補者の推薦について (公告) …… 518

情報知識学会役員選出規定…………… 520

情報知識学会定款…………… 522

事務局からのお知らせ…………… 527

投稿規程と執筆要領…………… 529



情報知識学会

<http://www.jsik.jp/>

# TOPPAN

## 印刷博物館。

# ここには、人類の知と創造への エネルギーがあふれています。

絵画と文字の始原を求める…。先人たちの知の遺産に触れる…。

そして、印刷とコミュニケーションの過去、現在、未来の姿を探る。

東京・文京区に開館した日本初の本格的な「印刷博物館」。

ここは人類の偉大なる知と創造へのエネルギーを感じることができるスペースです。



printing  
museum Tokyo  
印刷博物館

〒112-8531  
東京都文京区水道1丁目3番3号  
TEL: 03-5840-2300 (代)

<http://www.printing-museum.org/>

●交通: JRおよび地下鉄有楽町線、東西線、南北線、大江戸線飯田橋駅より徒歩約13分。地下鉄有楽町線江戸川橋駅より徒歩約8分。地下鉄丸の内線、南北線後楽園駅より徒歩約10分。●開館時間: 10時～18時(入場は17時30分まで) ●休館日: 毎週月曜日(但し祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間 ●入館料: 一般(中学生以上) 300円、小学生100円、団体割引あり(税込)

巻頭言

## 知的活動を左右する情報技術の新たな動向への対処

監事 細野公男

情報技術の進歩・普及が我々の知的生活に大きな影響を与えるようになってから久しい。その結果、生活の有り様が一変したといっても過言ではない。これは我々が研究および実践の対象としているデータ、情報、知識の分野においても例外ではなく、研究・教育体制に大きな影響を及ぼしている。

かつて情報洪水や情報爆発なる言葉が一斉を風靡した時代があった。しかし、現在は情報の表現・生産・処理・提供等に関わる技術の影響力の強さが喧伝されるようになっていく。

現在大きな脚光を浴びている情報技術の例としてよくあげられるのが電子出版、電子書籍である。わが国でも本学会を含め複数の機関で種々の取組みがなされている。

この技術はグーテンベルク以後長期間にわたって存続してきた印刷本の終焉をもたらすかのようなものである。しかしこうした事態が現実のものとなるか否かはまだ推測の域を出ない。ともあれ、この技術が情報の獲得・利用行動の様式を大きく変えるだけでなく、本や雑誌を生産・提供・利用するシステム・機関・体制のあり方をも一変させる力を持っていることは誰も否定できまい。さほど遠くない時代での大学図書館や公共図書館はどのような形態になっているのであろうか？そこでの業務や活動は大きく様変わりしていると考えられる。

情報技術は個々人の情報探索行動のみならず具体的な生産活動や処理活動の様式も著しく変化させている。米国でここ数年取り上げられた話題の一つに学生に見られるマルチタスク行動がある。これ

は机上に複数個のコンピュータを配置し、複数の業務を同時並列的に複数画面で行う様式と言えよう。たとえば複数の画面をそれぞれ論文の作成、論文の精読、事典・辞典など各種の情報源の参照、電子メール、チャットなどに割り振り、適宜画面を渡り歩く行動である。1台のコンピュータでもマルチ画面を操作して同じようなことができ実際になされているのであろうが、その徹底度には格段の差がある。マルチタスク行動は、わが国においても一般的になっているように思われる。

こうした行動の利点は多分一見作業効率がよくなるように見える点にあると思われ、それがこうした行動が増加している理由と考えられる。しかし一方ではこのような行動が度を越すと、結果として注意力の散漫、集中力の欠如をもたらし、情報の生産性が落ち、その質にも大きな問題が生じるとの指摘もある。長文の論文をじっくり読む、こつこつと実験を重ねるといったような地道な知的活動ができなくなるとの意見さえある。

こうした動向は世代間のギャップをさらに深める要因ともなろう。情報技術がさほど進歩していない時代に培われた活動・苦勞・経験が、情報技術の中で埋没してしまうことにもつながりかねない。しかし、我々の社会が健全に発展するためには、「故きを温ねて新しきを知る」ことも重要で、そのための方策も必要であろう。近年設立されたシニア情報知識学研究部会の意図は、その活動を通じてこうしたギャップを埋めることにも少しは役立ちたいということにある。



## 2011 年度 第 16 回情報知識学フォーラム

### 電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流

の開催にあたって

本フォーラムは、従来実施してきました SGML/XML 研修フォーラムを継承・発展させたものです。昨年度の電子書籍に関する第 15 回フォーラム『多様化する電子書籍端末と学術情報流通』はおかげさまで好評を博しましたが、あれから一年の間に、電子書籍とそれを取りまく端末・ビューワー、さらには利用者の意識などにも新しい流れが次々と出てきております。そこで、今年度も昨年度に引き続きまして電子書籍をテーマとし、その中でも特に電子書籍の各種フォーマットに焦点を当てた形でのフォーラムを開催いたします。

電子書籍の特長は、デジタル化による保管や複製の容易さは当然のことながら、従来のテキストにはなかった本文以外の情報を付加可能な点にあるのではないかと考えています。現在電子書籍においては、メタデータの記述やアノテーションを有効に活用することで、その制作プロセスから読者の読書体験までを大きく変える新しい「本」の形が実現しつつあります。そして、このような本文にプラスアルファされた情報を扱う技術の核にあるのが電子書籍フォーマットです。つまり、電子書籍の今後は電子書籍フォーマットによって決まるといっても過言ではないかと思えます。

本フォーラムでは現在日本で主流の電子書籍フォーマットや、今後の発展が有力視されている国際的なフォーマットなど、複数のフォーマットや電子書籍化の最前線で活躍されている当事者の方々から次のトピックに関して具体的な報告がなされます。

- \* 電子出版の可能性と印刷会社の役割
- \* 電子書籍フォーマット XMDF と作成環境
- \* 電子出版には、WEB ブラウザだけがればいい
- \* いま Adobe が考える電子出版の制作フロー

当事者の方々からの最新の情報を中心にして、電子書籍フォーマットとそれを取りまく新しい潮流についてのオープンな議論ができる場を提供できればと考えております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 16 回情報知識学フォーラム実行委員会

委員長 村井 源

〔プログラム〕

第 16 回情報知識学フォーラム 「電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流」

2011 年 10 月 29 日(土) 東京工業大学大岡山キャンパス大岡山西 9 号館

主催：情報知識学会

協賛：(社) 情報科学技術協会、(社) 日本印刷学会、(社) 日本印刷技術協会

13:30-13:35 開会挨拶 根岸正光 (情報知識学会会長)

13:35-14:25 講演 1: 千葉弘幸 (社団法人 日本印刷技術協会)  
「電子出版の可能性と印刷会社の役割」

14:25-15:05 講演 2: 花田恵太郎 (シャープ株式会社)  
「電子書籍フォーマット XPDF と作成環境」

15:05-15:25 休憩

15:25-16:05 講演 3: 林 純一(株式会社ボイジャー)  
「電子出版には、WEB ブラウザだけがあればいい」

16:05-16:45 講演 4: 岩本 崇(アドビシステムズ株式会社)  
「いま Adobe が考える電子出版の制作フロー」

16:10-17:15 総合討論  
司会: 原田隆史 (情報知識学フォーラム実行委員)

17:15-17:20 閉会挨拶 村井 源(情報知識学フォーラム実行委員長)

実行委員会：委員長 村井源 (東京工業大学助教)、顧問：根岸正光 (情報知識学会会長、国立情報学研究所名誉教授)、元実行委員長：長塚隆 (鶴見大学教授)、委員：小川恵司 (凸版印刷(株)情報技術研究室長)、原田隆史 (同志社大学准教授)、江草由佳 (国立教育政策研究所研究員)、白鳥裕 (大日本印刷(株)C&I 事業部 IT 開発本部室長)、阪口哲男 (筑波大学准教授)、高久雅生 (物質・材料研究機構主任エンジニア)

第16回情報知識学フォーラム予稿

## 「電子出版の可能性と印刷会社の役割」

### The chance of ebooks and the Printing Companies action

千葉 弘幸

Hiroyuki CHIBA

社団法人 日本印刷技術協会

Japan Association of Graphic Arts Technology

〒166-8539 東京都杉並区和田1-29-11

E-mail: [chiba@jagat.or.jp](mailto:chiba@jagat.or.jp)

2010年1月にアップル社がタブレット型PCのiPadを発表して以来、国内でも「電子書籍元年」と喧伝されることとなった。その後、出版社や大手書店、大手印刷、通信キャリア、電機メーカーが入り乱れて、電子書籍ビジネスに参入しようとしている。

また、電子書籍は出版社や書店、取次が関わる販売用の書籍・雑誌、新聞だけに限定されるものではない。さまざまな配布用の印刷物、商品カタログやチラシ、各種マニュアルや取扱説明書、教育分野など、商業出版以外の分野にも大きな影響がある。

そのような環境を想定すると、コンテンツの一元化を実現し、印刷と電子出版を同時に行うワンソースマルチユースがさらに求められるようになるだろう。文字と画像だけでなく、動画や音声も必要となる。印刷会社の役割として、このようなクライアントの要請に応じて、文字と画像、音声や動画などのコンテンツを編集・加工し、さまざまなソリューションやサービスを提供することが常に求められるだろう。

2010 年 1 月にアップル社がタブレット型 PC の iPad を発表したことで、日本国内でも電子書籍への期待や不安が膨張し、「電子書籍元年」と喧伝されることとなった。その後 1 年以上の時間が過ぎ、国内では出版社や大手書店、大手印刷、通信キャリア、電機メーカーが入り乱れて、電子書籍ビジネスに参入しようとしている。

2011 年 5 月には、縦組みやルビなど日本語対応が反映された国際的な電子書籍フォーマット EPUB3 の仕様案が確定した。2011 年内には、主要な Web ブラウザや電子書籍ビューアーが EPUB3 に対応し、制作ツールや環境が整備されていくことで、電子書籍コンテンツも増えていくことが予想される。

また、電子書籍は出版社や書店、取次が関わる販売用の書籍・雑誌、新聞だけに限定されるものではない。さまざまな配布用の印刷物、商品カタログやチラシ、各種マニュアルや取扱説明書、教育分野など、商業出版以外の分野にも大きな影響がある。

本稿では現在の電子書籍と電子出版の動向を整理し、さらに印刷会社から見た今後の課題について提言したい。

## ■電子書籍と Web の違い

Web とネットワークは、1990 年代半ばより世界的な広がりを見せ、膨大な量の情報流通を実現した。Web の場合、無料の情報発信を前提にすることが多かった。誰でも容易に膨大な情報にアクセスでき、さまざまな利用法が試されることで、急速に利用が拡大していったと考えられる。後にはさまざまな広告と連動するビジネスも増えていったが、Web コンテンツそのものを販売する方法が一般化することはなかったと言える。

近年のタブレット PC やスマートフォンは、モバイルデバイスの 1 つと言える。ネットワーク回線と接続する際には、ネットワーク上

の端末として利用できるが、パッケージ化されたコンテンツを購入し、ダウンロードして端末上で鑑賞することも容易におこなうことができる。コンテンツ提供者から見ると、ダウンロードする時点で課金をおこなうことは、コンテンツの無断コピーから保護するという面でも都合が良く、比較的にマネタイズに適していたと言える。

アマゾン社が自社の電子書籍専用リーダーである Kindle を発売したことで、世界で初めて大規模な電子書籍コンテンツの販売ビジネスを軌道に乗せたことは疑いない。アマゾン社の場合も、専用リーダーにコンテンツをダウンロードする時点で課金をおこなう方式が中心であった。

それに対して、もともと販売を目的としない書籍や出版物も存在する。たとえば、製品やサービスを販売するためのカタログ、パンフレット、チラシや製品マニュアルなどの印刷物がある。または、無料で配布されるフリーペーパー、フリーマガジン、広報紙などもある。

今後は、これらのような印刷物も電子書籍フォーマットのコンテンツとして、モバイルデバイス上で利用されることも増えていくだろう。言わば、無料であることを意図された電子書籍である。

出版ビジネスとして電子書籍・電子出版を捉えた場合は、課金・マネタイズの方法論が重要となる。販売ツールや情報伝達の手段としてモバイルデバイス上の電子書籍を捉えることも、重要な課題である

## ■電子書籍ビジネスを取り巻くプレーヤー

電子書籍ビジネスの分野ではリーダー端末を販売し、自社のサイトで専用コンテンツを販売するのがプラットフォーム企業である。例えば、米国では 2007 年よりアマゾン社が電子書籍リーダー端末の Kindle を発売し、専用

コンテンツをダウンロード販売している。2010年に第3世代のKindle3を発売したことで、販売台数は飛躍的に伸長し、累計で1000万台を超えたとされている。また、アマゾンにおける電子書籍コンテンツの販売冊数・売上げは、既に紙の書籍の販売冊数・売上げを上回っている。アマゾン以外の米国でのリーダー端末では、Sony リーダーやバーンズ&ノーブルのNookが代表的である。米国でも電子書籍市場は成長段階ではあるが、現時点でアマゾンがその牽引者であることは疑いない。

iPadは2010年4月に発売され、2011年にはiPad2となった。アップル社の発表によると、わずか1年3ヶ月の間に世界で2800万台が販売されたとのことである。iPadは標準の電子書籍フォーマットとしてEPUBを採用しており、標準の電子書籍ビューアーアプリであるiBooksを通じて、電子書籍を読むことができる。

グーグル社は、米国では2010年より電子書籍ストア「Google ebookstore」を開始し、300万タイトル以上の電子書籍が購入可能となっている。他社のダウンロード方式と異なり、PCやタブレットPCなどのWebブラウザからアクセスを行う端末に依存しない方式を採用している。

アマゾン、アップル、グーグルの3社は、日本国内でも電子書籍ビジネスの中心的存在となることが予想されていたが、2011年9月時点で日本語の電子書籍コンテンツは提供されていない。日本国内のコンテンツの整備・流通状況や出版社の動向を見て、参入時期を判断しているのではないだろうか。

国内では、2大印刷会社の存在感が大きい。大日本印刷は、国内最大級の電子書店「honto（ホント）」を開設した。更にNTTドコモと合併でNTTドコモ製スマートフォンやリーダー端末向けの専用ストア「2Dfacto（トゥ・ディファクト）」を開設した。コンテンツによ

ってWindowsPC、iPhone・iPad向け、Android向けなど幅広く対応している。

凸版印刷でも、グループ内のビットウェイなどとクラウド型電子書籍ストア「BookLive」を設立した。共通IDによって同一のコンテンツを複数端末で楽しむことができる。

音楽CDやDVDビデオのレンタルショップと書店を運営しているTSUTAYAは、シャープと提携し、新聞・雑誌・映像の配信サービス「TSUTAYA ガラパゴス」を開設した。当初はシャープ製のタブレット端末とスマートフォン限定だったが、その後他社製Android端末向けにもサービスを行っている。「TSUTAYA ガラパゴス」は、その後「ガラパゴス・ストア」および「TSUTAYA.com eBookS」と変更されたようだ。

新聞社では、日経と朝日新聞がデジタル版の有料配信を実施している。現在は、宅配購読者へ配慮した価格体系として、デジタル版の契約は割高に設定されている。しかし、着実に契約者は増えているとのことであり、電子書籍端末やスマートフォンでの新聞購読というスタイルが定着していると想定される。

このようにアマゾンやアップルなど海外で大きな成功を収めたプレーヤーに加えて、出版社や新聞社、コンテンツの配信・加工の中核となる大手印刷会社、通信キャリア、電機メーカー、大手書店が入り乱れて、新しい市場に参入しようとしている。今後は、限られたマーケットの中で激しいサービス競争が行われるため、結果的には淘汰が進み、ユーザーに受け入れられたサービスののみが生き残ることになるだろう。

#### ■混在する電子書籍端末

現在、電子書籍端末として期待されているものには、大きく分けると3種類ある。1つは、アップルのiPadに代表されるタブレットPCである。アップル以外にも世界の有力PC

メーカーが参入しており、5～10 インチの液晶ディスプレイとタッチパネル、OS に Android や Windows7 を搭載するものなどがある。電子書籍専用ではなく、映像・音楽・ゲームなどを楽しむことができる汎用端末である。

Kindle や Sony リーダーは、電子ペーパー方式でリーダーに特化した端末である。液晶方式に比べ、省バッテリーで軽く低価格が利点だが、現時点ではモノクロ専用である。

最後が、急速に普及が進むスマートフォンである。MM 総研によると、2011 年度の国内スマートフォン出荷台数は約 1900 万台、2015 年度には約 3000 万台と予測されている。スマートフォンは画面サイズも小さく、長時間の読書に適しているとは言えないが、新たにリーダー端末やタブレット PC を購入する必要がないため、手軽に電子書籍を楽しむことができる端末となる。また、日本でも Windows Phone 7 が発表されており、普及に拍車をかけることだろう。

米国では電子書籍専用リーダーの普及が電子書籍ブームの引き金になった側面が強いが、現時点の日本ではそのような様相は現れていない。むしろ急速に普及しつつあるスマートフォンは、ケータイコミックなど独自の文化を継承する可能性も高く、電子書籍端末としての発展も期待されている。

#### ■EPUB3 と今後の電子書籍フォーマット

電子書籍フォーマットの 1 つに、ディスプレイや表示サイズに応じて 1 画面の内容が変化するリフロー型がある。つまり、ページめくりだけの動作で読み進むことができるもので、EPUB、ドットブック、XMDF 等の種類がある。文字サイズと行の折り返しが可変であるところは、Web ブラウザの動きに似たものである。これに対し、紙面のレイアウトを重視し、ズーム・スクロールしながら読む PDF の

ような方式がレイアウト優先型（静的レイアウト型）である。

国内の PC 向け電子書籍フォーマットとして、これまで出版社が採用していたのは、シャープの XMDF とポイジャーのドットブックであり、縦組など日本語組版にも対応されてきた。しかし、このまま放置されると、各メーカーがさらに独自フォーマットや独自方式の端末に進んでしまい、適正なコンテンツの普及が阻害されるのではという懸念があった。そこで、XMDF とドットブックのフォーマットを統合し、「交換フォーマット」とすることで、国内の電子書籍コンテンツの制作・流通を円滑におこなうという試みが、2010 年度総務省の「新 ICT 利活用サービス創出支援事業」のプロジェクトの一つとして実施され、交換フォーマットも策定・公開された。既に電子化されていたコンテンツについて、今後は多様な端末や OS、ビューアー等への対応も迅速に進められるだろう。

また、EPUB は米国の電子書籍標準化団体である IDPF が策定する規格である。IDPF には、アドビ、アップル、グーグル、マイクロソフトなどの有力企業のほとんどと、日本企業でもソニーや大日本印刷、凸版印刷、日本電子出版協会（JEPA）などが参加しており、国際標準にもっとも近い存在となっている。また、障がい者のためのデジタル録音図書の国際標準化団体である DAISY コンソーシアムは、IDPF と協調関係にあり、相互に利用できるような規格の共通化が進められている。

2011 年 5 月、IDPF は EPUB3 の仕様案を公開した。EPUB3 では、ベースとなるコンテンツフォーマットが XHTML と SVG、及び CSS2.1 と CSS3 の一部に変更された。その他、縦書き表示など国際化対応、ビデオや音声のサポート、Javascript によるインタラクティブなコンテンツのサポート、読み上げ機能の強化、前述の DAISY との協調など大きな改善が図られ

ている。これらの改善によって、小説・実用書から雑誌・コミックなどのあらゆる出版物、アクセシビリティ対応を想定した電子書籍のグローバルスタンダードとして大きな一歩となるだろう。この後、権利関係の確認を経て、2011 年内には勧告仕様となる見込みである。EPUB3 では、縦書き、禁則、縦中横、ルビ、圏点などの日本語組版対応が実現する。

オープンソースのブラウザエンジン Webkit では、EPUB3 の実装が進められている。Safari や Google Chrome などの Web ブラウザや Apple iBooks などの電子書籍ビューアーも、Webkit を採用しているため、これらの最新版では縦書きなどの日本語組版や EPUB3 対応が既に実現している。

また、EPUB3 はオールマイティな出版フォーマットとも言える。小説・一般書だけでなく、雑誌・コミックから教育関連図書、広告・PR などの分野のフォーマットとして利用されることが増えていくだろう。

例えば、自治体の広報紙でも EPUB 版配信が始まっている。自治体の広報紙は、新聞折込やポスティングなどで配布されることが多い。しかし、現状では一軒に一部である。電子版であれば、低コストで一人に一部をタイムリーに配布することができる。動画を埋め込んだり、Web サイトへリンクを貼ることもできる。EPUB 版であれば、タブレット PC やスマートフォンで手軽に閲覧することができる。

電子書籍には、既定フォーマットのコンテンツが提供され、ビューアーを通して閲覧される場合と、コンテンツとビューアーが一体になったアプリとして提供される場合がある。モリサワの MCBook は、モリサワフォントの埋込みが可能なビューアー一体型アプリを制作するツールセットである。同様な方式ではダイヤモンド社の DReader も、ビューアー一体型アプリのツールセットである。

さらに、電子雑誌や電子カタログの分野で

は、画像（静的レイアウト）方式が実用的であり、普及している。数多くの新聞・雑誌の電子配信サービスが、ヤッパ社の電子書籍ソリューション「SpinMedia」を使用して、iPad・iPhone、Android 端末向けに配信を行っている。日経電子版や産経新聞デジタルでは、紙面イメージをそのまま電子版として配信している。高速表示を実現しているため、ストレスなく閲覧することができる。電子雑誌配信の「MAGASTORE」「ビューン」の他、「楽天チラよみ」「Yahoo!コミック」「R25」「手塚治虫マガジン」などのサービスでもこの仕組みが利用されている。印刷用の PDF データをそのまま利用するため、制作コストや時間がかからないこと、PDF 画像より圧縮率が高く、ズームやスクロールの速度が非常に速いことが特徴である。

「ニッセン」や「ベルメゾン」など、通販カタログの大手でも、このソリューションを利用した iPad 版カタログをスタートしている。iPad や Android 版通販カタログは、印刷カタログと同様な「ながら見」に適しているだけでなく、購入・決済画面に直結していることや動画へのリンク、ソーシャルネットワークとの連携など、実用性が期待されている。

アプリ形式で電子書籍コンテンツを提供する場合のリスクとして、将来、新しいバージョンの端末が発売された時に旧バージョンのコンテンツが見られない事態が起こる可能性がある。そのような場合、過去に提供したアプリを全てアップデートするなどの対応が必要となる。

## ■コンテンツの制作方法と印刷物への影響

電子書籍コンテンツの制作方法は、どのような方向へ進んでいくのだろうか。また、印刷物への影響を考えると、コンテンツそのものを販売する商業出版以上に、社内利用や販促目的の電子出版はインパクトがある。

新規に電子雑誌・電子書籍を制作することを考えた場合、まず従来通り印刷物をターゲットに編集・制作を行い、その後電子版にデータを流用するスタイルが主流と考えられる。例えば、InDesign などのアプリケーションで制作された印刷用データから EPUB 書き出しを行い、電子書籍用に編集・加工する。必要に応じて Web や EPUB 用の編集ツールも使用する。自動変換できない部分は、人手で補完する方法である。印刷用データを優先する理由は、現時点では販売の主流が印刷物であることと、比較的流用が容易であることが挙げられる。ただし、複数の電子書籍デバイスやフォーマットに変換する場合は、流用のための編集や校正作業が煩雑になる可能性がある。それらの手間や外字対応など、どのように作業を軽減するかが課題となるだろう。

辞書や教育関連書籍では、電子出版の位置づけが、更に大きくなっていくだろう。受験対策、資格教育、専門教育など教育関連分野は、同じコンテンツを再編集、再加工して利用する比率が高いという特徴があるため、できるだけ自動化して校正の負担を減らすことが重要となる。印刷物や電子版に限らず、共通のコンテンツを利用することが求められている。

したがって、従来のように印刷物ありきで編集・制作を行い、印刷用データを電子版に転用するのではなく、あらかじめ共通のコンテンツを整備した上で、電子版と印刷物を同時制作する手法が広がっていくだろう。

マニュアルや企業内ドキュメント、技術資料、論文集、公共の資料・刊行物、広報紙などは、むしろ電子出版が先行する分野である。印刷物を制作して配布する手間や経費、在庫保管や更新のコストを考えると、電子版の制作・配信を先行させ、印刷コストを最小限にすることが求められることになるだろう。

製品カタログや通販カタログ、チラシやパ

ンフレットも、印刷と電子出版が同時に行われる分野である。データベースを整備してコンテンツの一元化を図り、電子版と印刷物を同時制作する手法が一般化していくだろう。商品説明や操作説明、イメージ訴求など、動画組み込みは大きなインパクトがある。電子化することで、動画や音声を組み込むことや Web サイトへリンクを貼ることも可能となる。

今までも PC や Web は、さまざまな情報を伝達する媒体として利用されてきた。音声や動画も扱うことができた。一般家庭にも普及が進んでいた。しかし、今後はタブレット PC や電子書籍リーダー、スマートフォンなど、様々なモバイルデバイス（電子書籍端末）が普及していくことは間違いない。よりパーソナルな利用法が浸透していくだろう。例えば、iPad を使った電子カタログやプレゼンツール、電子マニュアルのシステムなども増えてゆく。また、文字や画像を扱うあらゆる印刷物は、電子媒体と並行して制作され、利用されるようになっていくだろう。

そのような環境を想定すると、コンテンツの一元化を実現し、印刷と電子出版を同時に行うワンソースマルチユースがさらに求められるようになるだろう。文字と画像だけでなく、動画や音声も必要となる。印刷会社の役割として、このようなクライアントの要請に応じて、文字と画像、音声や動画などのコンテンツを編集・加工し、さまざまなソリューションやサービスを提供することが常に求められるだろう。

現時点では、電子書籍のコンテンツ制作やアプリ開発など、印刷会社で対応できることは少ないかもしれない。さらに動画や音声コンテンツへの対応も進んでいるところは少数だろう。しかし、印刷物と電子書籍コンテンツ制作の一元化が進んでいる現在、これらの対応が遅れることは今後のビジネスにおいて厳しい状況と言わざるを得ない。早急に体制

や人材を整備し、実績を積み重ねていく努力が必要となる。そのためには、社外パートナーとの連携や人材育成・教育がより重要となってくるだろう。

電子出版のためのコンテンツ制作・加工は進化の激しい分野であり、競合は印刷会社だ

けではない。厳しい競争に晒されることが考えられるため、従来以上に得意分野を持つこと、差別化できることが重要となってくるだろう。

(社団法人日本印刷技術協会 千葉 弘幸)

第16回情報知識学フォーラム予稿

## 電子書籍フォーマットXMDFと作成環境

### **XMDF E-Book Format And Its Authoring Tools**

花田恵太郎<sup>1\*</sup>, 梅本あずさ<sup>1</sup>, 沢田裕司<sup>1</sup>, 齋鹿尚史<sup>1</sup>,  
Keitaro HANADA<sup>1\*</sup>, Azusa UMEMOTO<sup>1</sup>, Yuji SAWADA<sup>1</sup>, Hisashi SAIGA<sup>1</sup>

1 シャープ株式会社 通信システム事業本部 ネットワークサービス事業推進センター  
コンテンツシステム開発室

Content System Department, Network Service Business Center, Communication Systems  
Group, Sharp Corporation

〒632-8567 奈良県天理市樺本町2613番地の1

XMDFはシャープが開発した電子書籍フォーマットおよび技術である。2001年にXMDFを用いた電子書籍配信サービスを開始して以来、コンテンツのジャンル、普及の両面で大きく拡大している。2010年10月には、表現力を大きく向上させたXMDF3.0 を発表し、これに基づいた新規電子書籍サービスを開始している。XMDFは単なるフォーマットではなく、他フォーマットも含めて様々なコンテンツをパッケージして配信するためのコンテンツコンテナへと進化している。

本稿ではXMDF3.0で採用した新機能を中心とする技術とコンテンツ作成環境について解説する。多様化する電子書籍に対するニーズにこたえるため、高い表現力をもったコンテンツを、低いコストで作成できるソリューションを提供している。今後も、XMDF技術を応用して、電子書籍産業の拡大に貢献していくことを目指している。

This paper describes XMDF e-book data format and technologies, which have been developed by Sharp Corporation. The first e-book service based on XMDF started in 2001 and XMDF has expanded drastically in content genres and popularity ever since. It has also evolved to be a “content container” that packages contents of various formats not limited to XMDF for distribution.

The paper focuses on new features introduced with XMDF 3.0, its latest version. XMDF content production tools, which enable production of contents with a strong expression power at low costs, are also explained.

The authors are aiming to continue their contribution to the e-book industry with XMDF technologies, catering to diversifying needs in the market.

## 1 はじめに

2010年は電子書籍元年という表現をよく目にした年であり、電子書籍に関する新たな取り組みが数多く発表された。シャープ株式会社も2010年12月にクラウドメディア事業「GALAPAGOS」の第一弾として、電子ブックストアサービスと専用メディアタブレット端末の販売を開始している。当社の電子書籍サービスの取り組みは最近始めたものではなく2001年にまでさかのぼることが出来る。

本稿では、当社が開発した電子書籍向けの配信プラットフォームであるXMDFの最新状況について紹介する。

## 2 XMDF技術とその進化

### 2.1 XMDFとは

XMDF(ever-eXtending Mobile Document Format)は、2001年に当社の携帯端末「ザウルス」向け電子書籍サービスを支える電子書籍フォーマットとして産声を上げた。日本語に訳せば、「進化し続ける携帯機器向け文書フォーマット」である。その名のとおり、電子コンテンツに対する要求と、携帯端末の変化に合わせて進化を続け、現在では国内の文字物(小説)系電子書籍のデファクトスタンダードとなっている。XMDFに関してはいくつかの文献[1][2][3][4]で解説されているので詳細な説明は割愛するが、簡単にまとめる以下の特長を持つ。

- ・ コンテンツは、XMLの記述フォーマットで作成し、それを独自バイナリの実行フォーマット、さらには暗号+改ざん検出付き配付フォーマットに変換する
- ・ 日本語表現に必要となる、縦書き、ルビ、禁則、外字などに対応し、音声や動画などのマルチメディア機能を有する

- ・ 文字物だけではなく、辞書、コミック機能を有する
- ・ 記述フォーマットは国際標準(IEC62448 Ed. 2 Annex B)として発行済み

### 2.2 XMDFの進化

図1はXMDFの進化を示す図である。XMDFはCPUパワーやメモリ量で大きな制約がある携帯機器においても、軽快な動作を提供することを目標としている。フォーマットの策定だけではなくコンテンツ作成環境、ビューアソフトウェアをトータルソリューションとして提供することにより、たとえ異なるメーカーの端末であっても、コンテンツ表示同一性と軽快なパフォーマンスを実現してきた。ターゲットとする端末がサービス開始当時の携帯端末から携帯電話へと変わることにより、ユーザ層も大きく変化し、コンテンツも従来の文字物に加えてコミックへの対応を行ってきた。

近年、端末はスマートフォン、あるいはタブレット端末へと大きく変化し、通信環境の充実、表現・処理能力の向上を受けて、よりビジュアルな雑誌や、速報性の高い新聞など新しいカテゴリのコンテンツに対する要求が高まってきている。

そこで我々は、そういった新聞・雑誌向けの表現力・機能も実現するXMDF3.0を開発した。

### 3 XMDF3.0

一般に書籍などの印刷物は、600～1200dpi程度の印刷解像度を持ち、特に新聞、雑誌においては物理的な紙面サイズもA1～A4サイズと幅が広い。一方、現在の表示デバイスは、150～300dpi程度の解像度であり、当社のメ

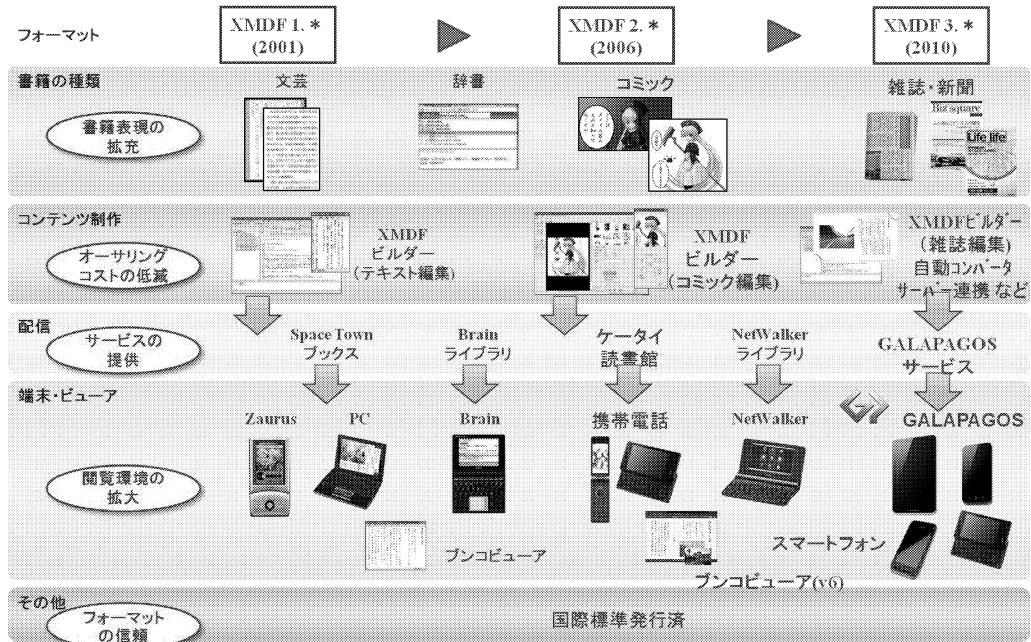


図 1 XMDF の進化

ディアタブレット端末であるGALAPAGOS端末においても物理的な大きさは5.5, 7, 10.8インチ, 画面の画素数は1024x600, 1366x800しかない。そのため、紙の1ページを、そのまま表示デバイスで十分な閲覧性を保持したまま表示することは困難である。

一方、紙書籍、特に新聞・雑誌の表現バリエーションは多岐に渡る。紙書籍は、読者へのアピールと読み易さが究極まで追求されているものである。出版社は、紙の重さから拘り、コンテンツに応じた紙の色やフォント選び、紙面レイアウト、文章の校閲・校正、見出しのインパクト性や読み易さを追求した組み版の微修正、大量の写真からベストの1枚を選択するなど、編集者のセンスを最大限に発揮した紙面作りが行われている。その結果、様々な紙面体裁が生み出され、無限に変化していると言える。

したがって、新聞・雑誌の電子書籍化においては、紙に比べ圧倒的に少ない解像度・画素数の表示デバイスで多様な表現を実現する必要がある。さらにその上で、電子ならではの機能をもつことも要求される。

また一方で、従来の紙で出版されている新聞、雑誌のデータを用いて、最低限のコストで電子化を行いたいという要求も多い。

そこで我々は、XMDF3.0において以下に述べる機能を採用し、様々な要求に対してフレキシブルに対応することとした。

### 3.1 リフロー

リフローは紙の1ページをそのまま表示するのではなく、端末の画面サイズやユーザが指定する文字サイズに応じて、動的にレイアウトして表示する方式である。この方式では、紙の1ページと電子書籍の1ページは対応し

ないが、文字の大きさを変化することによりレイアウトが崩れることがなくなる。また、動的にレイアウトするので、同じコンテンツを表示デバイスの異なる様々な端末で利用することが可能である。

リフローは、挿絵画像が入る程度の小説系では比較的容易だが、様々なレイアウトを使用する新聞・雑誌への適用は困難であった。これらの多様な表現に対応するため、従来の縦書き、ルビ、外字、禁則などだけではなく、下記の機能拡張を行っている。

#### ・自動段組み

一つのテキスト領域内において、コンテンツの設定に応じて、自動的に段組みを行い、その数も変化させる機能である。1行の最少文字数、最大文字数を設定することにより、ビューアはこれら設定値に基づき、段数を決定し段組みを行う。もちろん、縦書き、横書きのどちらでも自動段組みは有効である。また、段組み間の罫線設定や、罫線を小片画像の繰り返しで表現する「飾り罫線」も設定可能である。

#### ・画像の段端表示

段の境界で分離されると判断された画像を、一方の段の端に表示する機能である。これは、上記自動段組を単純に実現すると、テキスト内の画像が別の段(上下、または左右の段)に分離されるケースが出てくるため、これを防ぐ為に導入した。

#### ・文字、ルビ、字間、行間、余白設定

文字、字間、行間、余白のサイズ等の設定をより詳細設定できるように強化した。また、ルビサイズも設定可能である。

また、上記の他、改行幅の設定、均等割り付けの右寄せ、左寄せ、中央寄せ設定、縦書き時と横書き時で表示内容を切り替える設

定(例えば、縦書き時は「左図」、横書き時は「下図」)、なども導入し、より細やかな設定も可能とした。

このように、XMDF 3.0では、記事毎、端末毎、持ち方向毎、行方向毎に、自由に文字領域、画像領域が設定でき、さらに文字領域の中にも画像がインライン、回り込みなど自由に設定することを可能とした。これらを組み合わせることにより多彩なバリエーションを実現している。

### 3.2 レイアウトパターン

新聞・雑誌は変化無限と言っても、基本的には画像とテキストで構成されている。

XMDF3.0では、対象表示デバイスに合わせて、これらの領域を自由に設定できるレイアウトパターンを導入した。レイアウトパターンの画像領域は、ページをめくっても常に表示され続ける固定領域としている。この目的は、テキストと画像の対応付けを実現する為である。

例えば、紙の新聞では、1つの記事の文章と画像が常に見える。これは紙の場合、ページという概念だけを念頭において、関連する文章と画像を配置すればそのままの形で読者に提供できる。しかし端末の限られたスペースでページをそのまま表示することは不可能な上、リフローを行うことにより文章と画像の位置関係が大きく変わる事となる。「その写真を参照している文章にも関わらず、写真が見えない」という問題を解決する為に画像の固定領域を設けた。

また、固定領域を用いれば、新聞・雑誌のロゴ、見出し、記事ヘッダーなどを常に表示し続け、「そのコンテンツらしさ」を表現することも可能となる。

一つのレイアウトパターンには、自由に、

いくつでも文字領域、画像領域を設定することを可能とした。また、複数の見せ方、端末スペックに対応したレイアウトパターンを持つことも可能にしている。例えば、下記のようなバリエーションに対応するレイアウトパターンを持つことにより、さまざまなユーザの要求や端末に合わせて、最適な表示を実現することが可能となる。

- ・端末の縦持ち用・横持ち用
- ・縦書き用・横書き用
- ・画面解像度、画素数、アスペクト（縦横）

比

GALAPAGOS端末だけを例にとっても、5.5型、7型と10.8型では、それぞれ画面の画素

数が異なる。これに、それぞれの縦持ち用・横持ち用、縦書き用・横書き用でレイアウトを変える場合は、組み合わせを格納する事になる（図2）。

ビューアは、現在の端末向けに最適化されたレイアウトパターンがあればそれを使用し、なければ、最も近い端末向けレイアウトパターンを使用して、指定されているアスペクト比を保存した表示を行う。

リフローとレイアウトパターンを用いた表示の切り替え例を図3に示す。

なお、画像は常に固定化されるわけではない。ページをめくると表示されなくなる画像は、後述のテキスト領域内で設定可能である。



図2 レイアウトパターン

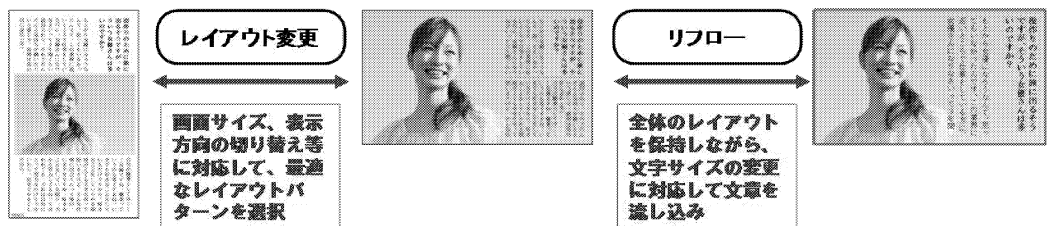


図3 リフローとレイアウトパターンを用いた表示の切り替え例

### 3.3 イメージ型

上述のようなさまざまな表現を実現するXMDF3.0であるが、一方で従来の紙で出版されている新聞、雑誌のデータを用いて、最低限のコストで電子化を行いたいという要求も高いため、版面画像をベースとした形式も採用している。これをイメージ型と呼ぶ。

イメージ型では、全てのページを高解像度の画像で構成している。レイアウト計算が不要なため、拡大／縮小表示や、ページをばらめくるような使い方、ページのサムネイルを並べて表示し、読みたいページを拡大し、ドラッグして読むという読み方などを手軽に行うことが可能となっている。

この形式では、画面が縦方向に長いときには片面のみ表示し、横方向に長いときには見開きで表示することも可能とした。また、右綴じ／左綴じによる見開き左右の並びの制御も可能とした。

### 3.4 ハイブリッド型

イメージ型は、作成者にとっては最低限のコストでコンテンツを作成できるメリットがあるが、読む側にとっては拡大・縮小と上下左右のスクロールを繰り返し行う必要があり、特に複数段にわたるテキスト部分を読むためには煩雑な操作を強いられることになる。

そこで我々は、上記イメージデータの各ページに、その中に含まれるテキスト部分のみをXMDF3.0で表現したものを付加し、イメージとテキストを簡単な操作で行き来しながら読む形式を採用した。これをハイブリッド型と呼ぶ。ハイブリッド型においては、全体のレイアウトや写真はイメージデータで閲覧し、細かい記事の内容を読むときはテキス

トモードに切り替えて、読み進める。テキストモードはXMDF3.0形式なので、リフローとレイアウトパターンを活用して最適な設定でテキストを読むことが可能となる。

コンテンツの制作者は、紙の書籍を作成する過程で必要となるテキストデータと、最終でき上がりのイメージデータさえあればハイブリッド型のコンテンツを作成することができ、非常に低コストで電子書籍ビジネスに参入することが可能となる。

## 4 XMDFのコンテンツ作成環境

電子書籍が普及するためには、その作成環境の充実が鍵となる。コンテンツプロバイダからみれば、従来の紙による書籍の作成に加えて、電子書籍の作成作業が必要となり、時間的にもコスト的にも負担が大きくなる。従来の書籍作成環境をうまく活用しながら、自動化などの機能を備えることにより、電子書籍を簡単に作成する環境を提供しないと普及はあり得ない。

電子書籍は、各社が保持するデータを元に制作することが多い。その制作作業は、データを整形・編集して電子書籍に仕上げる変換作業と、仕上がった電子書籍の内容が正しいか確認する査読作業との、2つの作業に大別できる（図4）。

### 4.1 XMDFビルダー

変換作業においては、次のような様々なデータの編集が行われる。

- ・日本語特有の圏点・ルビ・縦中横の付与
- ・インデントや揃えなどのレイアウトの調整
- ・表示できない文字(外字)の抽出と画像の作成
- ・画像の挿入位置の指定や画質の調整

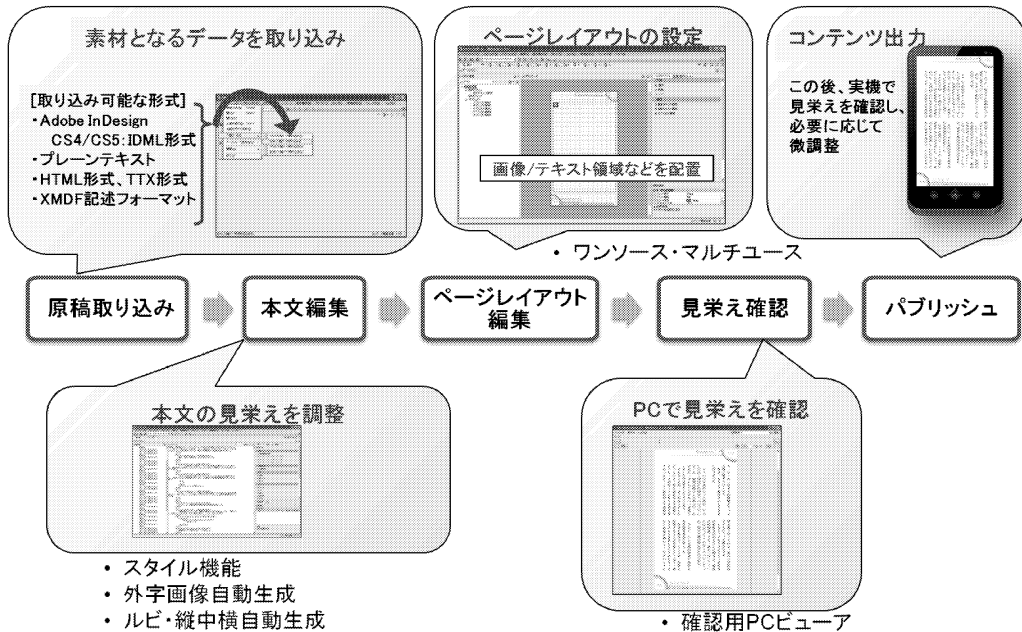


図 4 制作作業の流れ

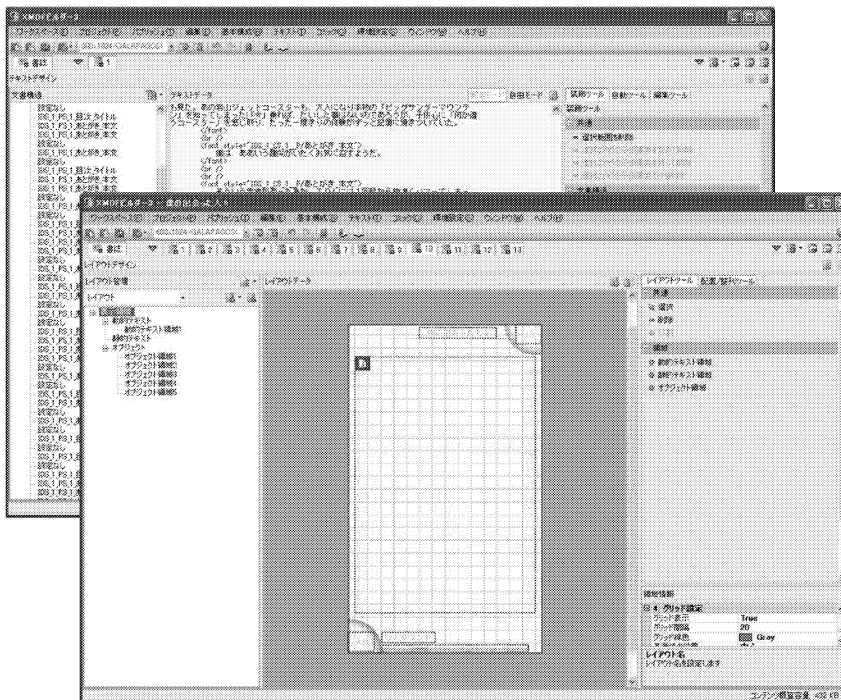


図 5 XMDF ビルダー

・紙書籍では存在しないハイパーリンク、動画や音声の指定

上述の変換作業を行い、XMDF形式の電子書籍を制作するためのツールとして、当社はXMDFビルダーを提供している（図5）。XMDFビルダーでは、次の機能を提供することで作業量を削減して効率化を図っている。

#### 4.1.1 各種データの取り込み機能

各社が保持するデータは、テキストファイルやHTMLファイル、印刷用データのファイルなど多種多様である。これらデータ形式に応じて編集作業の内容が変わるため、データ形式が複数の場合は、より多くの作業が発生することになる。

XMDFビルダーでは、これらのデータを取り込む場合に、XMDF記述フォーマットと呼ばれる共通のXMLファイルに自動でデータ変換する。これにより、多種多様なデータ形式は共通のXMLファイルとして編集することが可能となる。

#### 4.1.2 スタイル機能

書籍では、見出しを本文より文字サイズを大きくして文字色を変えるなどの表現が見られる。このような表現は、表示する端末に応じてユーザに見やすいように調整することが多く、繰り返し同じ表現に編集し直す作業が発生する。この課題をスタイルという機能で解決している。

スタイルとは同じ表現をまとめて指定できる機能である。例えば、「見出し」というスタイルは文字サイズを「大」、文字色を「青」とする指定をして、各見出しの文字列の範囲にスタイル「見出し」を指定する。後から文字色を赤に変えたい場合、スタイル「見出し」

の中の文字色「青」を「赤」に変更するだけで、全ての見出しの文字列を赤へ変更することを可能とした。文字色や文字サイズの指定の他、スタイルには改行や改ページも挿入できるようにしている。このスタイルの機能の導入により、統一的なレイアウトの調整が可能となっている。

#### 4.1.3 外字画像の自動生成機能

現状、日本語を表示する端末の多くはShift\_JISで文字を扱っている。従って、JIS第1・2水準の範囲の文字のみが表現可能となっており、JIS第3・4水準やUnicodeの範囲の文字は表現することができない端末も多い。書籍では、異体字などの表現も多いため、端末で表現できない文字は外字として扱い、XMDF形式では画像として埋め込んでいる。制作者は、どの文字が端末で表示可能かを判断する必要があり、表示できない文字であれば外字画像を作成する作業が発生する。

XMDFビルダーでは、端末で表示できる文字かどうかを判断し、表示できない文字については、予め指定したフォントを利用して画像を生成し、表示不可能な文字を画像で置き換える処理を自動で行う機能を搭載している。

#### 4.1.4 ルビ、縦中横の自動生成機能

日本語特有の表現であるルビや縦中横は、単純なテキストファイルではデータを指定できないため、XMDF記述フォーマットのXMLファイルで大量に指定していく必要がある。

そこで、ルビを指定する機能として、ルビ文字とルビを指定する親文字との対応テーブルを準備し、親文字に対応するテキストを検出して自動でルビを付与することとした。また、縦中横を指定する機能として、英数字や記号など指定された文字とその文字が連

続する数を指定することで、自動で縦中横を付与することとした。

X MDFビルダーでは、このような自動生成機能を導入することにより、作業の軽減を行っている。

#### 4.1.5 ワンソースマルチユース機能

電子書籍をより見やすいレイアウトで閲覧できるようにするためには、端末の画面サイズに応じてコンテンツを制作し分ける必要がある。しかしながら、端末ごとに電子書籍を一から制作し直しては作業が非常に多くなってしまう。

X MDFビルダーでは、一度編集した電子書籍のデータを再利用し、端末の画面サイズに応じて、領域や画像の大きさを自動で拡大縮小する機能を導入している。これをワンソースマルチユース機能と呼んでいる。

この機能により、一度の編集作業で、複数の端末、複数の画面サイズに適した電子書籍を、同時に制作することが可能となる。（図5）

#### 4.2 Hybridコンバータ

Hybrid コンバータは、イメージ型とハイブリッド型の電子書籍を制作するためのソフトウェアである。

紙書籍の版面を表現するPDFファイルとそれに対応するテキストデータを準備し、順番を指定するだけで電子書籍へ変換が可能である。

予め設定したテキストデータの整形規則を用いて自動変換する機能により、同じレイアウトの電子書籍を大量に生成することが可能となっている。

#### 4.3 確認用PCビューア

査読作業において、制作した電子書籍の表示を確認するには、実際に閲覧する端末で確認するのが最適である。しかしながら、端末への電子書籍の受け渡しの手間や、確認した内容を電子書籍と対応づけて残せないなどの課題がある。

そこで、PC上で電子書籍を閲覧することにより査読作業を可能とする、確認用PCビューアを提供している。確認用PCビューアでは、以下の機能で査読作業の効率化を図っている。

##### 4.3.1 端末プロファイル切り替え機能

査読する端末の環境に合わせて表示する機能である。画面サイズやフォント名など端末の環境を予め設定しておき、設定した環境を選択するだけで表示が変更され、複数の端末環境での査読作業を同時にできるようにしている。

##### 4.3.2 メモ機能

査読作業を行いながら確認した内容をメモすることができる機能である。このメモは、製作者と査読者との間で情報伝達を行うために利用するものである。メモした内容は一覧表示から選択することにより、該当箇所へ表示を移動させることができる。

### 5 外部データの活用

X MDF以外にも、ドットブック形式[5]やHTML形式など、様々なコンテンツ記述フォーマットが存在し、また、それらのフォーマットで作成されたコンテンツも多数存在する。今後は動画や音声等、様々なメディアを含む書籍の流通も増えてくることが期待されている。当社は、X MDF以外のフォーマットを、

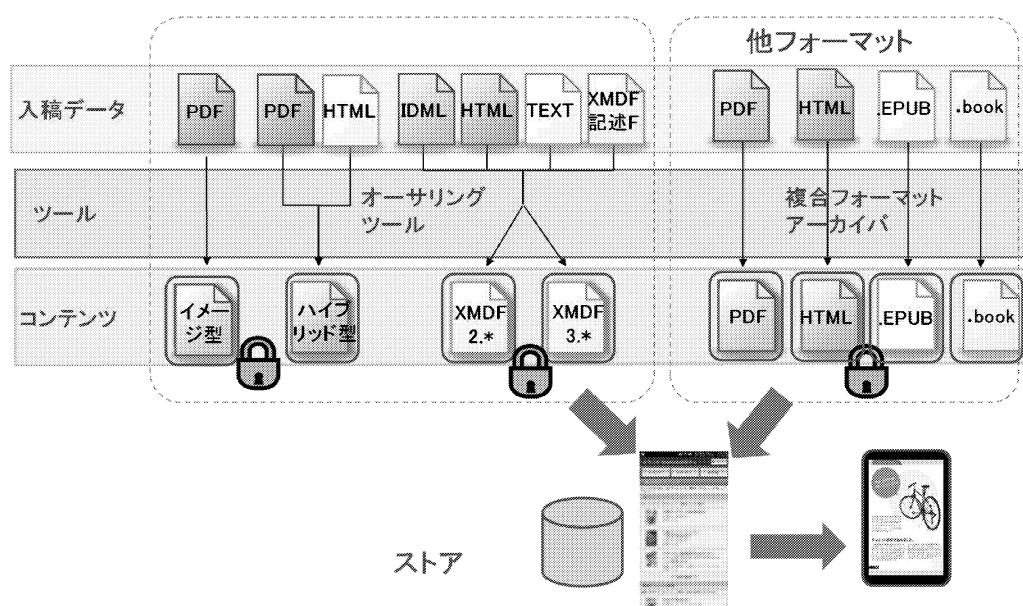


図6 コンテンツコンテナの概念

競合相手（排除対象）ではなく、貴重なコンテンツ資産であると考えている。ゆえに、それらコンテンツ資産を活用すべく、X MDFを単なるフォーマットではなく、様々なコンテンツをパッケージ化して配信することが可能なコンテンツコンテナとして進化させている（図6）。

X MDFがコンテンツコンテナとして機能するよう、複合フォーマットアーカイバを導入した。複合フォーマットアーカイバは、X MDF以外のフォーマットも一緒にパッケージすることができるアプリケーションである。複数の電子書籍の順番を指定するだけで、一つの電子書籍に生成し直すことを可能としている。

このアプリケーションの導入により、他フォーマットも配信することが可能となるほか、1つの電子書籍を複数人で分担し効率的に制作することも可能となった。

## 6 むすび

2011年も引き続き電子書籍事業への参入が相次いでおり、一層の成長が期待されているが、一方で電子コンテンツを作成するための時間的・金銭的成本が課題となってきた。出版業界としても全面的に紙から電子へのシフトというのは考えにくく、コンテンツ作成に関して、紙と電子の二重投資が必要な状況である。

当社では、本稿で紹介したX MDFビルダーを、電子書籍作成目的利用のために無償で提供している。X MDFビルダーのダウンロードなどに関してはホームページ[6]を参照されたい。ビルダーを利用することにより、電子書籍作成のコストを少しでも下げることができると自負しているので、一冊でも多くの電子書籍を制作していただければ幸甚である。

HTML5やEPUB3.0など、新しい電子メディアの創出に主眼を置いたフォーマットも使われはじめているが、我々はこのような新しいフォーマットも活用しながら、新しい表現形式の創出とコンテンツ作成コスト

の低減により、電子書籍産業の発展に貢献していきたい。

## 参考文献

- [1] 北村;岩崎;田中:「電子出版とXPDF技術」, シャープ技報, 第84号, pp.13-17, 2002.
- [2] 田中:「電子出版文書フォーマット技術動向調査報告書2010-2011」, インプレスR&D, 5.8, 2002.
- [3] 中村:「国内電子ブック状況とXPDFのご紹介」, 「デジタル・ネットワーク社会における出版物利用活用の推進に関する懇談会」資料技, 2-2, 2010.
- [4] 花田:「電子書籍に対するシャープの取り組み」, ARIB機関誌, No.73, 2011.
- [5] 株式会社ボイジャー:ドットブックの特徴,  
<http://www.voyager.co.jp/dotbook/dotbook.html>
- [6] シャープ株式会社:XPDF情報スクエア,  
<http://www.xpdf.jp/>

第16回情報知識学フォーラム予稿

## 電子出版には、WEB ブラウザだけがあればいい

## E-Publishing needs only Web Browsers

小池利明<sup>1\*</sup>, 林 純一<sup>2</sup>

Toshiaki KOIKE <sup>1\*</sup>, Junnichi HAYASHI <sup>2</sup>

### 1 株式会社ボイジャー

Voyager Japan, Inc.

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-41-14

E-mail: koike@voyager.co.jp

### 2 株式会社ボイジャー

Voyager Japan, Inc.

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-41-14

E-mail: j-hayashi@voyager.co.jp

### \* 連絡先著者 Corresponding Author

「電子書籍元年」は2010年と言われるが、日本の電子書籍にはもっと長い歴史がある。ボイジャーは日本の出版社の協力を得ながら、2000年にはリフロー型の電子書籍向け日本語の文字組をほぼ完成している。一方、2008年のiPhone登場以降、電子的な「読書」に世間の関心が集まるようになった。そして多様なOS、ハード、電子書店が登場した。ここでは規格の統一はなされず、読者はその中で読書を強いられている。ボイジャーは未来の著者と出版社と読者のために、Webブラウザでの新たな読書スタイル=Books in Browsersに帰結する。Books in BrowsersはOSにもハードにも左右されない。日本の電子書籍で必要とされる文字組をWebブラウザで実現し、購入から閲覧、ソーシャルリーディングまで、Webブラウザだけでシームレスに完結するものである。

株式会社ボーイジャーは、1992年の創立以来、一貫して電子出版を生業としてきた会社である。まだ「電子書籍」などという概念がなかった時代にパソコンによる読書を提唱し、そして「ドットブック(.book)」というフォーマットで、電子書籍における文字組とはどうあるべきか、出版社とともに作り上げてきた。本稿では、これまでの電子書籍の文字組と、電子的な読書体験を振り返りながら、これからの電子出版に対する提案を述べてみたい。

## 1 電子書籍の文字組を考える

### 1.1 日本語電子書籍の文字組の歩み

2010年、何度となく耳にした「電子書籍元年」という言葉。実際に電子書籍に携わってきた人々にとって、違和感のある言葉ではなかっただろうか。

電子書籍専用フォーマットであるボーイジャーの「ドットブック(.book)」も、シャープのXMDFも約10年の歴史がある。

しかし、日本における「電子書籍」の歴史は、ビューアとフォーマットだけの歴史ではない。出版社による電子出版への取り組みの歴史でもある。

まだ「電子書籍」という用語もなかった時代、紙の組版をどうやってパソコン上で再現するか、それは果たして読みやすいのか…

そうした取り組みが「電子書籍」の組版のあり方を具現化していった。

ここでは、まず電子書籍の文字組について、歴史的な経緯を振り返ることで、どのように事例が蓄積されていったのかを述べてみたいと思う。

### 1.2 電子による固定版面

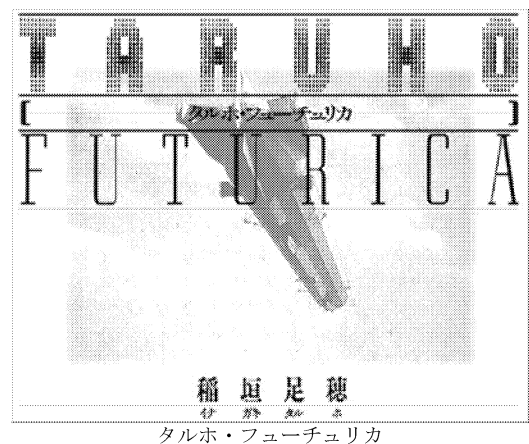
#### 1.2.1 ボイジャーのエキスパンド・ブック

先に「ドットブック(.book)」というボーイジャーの電子書籍専用フォーマットについて書

いたが、ボーイジャーが電子出版をスタートさせたのは、ドットブックの誕生よりもはるか前、1992年のことである。1992年1月、米サンタモニカで誕生した「エキスパンド・ブック」は、アップル・コンピュータ（現アップル）のHyperCardというMacintosh用のソフトウェアを使ったものだった。

翌1993年「日本語版エキスパンド・ブック」を開発、オーサリングツールである「エキスパンド・ブック・ツールキット」と、エキスパンド・ブックを使った、はじめての日本語の電子出版物である「稲垣足穂作品集『TARUHO FUTURICA』（タルホ・フューチュリカ）」をFD（フロッピーディスク）でリリースした。

この当時のエキスパンド・ブックは横書き表示であり、満足のいく日本語書籍とはいえないものであったが、それでも「パソコンの画面で本を読む」という試みがここにスタートする。

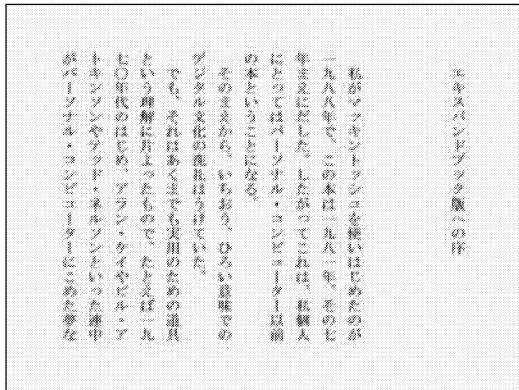


当時は「電子書籍」という言葉はなく、私たちはこれを「電子本」と呼んだ。

1995年5月に「エキスパンドブックツールキットⅡ」をリリース。

この「エキスパンドブックツールキットⅡ」は、縦書き、ルビ、禁則といった日本語書籍の文字組の特徴をそなえたもので、このツー

ルを使い、同年、新潮社より「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」がリリースされベストセラーとなる。この時点で、「一定の条件下」では、電子書籍における文字組はほぼ完成していたと言えるかもしれない。



エクスパンド・ブック版  
「小さなメディアの必要」(津野海太郎 著)

### 1.2.2 画面で読むエクスパンド・ブック

この当時、パソコンの画面で本を読む、という概念自体が無かったため、エクスパンド・ブックは PDF との比較されることがあった。現在では、電子書籍としての PDF も作成されているが、当時は PDF は印刷して読むもの、という位置づけであり、エクスパンド・ブックにも印刷機能を求める声があった。

エクスパンド・ブックは、あくまでも「電子本」である。パソコンの画面で読むために、最適な文字サイズや行の長さを考慮した作りになっている。また、現実の本のメタファーではあるが、あえて見開きは行わず、単ページ表示することでも読みやすさを追求した。現在の電子書籍においては常識的な機能であるが、ページネーションも大きな特徴である。当時はウィンドウのテキストを読む際には「スクロール」が常識だった。エクスパンドブックではオーサリング時に自動的にテキストのページ割り付けを行ない、スクロールで

はなく、ページめくりで読み進めることができるようにした。

当時の PDF は、DTP ソフトで作成されたデータを、レイアウトを保ったままポータビリティをよくすることを主たる目的として作られることが多かったため、印刷すれば読みやすいデータであるものの、画面上で読もうとすると、表示が遅かったり、文字が小さくて読みにくかったり、拡大したらスクロールが必要だったり、電子書籍に適しているとはいいがたかった。

それは当然のことであり、印刷用と画面表示用の版面で、求められる要件が異なる、ということである。

### 1.3 固定版面と「リフロー」

「一定の条件下では、電子書籍における文字組はほぼ完成」と書いたが、その条件とは、固定版面、つまり、固定されたウィンドウサイズの中に表示され、文字サイズ等の変更が行われない場合、というものである。この条件は「モニタサイズ的大型化」という時代の変化の中で脆くも崩れさる。

現在では想像しにくいだが、当時のいわゆる「マルチメディア PC」では、モニタサイズは「13 インチ / VGA / 640x480 / 72dpi」という物を想定していた。モニタの解像度は 72dpi が主流だったため、「13 インチ」というだけで「640x480」と同義で、電子書籍に限らず、いわゆるマルチメディアコンテンツと呼ばれるものは、「13 インチ」のモニタで動作することを想定して作られていた。15 インチ / 800x600 程度のサイズのモニタであれば、「一回り大きい」程度で済むが、1600x1200 というサイズのモニタの中で、640x480 というサイズに固定された画面は、ウィンドウというより「小窓」であり、大きな画面に適した見せ方もあるのでは、という

要求が高まった。そこで取り入れられたのが「リフロー」という概念である。「リフロー」とは、ウィンドウサイズや文字サイズの変更にとともに、動的に表示内容が変更される形式を指す。

同時に「インターネットの普及」という状況の中、「電子書籍として出版されたものを読む」よりも「インターネット上にある文書、縦書きで読みやすく表示する」という提案として、ボイジャーでは1997年にT-Time 1.0をリリースした。

### 1.3.1 T-Time

現在では、T-Time とは「ドットブック(.book)」を閲覧するためのビューアという位置づけが一般的だが、元々は「Hi-Fi テキストリーダー」と銘打った、読者向けのテキスト/HTML のリーダーとして誕生したものである。その当時のキャッチフレーズは「インターネットを縦書きで」というもので、HTML ファイルを縦書きで、そして、自由なウィンドウサイズ、好きな文字サイズで読むことができるテキストリーダーであった。

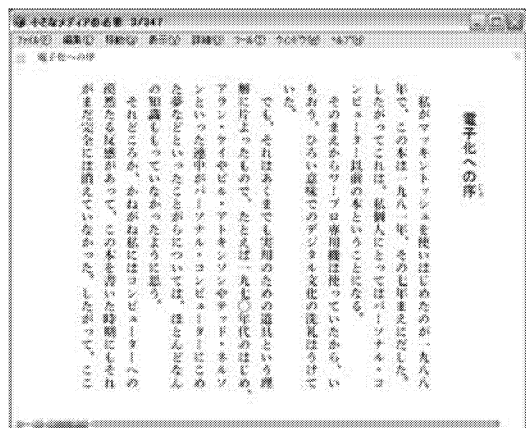


青空文庫を T-Time で表示  
「羅生門」(芥川龍之介 著)

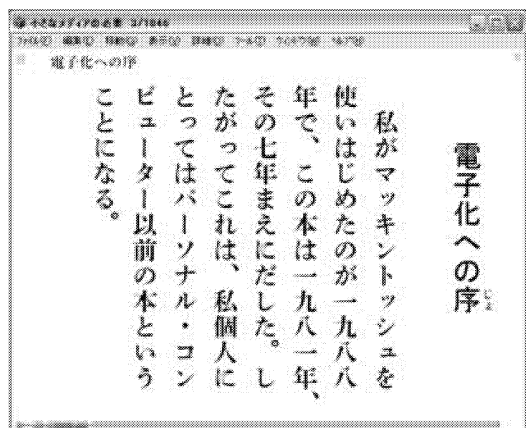


同、フルスクリーンで段組表示

そうして誕生した T-Time ではあったが、電子書籍用のビューアとして出版各社に採用してもらう際に、電子書籍として必要な機能を実現できるよう、バージョンアップを加えたのが、ドットブック(.book)というフォーマットである。



ドットブック版「小さなメディアの必要」



同、文字サイズを 200% で表示

### 1.3.2 TTX

ドットブックのソースファイルを TTX と呼ぶ。HTML のタグの中で電子出版に使用できるものを厳選し、かつ、出版社からの要望により、電子出版に足りないと思われる機能を、拡張した独自のマークアップ言語である。出版社からの要望を取り入れているということもあり、かなり複雑なこともできる柔軟なフォーマットである。

### 1.3.3 リフローという概念と試行錯誤

今でこそ当たり前のようにいわれているが「リフロー」という概念で電子書籍を作る、というのは全く事例のなかったことであり、どのように作るべきか、ということには正解が無く、版面再現のため、試行錯誤が繰り返された。「試行錯誤」という言葉を使ったが、試験的なコンテンツを作成した、ということではなく、何が最適かという正解がない中で、もっとも望ましいと思われるものを選択して作成していったということである。

2010 年度の「電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト」において、これまでに作成された多量の電子書籍データを出版社より実証実験用に借り受け、分析したところ、さまざまな作り方のデータが見受けられた。

紙の版面をできる限り再現しようとして、その結果、極端なウィンドウサイズや文字サイズの変更でリフローした場合には表示が崩れてしまったとしても、デフォルトサイズで美しく表示できた方がいい、という作り方をしたものもあれば、どんなサイズでも、とにかくシンプルに、と紙とは全く別の版面にしようとしたものまで幅広いデータが存在する。しかしどんな場合でも、紙の組版をどのレベルまで再現していくか、ということをテーマに各出版社で最も望ましい形式を再現しようとしていたことは間違いなく、少なくとも後

述の「携帯小説」のような割り切った作り方をしているような例は見受けられなかった。以下、タグとともに文字組例を示す。

#### 1.3.3.1 事例 1 見出し制御

見出しについては、見出し用のタグ (H1～H9) を使い、構造を定義し、その見え方についてはスタイルを使うか、あるいはタグの属性を使うかの方法で書体や色、サイズなどを規定する。通常はこの方法で問題ないのだが、見出し用のタグはいわゆるブロック要素であるため、それ自身改行を伴うため、初期の頃は、改行コントロールを行なうために、いくつかの手法が見受けられた。例えば、`visible="false"` という属性を使うと、見出しを非表示にできるので、構造上は見出しを定義した上で、その見出しを非表示にし、その上で表示させる内容はインライン要素として定義するとか、T-MOVE という表示位置オフセットのためのタグを使い、表示位置を微調整する等の方法を用いた例があった。例えば、以下のような記述をすれば、行中見出しも可能である。

```
<H2 visible="false">行中見出し</H2>
```

```
<FONT face="Osaka, MS ゴシック">行中見出し</FONT> 本文
```

行  
中  
見  
出  
し  
  
本  
文

さすがにこの例は現実のデータでは見当たらないが、表示位置や改行幅を調整している例は散見する。

### 1.3.3.2 事例 2 合体文字

前述の T-MOVE というタグは表示位置のオフセットができるため、表示に関しては万能なタグであり、かなり凝った用途に使われていた。

たとえば「A ダッシュ」を表示するため

```
A<t-move v=-12 h=-16>'<t-move v=12>
```

のように別の文字をオフセットさせて表示する例があった。ただし、これはかなり初期のデータに限定される。



### 1.3.3.3 事例 3 割注

たとえば

```
ホルン(<FONT xsize="70%"><T-MOVE v=-6 h=2>金管<T-MOVE v=12 h=-22>楽器</FONT><T-MOVE v=-6 h=2>)
```

のような記述で割注を実現している例もあった。



割注は、それを指定した文字が行末、あるいはページ末にきた場合に表示に難がある。こ

の例はほぼ問題がないが、もっと長い割注の場合には表示に不整合を起こしてしまう。

### 1.3.3.4 事例 4 グループの記述

例えば、複数の人物を書き、その下に文章を続けるような場合に、以下のような記述をしている例もあった。

```
<BR start=1L indent=-15>
```

```
織田信長<BR>
```

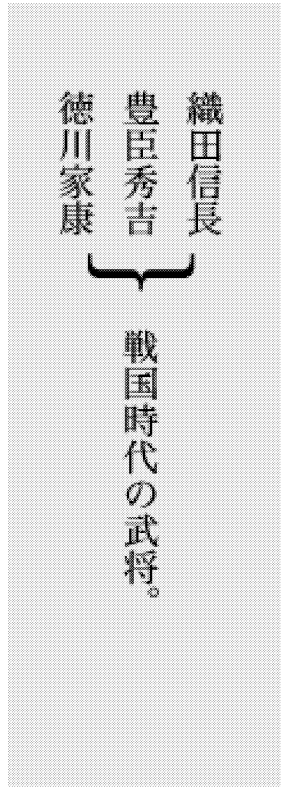
```
<T-MOVE v=-16>
```

```
豊臣秀吉<T-MOVE h=4><FONT
```

```
xsize=48>]</FONT><T-MOVE h=-12>戦  
国時代の武将。<BR>
```

```
<T-MOVE v=-16>
```

```
徳川家康<BR start=0 indent=0>
```



## 1.4 リフロー型電子書籍の特徴

こうした結果、リフローに適した表現、適さない表現、というものがある程度熟成されて

きたと言える。明確な規定ではないので出版社ごとにルールは異なるが、おおむね以下のようなことが、リフロー型の電子書籍で代替表現として使われていると言えよう。

いずれにせよ、リフロー型の電子書籍においては、ウィンドウサイズや文字サイズの変更にとともに、1行の長さおよび文字数、1ページの行数が動的に変わるため、それらが固定であることを前提とした表現は避けることが重要である。

#### 1.4.1 インライングラフィックとページ内での位置固定

紙の組版においては、挿絵については、ページの全体に表示する、ページの上半分あるいは左上・右上に配置し、テキストを回り込ませる、あるいは右下・左下にアクセントとして配置し、テキストを回り込ませるという手法がとられることが多い。



T-Time におけるページ内での位置固定の例。

画像をページの左上に固定し、テキストを回り込ませている。

「戦後マスコミ回遊記」(柴田秀利 著)より

T-Time では、この表現ができるようになっており、リフローにおける表現とも矛盾しない(むしろインライングラフィックよりも扱いやすい)のだが、他のビューアではあまり例をみない機能であるため、インライングラフィックが使用されることが多い。

インライングラフィック(+フロート)にした場合には、その画像がページの末にきた場合には、次のページに送られるか、ビューアによっては、画像自体がページをまたいでしまう場合もある。

#### 1.4.2 割注等の指定は別の表現

位置の指定等を行なってしまうと、リフローによって、表示位置が行をまたいだり、ページをまたいだり、という部分で表示に難がある可能性があるため、前述の「事例3」「事例4」のような事例はさけ、別の表現、例えば割注であれば、文字サイズを縮小して表示する、あるいは別ページに注記の箇所を用意し、そこにリンクする方法をとることも行なわれる。

#### 1.5 リフロー組版の再定義?

このように、日本の電子書籍においては、リフロー型の電子書籍に対して、かなりのケーススタディを蓄積していると言えよう。

一方で「電子出版元年」ということで、これまでとは違った方向からのアプローチがあることも事実である。

そのことについて、章を改め「電子による読書体験」の観点から述べてみたい。

## 2. 電子による読書体験をふりかえる

### 2.1 「電子による読書体験」とは?

前章では、電子書籍における文字組がどのように熟成されてきたのかを述べた。ここでは、電子的な出版物がどのように提供され、読者はどのように電子的な読書を行なってきたのかを振り返ってみる。

## 2.2 媒体を使ったパッケージの配布・販売

インターネットの普及前には、電子書籍に限らず、電子的なコンテンツは、FD、CD-ROM といった媒体に収録され、配布・販売された。先に述べた、ボージャーによる「稲垣足穂作品集『TARUHO FUTURICA』（タルホ・フューチュリカ）」（1993 年）、新潮社による「CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊」（1995 年）の販売は、電子的な出版物を FD、CD というメディアにパッケージし、それを既存の流通経路にて販売を行った例である。ボージャーでは、Mac World 等で「エキスパンド・ブック横町」という展示即売フェアを開催、ここでは、エキスパンド・ブックを使った自費出版作品が多数販売された。

## 2.3 HTML を使った情報公開

インターネットの普及により「電子的な読書体験」は次の段階に進む。HTML がどのようなものであるかは、特に説明をしないが、簡易なマークアップ言語で記述することで、簡単かどうかはともかく、誰もが情報発信をできるようになった。インターネット上の電子図書館「青空文庫」が生まれたのが 1997 年 2 月である。先に述べたように、T-Time 1.0 は、こうして提供されたコンテンツを読むものとしてリリースされた。

## 2.4 プロプライエタリなフォーマットを使った商業電子出版

しかし、情報発信をするだけでは「出版」とはいいがたい。特に商業的な電子出版では、

- パッケージングによる同一性保持
- 著作権保護
- 販売システム

を必要とする。2000 年 9 月、出版社による共同電子書店モール「電子文庫パブリ」がスタートする。ここ

でプロプライエタリなフォーマットであるドットブックや XMDF が採用される。

## 2.5 いわゆる「Web2.0」

HTML で記述するのに比べると、ブログではより簡単に、誰でも情報発信ができるようになった。（2002 年頃～）

ブログの特徴は、手軽に情報発信できることもさることながら、トラックバックやコメントなどで「つながる」ことにあったと言える。固定された読み物ではなく、日々更新されるコンテンツ、そしてトラックバックやコメントなど、画面上で読む、という行為も当たり前のことになってきた。

## 2.6 携帯小説

一方で、電子出版の歴史で無視できないのが「携帯小説」である。

前述のように、紙の組版を以下にリフロー型の電子書籍で実現するかにこだわる手法とは全く異なるが、携帯メールになれた世代にとっては、むしろ、横書き、ゴシックのみ、ルビなし、禁則なしの文章が受け入れられた。携帯小説はブームとなり、多くの作品（「恋空」2006 年、「赤い糸」2007 年など）が、紙でも出版された。多くはオリジナルの雰囲気を残すため、横書き。

携帯小説は「出版」というよりは、むしろ Web2.0 に近く「つながる」ことが、その最大の特徴だったのだろう。多くの人が読み、感想を述べあう、現在でいう「ソーシャルリーディング」の部分が大きかったのではないかと思われる。

## 2.7 EPUB

「電子書籍元年」という言葉とともにキーワードとなったのが「EPUB」である。

「標準」「オープン＆フリー」という言葉の響きの良さもあり、大きな期待が寄せられている。

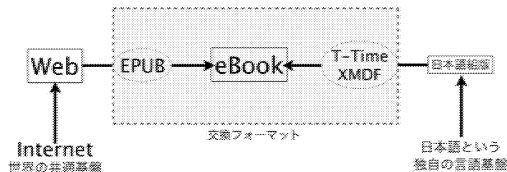
EPUB とは何か？

説明する言葉はたくさんあるが、端的に言えば「Web のパッケージング」ということになる。

Web ページは、それだけでは「出版」とは言いがたいが（ISBN の基準でも Web ページは除外されている）、パッケージングすることで出版物となりうる。

つまり、Web からの電子書籍へのアプローチが EPUB なのである。

紙の組版からアプローチしてきた日本の電子書籍と、Web からアプローチしてきた EPUB が、EPUB3 によって、縦書き他、日本語に必要な要件を備えることで、かなり近づいてきたのではないと言える。



EPUB3 で、日本語の組版に近いレイアウトが実現できるようになったとはいえ、Web のパッケージングである、ということは、紙とは全く異なるタイプの出版物も可能になるということである。携帯小説に近いものや、ブログの内容そのまま、といったレイアウトのものも多く出現してくるだろう。

### 3. ブラウザによる読書

#### 3.1 電子書籍・電子出版に必要なもの

ここまで、「電子による文字組」「電子による出版」について見てきた。

必要なものは何だろうか？

コンテンツの作成環境、配信用のフォーマット、表示するビューア、表示するためのデバ

イス、販売サイト、購入済みの、あるいは無料のコンテンツを並べる書棚、感想を言い合うための場所……

多岐にわたるが、これらを実現するために必要なものは何か？

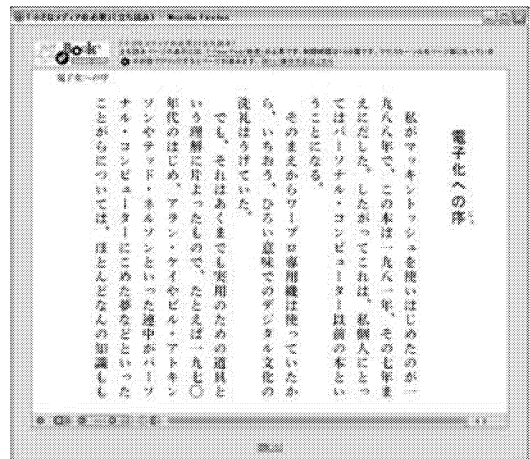
「Web ブラウザがあればそれでいい」

ボイジャーは、そこから Books in Browsers プロジェクトをスタートさせた。

#### 3.2 Books in Browsers と Web ページ

「Books in Browsers」とは、Web ブラウザを使った読書システムの総称である。

これまでもボイジャーでは、T-Time Plug、T-Time Crochet といった Web ブラウザ用プラグインを使ったブラウザでの読書システムを提供してきた。



T-Time Plug を使った Web ブラウザでの表示

Books in Browsers と称した場合には、特別なプラグイン等は必要とせず、Web ブラウザの標準機能だけを使い、PC、スマートフォン、タブレット等のブラウザを搭載したデバイスで読書を可能にするシステムを指す。

これにより、読者は、電子書籍の購入から閲覧まで、さらには感想を言い合ったり、関連

情報リンクしたりといったことを Web ブラウザで上でシームレスに行うことができる。ビューア提供者は、デバイスごとにアプリを開発することなく、増え続ける多種多様なプラットフォーム・端末に対応させることが可能になる。



Web ブラウザでの書棚表示例

### 3.3 独自の文字組エンジン

通常、Web での表示は Web の表示エンジンにゆだねるのが一般的である。

Safari や Google Chrome の表示エンジンは WebKit と呼ばれ、EPUB リーダーの表示エンジンとしても広く採用されている。

しかし電子書籍を表示させようとした場合には欠点もある。

仕様変更等で表示方法が変わったら、OK と思った文字組が変わってしまうかもしれない。そこまでいかになくても、バージョンによって表示にばらつきがある、という事態もさけられない。

T-Time およびドットブックによって、電子書籍の文字組を追求してきたボイジャーでは、ブラウザの表示エンジンに依存せず、かつ、プラグイン等の拡張機能を使わずに実現できないかを考え、Canvas を使った方法を模索した。

Canvas とは、HTML5 の機能の 1 つで、ブラウザに図を書くために策定された機能である。

この機能を使って、これまで T-Time が実現してきた文字組を、ブラウザを使って表現することが可能になった。

ドットブックはもちろんのこと、EPUB3 も表示することができるようになっている。

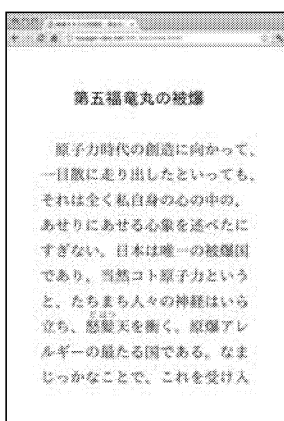


EPUB 版「小さなメディアの必要」を Books in Browsers 方式で表示

文字サイズの変更、ウィンドウサイズの変更、縦書き／横書きの切り替えといったユーザーアクションに瞬時に対応するリフローレイアウトや表示の拡大にも対応している。スマートフォンでの日本語書籍の場合に懸念される明朝体の表示や JIS 第 3、第 4 水準の文字等も、Web フォントを使って表示できる。



PC の Web ブラウザでの縦書き表示  
「戦後マスコミ回遊記」(柴田秀利 著)



同、横書き表示

これが、ボイジャーの提唱する新しい読書スタイルである。



Android での表示

### 3.4 シームレスでプラットフォームを選ばない読書環境

こうして、Web ブラウザでの日本語電子書籍の文字組みが可能となったことで、HTML5 が対応の Web 動作するブラウザを搭載しているデバイスなら何でも読書端末にすることが可能となった。

Web ブラウザで本を探し、オンライン書店で電子書籍を購入し、そのまま読書を開始する。そして各種の SNS で感想を言い合い、友達が薦めてくれた本を読む。そんなシームレスな読書環境が、PC、iPhone、iPad、Android スマートフォン、Android タブレット…どんなハードにも、どんな OS にも、そしてどんな書店にも左右されずに容易に実現できる。

第16回情報知識学フォーラム予稿

## 「いまAdobeが考える電子出版の制作フロー」

### Adobe's Digital Publishing workflow

岩本 崇<sup>1\*</sup>

Takashi Iwamoto<sup>1\*</sup>

1 アドビ システムズ 株式会社

Adobe Systems Co., Ltd

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー

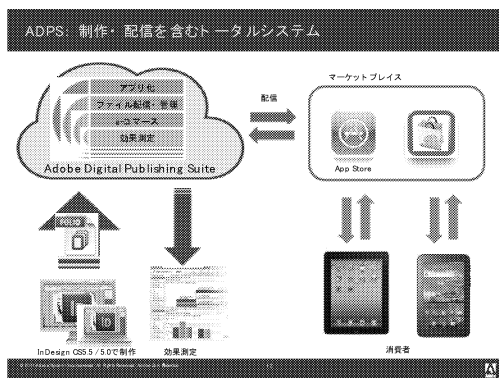
弊社がリリースしたばかりの新しい制作ツール「Adobe Digital Publishing Suite」を中心にプレゼン致します。

新しいAdobe Digital Publishing Suiteはクラウドサービスで提供をする、旧来とは異なる製品です。但しコンテンツを作成するツールは、多くの出版社様や印刷会社様で採用していただいているInDesignを中心です。旧来の紙ベースのワークフローを大きく崩すことなく、従来から制作やデザインに準じている方々にも容易に作成できるように開発をしました。実際どの様に使い、どうコンテンツを作成するのかを実機でのデモを交えながらご紹介していきます。

またフォーマットとして、PDF,Flash,EPUB,FolioといくつかのフォーマットをInDesignでは作成が可能ですが、ユーザーはどのフォーマットで作成するのかを悩むことになるでしょう。でもどんなゴールを目指すのかで答えは見えてきます。それはそれぞれに得意不得意があるからです。

弊社は電子出版という広い言葉では「EPUBとFolio」をベースに考えております。電子書籍では「EPUB」が、リッチコンテンツでは「Folio」を活用していただきたいと考えております。あまり馴染みの「Folio」は上記のAdobe Digital Publishing Suiteで作成ができるフォーマットで、既に世界中で採用していただいております、700近いコンテンツがリリースされています。アメリカなどの電子出版の先進国だけでなく、ワールドワイドでコンテンツが生まれております。日本の出版社さんでも採用していただいている会社が複数有り、どんなコンテンツに向いているのか、そしてどんなモノが作れるのか、日本の事例も多く紹介したいと思います。

今回、日本での提供を開始したのは、Adobe Digital Publishing Suite の機能をそのまま利用できる標準的なエディションであるAdobe Digital Publishing Suite プロフェッショナル版で、日本の出版社や企業は動画や音声などを加えたインタラクティブ性の高いデジタルマガジンの制作や、自社ブランドのアプリケーションの提供を簡単に、そして迅速に行うことができます。



Adobe Digital Publishing Suite は、ホスティングサービスとビューワー技術で構成される電子出版向けのソリューションです。Adobe InDesign® CS5.5 / CS5 と緊密に統合されているので、使い勝手もよく、出版社に代表されるメディア企業や各種印刷物を手がける一般企業は、InDesign でデザインしたコンテンツに、さまざまなインタラクティブ機能を追加し、これまでにない新しい閲覧体験を読者に提供し、競争力の高いデジタルコンテンツの提供ができるようになります。制作も紙媒体と並行したフローでおこなえるので、効率的に多種多様な端末向けにデジタルコンテンツの提供が可能です。

Adobe Digital Publishing Suite では、紙媒体では実現できないインタラクティブなデジタ

ル広告の展開が可能となることから、広告出向効果の向上も期待できます。高性能なオンライン解析が標準機能として組み込まれているため、ユーザーの閲覧体験を自動的に収集、解析し、効果測定し、デジタルコンテンツや広告の最適化により収益化の向上を常に検証し、改善できます。販売モデルも柔軟な設定になっているので、出版社や企業は、iTunesAppStore や Android MarketPlace での単体アプリとしての販売、定期刊行物の号別の販売、定期購読への対応など個々のニーズにあわせて購入できます。

Adobe Digital Publishing Suite は、2010 年 10 月に発表されてから、既に世界各国600 以上のタイトルが、この最新ソリューションを使って発行されています。

Adobe Digital Publishing Suite は、以下のツールで構成されています。

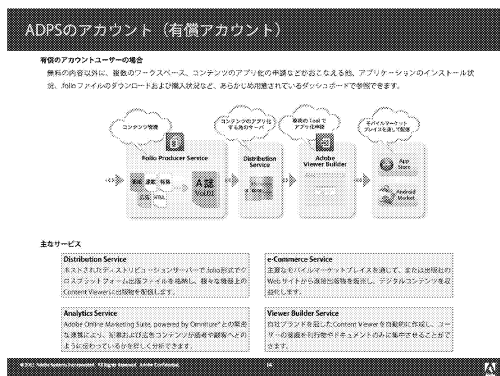
- ・ Content Viewer : コンテンツ閲覧用ビューワー

Apple iPad 用、Android™用、BlackBerry PlayBook 用およびデスクトップ用の ContentViewer。Content Viewer は、iPad、BlackBerry PlayBook、Samsung Galaxy Tab、MotorolaXoom、今後登場してくる他の Android 機器など、さまざまなタブレット機器に対応。出版社や企業は、自社ブランドを冠したContent Viewer を作成し、自社の刊行物として、統一感のある外観と操作性による閲覧体験を読者に提供可能に。

- ・ Folio Producer Service : ファイル作成サービス

インタラクティブ機能を追加したFolio ファイルを共有・管理したり、タブレット機器向け

に発行するサービス。Folio ファイルをホスティングサービスにアップロードする操作は InDesign CS5.5 / CS5 上から直接実行可能。ホスティングサービス上では、コンテンツの編成と並べ替え、Folio や記事へのメタデータ追加、完成したFolio ファイルの直感的なレビューも可能。Folio Producer Service は、PDF とHTML5 を含む各種のファイル形式をサポート。



### ・ Distribution Service : 配信サービス

デジタルコンテンツを安全に保管およびホスティングし、主要なタブレット機器に配信して、幅広い読者に届けるサービス。提供するコンテンツへのメタデータの追加や、アーカイブ情報の管理も Digital Publishing Suite のダッシュボードから実行可能。

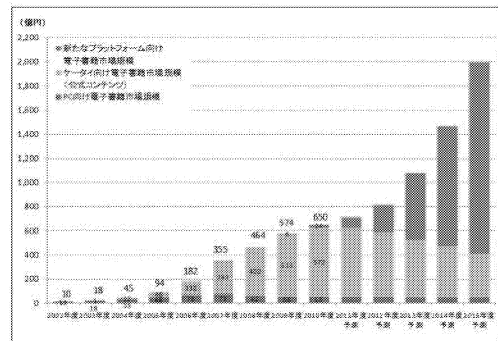
### ・ e-Commerce Service : 支払い・販売サービス

単一Folio、複数Folio、購読コンテンツのいずれも、出版社のWeb サイトでの直接販売・配布と、Apple App Store、Android Market、BlackBerry App World など主要なモバイルマーケットプレイス経由での販売・配布に対応する柔軟性に優れた支払いおよび販売モデル。印刷版とデジタル版のバンドル販売による付

加価値の高い販促プログラムの作成や、タブレット機器にインストールされた雑誌アプリケーションからのコンテンツの直接購入も可能。

### ・ Analytics Service : 解析サービス

標準機能として組み込まれたAdobe SiteCatalyst®, powered by Omniture® による高機能のオンライン解析ソリューションが、コンテンツを閲覧したユーザーの体験を収集。ユーザーの閲覧体験の確認を、コンテンツの最適化に活用し、広告主に閲覧状況をフィードバックによる、広告収益を拡大が可能。



電子書籍の市場規模の推移と予測 (2002年度～2015年度)

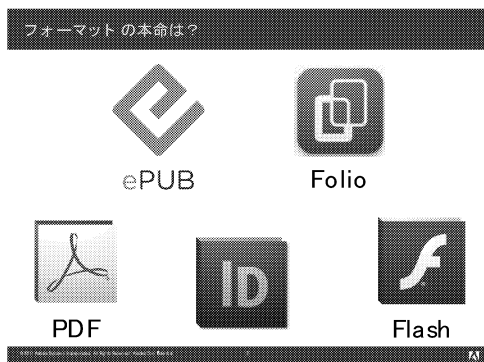
日本の電子出版市場は、電子出版サービスの市場規模は、2010 年度の640 億円から、2015 年には3501 億円にまで拡大すると予測されています。電子書籍端末の市場規模も2010 年の113 万台から2015 年には693 万台に、電子書籍端末の利用者も2010 年度末の113 万人から、2015 年末には1,696 万人に伸びると予測されています（株式会社MM総研調べ）。今回のAdobe Digital Publishing Suite の日本での提供開始により、アドビ システムズは日本のデジタルコンテンツ市場でのプレゼンスを高めると同時に、デジタル化への対応という変化のさなかにある出版社や企業が新しい閲覧体験で読者を獲得し、市場競争力を高めることを支援していきます。

製品に関する詳細な情報は以下のURL をご参照ください。

<<http://www.adobe.com/jp/products/digital-publishingsuite/>>

<http://www.adobe.com/jp/joc/design/guides/epub/epub01.html>

フォーマットについて



様々なフォーマットがありますが、Adobeとしては、電子書籍は「EPUB」をベースに、デジタルマガジン、電子カタログなどリッチコンテンツを取り扱う場合は「Folio」で作成することを考えております。

PDF や Flash という既にお馴染みのフォーマットも存在しますが、これが決してダメということではなく、レイアウト固定の誌面で十分であれば PDF を活用いただいたり、表現力とカスタマイズなどを望むのであれば Flash という選択肢もあると思います。ただ、ユーザーのニーズを満たすコンテンツ、並びに使い易さを考えて、電子出版でのフォーマットは「EPUB」と「Folio」をベースにいずれも InDesign から書き出すことを想定しております。

参考サイト

Folio (ADPS) を知るサイト

<http://adobe-digipub.jp/>

InDesign での EPUB 機能サイト

\*\*\*\*\*

◇◆● 情報知識学会 メールマガジン ●◆◇ 2010.11.30 ◇ No.39

情報知識学会メールマガジン読者の皆様

メールマガジン 11月号をお届け致します。

=====

11月号 CONTENTS(目次)

=====

◇◆情報知識学フォーラム実行委員会◆◇

12/04(土)【第15回情報知識学フォーラムのご案内】

◇◆シニア情報知識学研究部会卓話会◆◇

12/13(月)【シニア情報知識学研究部会卓話会のご案内】

◇◆第19回(2011年度)年次大会実行委員会◆◇

2011/05/28(土)・29(日)【第18回(2010年度)年次大会のご案内】

◇◆常務理事会◆◇

【常務理事会の開催】

【第19回(2011年度)年次大会】

【NIIの学会向けホームページ・スペース提供サービス終了への対応】

【年会費等規定の整備】

【第15回情報知識学フォーラム】

【シニア情報知識学研究部会卓話会の開催および研究部会の設立】

【理事会の開催】

◇◆後援行事のお知らせ◆◇

12/11(土)・12(日)【情報処理学会 じんもんこん 2010】

◇◆関連行事のお知らせ◆◇

12/10(金)【シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」  
ーハーバード大学, レディング大学, 北海道大学を事例にー】

◇◆関連団体の行事のお知らせ◆◇

12/04(土)【人工知能学会(JSAI)「社会におけるAI研究会」第11回研究会】

12/06(月)【情報処理学会(IPS)連続セミナー2010

第6回「次世代クラウドコンピューティングに向けて」】

12/08(月)【科学技術振興機構(JST)シンポジウム

世界を魅せる日本の課題解決型基礎研究～JST 目利き制度とその可能性】

\*\*\*\*\*

◇◆情報知識学フォーラム実行委員会◆◇

\*\*\*\*\*

【第15回情報知識学フォーラム「多様化する電子書籍端末と学術情報流通」のご案内(第4版)】

iPad, Kindle は電子書籍のブームを起こしましたが、現状はむしろ多様化しているように見えます。そこで今回のフォーラムでは、標記のテーマを主に技術的観点から考えるため、次のとおり、大学、出版、印刷の分野から専門家を招き、講演と総合討論を行います。

皆様、どうぞご参加ください。

◇日時・会場

期日 2010年12月4日(土) 13:00~17:20

会場 慶應義塾大学 三田キャンパス第1校舎 111教室  
(〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45)

主催 情報知識学会

後援 (社)情報科学技術協会 協賛 (社)日本印刷学会

◇プログラム

□ 13:00-13:10 開会挨拶 根岸正光 (情報知識学会会長)

□ 13:10-15:40 講演

講演1 「書籍の電子化がもたらすもの ―素朴な疑問と素朴な期待―」  
杉本重雄 (筑波大学教授)

講演2 「電子書籍の交換フォーマットの現状と標準化」  
植村八潮 (東京電機大学出版局 局長)

講演3 「EPUBの多言語対応に向けた取組と事例報告」  
秋元良仁 (凸版印刷(株)情報技術研究室 シニア研究員)

―― 休憩 (10分) ―――

□ 15:50-17:10 講演および総合討論

講演4 「電子書籍フォーマットの動向と学術情報流通への課題」  
原田隆史 (慶應義塾大学准教授)

総合討論

司会: 原田隆史

パネリスト: 杉本重雄, 植村八潮, 秋元良仁

□ 17:10-17:20 閉会挨拶

石塚英弘 (筑波大学; 第15回情報知識学フォーラム実行委員長)

□ 17:30 懇親会

◇参加費と事前登録

参加費: 無料 (当日入会可。割引年会費 2,000円)

ただし, 非会員のみ 論文集代 3,000円(一般) / 1,500円(学生)

案内および事前申込フォームは以下のサイトにて公開しています。

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsik/bukai/sgml/forum2010Annai.html>

参加申込は次のページからお願いします: <http://bit.ly/JSIKForum2010>

※定員は120名です。当日参加も可能ですが、できるだけ事前の参加申込をお願いします。

\*\*\*\*\*

◇◆シニア情報知識学研究部会卓話会◆◇

\*\*\*\*\*

先月のメールマガジン10月号でお知らせしましたように、シニア情報知識学研究部会(仮称)を設立するための起爆剤として、学会誌に「事始シリーズ」と銘打った欄を設けて温故知新となるような随想を掲載することが予定されています。

このたびこれに加えて、さらに「卓話会」(仮称)を立ち上げることになりました。卓話会の趣旨は講師の方に情報知識学と関わる様々な過去の活動や動きに関する昔話やエピソードを気楽に語っていただき、それを肴に自由奔放(?)に意見交換できる場を形成することにあります。したがって「事始シリーズ」と関連しますが、それとは別にくつろいだ雰囲気での会合となるようにと考えています。シニア情報学研究部会の主催行事ですが、「若手」会員の積極的参加も大いに歓迎します。

【第1回シニア情報知識学研究部会卓話会のご案内】

◇日時・会場

期日：2010年12月13日(月) 17:30～19:00

会場：情報知識学会事務局(凸版印刷株式会社：秋葉原)

演者：山本毅雄先生

(本学会監事、図書館情報大学・国立情報学研究所名誉教授)

演題：「OCLC 創設者、Frederick Kilgour 先生と私」

事務局はスペースに余裕がありませんので、出席希望者は前もってメール、電話等で事務局にご一報くだされば幸いです。なお、会場の建物内には自動販売機がありませんので、飲み物は各自ご持参ください。

\*\*\*\*\*

◇◆第19回(2011年度)年次大会実行委員会◆◇

\*\*\*\*\*

【第19回(2011年度)年次大会のご案内(第1版)】

来年度の第19回(2011年度)年次大会は、はじめて海を渡り、四国の地香川県で開催いたします。大勢の参加者をお待ちしています。今から予定表にチェックをお願いします。

◇日時・会場

期日：2011年5月28日(土)～29日(日)の2日間

会場：香川大学幸町キャンパス研究交流棟5F(高松駅より1km)

主催：情報知識学会

協力/協賛：文科省戦略的大学連携支援事業「e-Knowledge コンソーシアム四国」(eK4、事務局香川大学)

◇プログラム(予定)

2011年5月28日(土)

12:00-13:00 総会、理事会

13:00-15:00 一般講演

15:00-17:30 (または18:00まで)

「eラーニングによる『四国の知』大学連携」シンポジウム

シンポジウム終了後、懇親会

2011年5月29日(日)

10:00(または9:00)-16:30 一般講演、論文賞記念講演等

◇今後の日程(予定)

1月上旬 大会告知、発表募集

3月中旬 プログラム決定

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会◆◆

\*\*\*\*\*

【常務理事会の開催】

11月19日(金) 17:30 から情報知識学会事務所で常務理事会を開催した。

【第19回(2011年度)年次大会】

来年度年次大会の実行委員長堀幸雄理事より、香川大学 eK4 関係教員と協議し、講演3件＋簡略研究紹介8件程度の「四国の知」シンポジウム構成案の提示を受けたとのこと報告があった。これを受け、関東からの参加者の便を勘案しつつ、全体時間構成を協議の結果、前掲のプログラム案で進めることとなった。

【NIIの学会向けホームページ・スペース提供サービス終了への対応】

NIIが学会向けホームページ・スペース提供サービスを2012年3月で終了する件への対応について、前回協議に即して原田理事、江草理事において検討した結果の報告あり。各部会等担当者自身による記事の分担アップロードの便を図るため、プラットホームとしてwikiを用いるのが適当であること、また江草理事において、既に一部変換実験を行い、移転の可能性を確認したとの報告があった。

協議の結果、新サイトをwikiベースで構築する、現存全内容の変換移転を筑波大学学生アルバイトに委託する、サーバーはSAKURA Internetを予定する、トップページの維持管理は、時実理事の意向に従い、場合によっては原田・江草理事に交代する等とした。

【年会費等規定の整備】

前回議事に即して会長より、「情報知識学会会費等規定」案の提示あり。協議の結果、本案を早急に理事会に諮り、了承を得て施行することにした。理事会は電子メールによる持ち回り形式とすることも考えられるが、12月4日の「情報知識学フォーラム」の開催に合わせて、当日夕刻同会場にて開催する。開催案内に合わせて本案を電子メールにて発信し、欠席予定者からは可否の意見と委任状を徴するものとする。

【第15回情報知識学フォーラム】

石塚実行委員長より、第15回情報知識学フォーラムの準備状況について報告あり。前掲案内の通り準備が進んでおり、現在Webによる参加申込は20名程度である。

協議の結果、非会員の資料代は3,000円であり、当日入会の場合、本来の年会費は第3四半期入会となるため4,000円であるが、特に1月からの第4四半期入会扱いとして本年度会費2,000円とし、非会員参加者の当日入会を促進することにした。

【シニア情報知識学研究部会卓話会の開催および研究部会の設立】

細野監事より、数回のシニア情報知識学研究部会準備会での協議により、学会誌に「事始めシリーズ」セクションを開設することとし、その第1稿を奥住啓介シニア会員に依頼すること、また「卓話会」を開催するとの報告あり。第1回卓話会の内容については前掲の通り。協議の結果、研究部会は準備段階を終えて、その設立を理事会に諮るのが適当であるので、前記12月4日の理事会に提案することにした。当面、世話人代表として細野監事において設立趣意書を用意する。

【理事会の開催】

2010年12月4日(金) 17:15-17:30、慶応大学三田キャンパス、情報知識学フォーラム終了

後、同会場にて。議案：会費等規定制定の件、シニア情報知識学研究部会の設立の件。

\*\*\*\*\*

◇◆後援行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

【情報処理学会「人文科学とコンピュータシンポジウム」

(じんもんこん 2010)】

- ・テーマ 人文工学の可能性—異分野融合による「実質化」の方法—
- ・主催 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会
- ・日時 2010年12月11日(土)、12日(日)
- ・会場 東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)
- ・共催 文部科学省異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業『人文工学の方法による人文社会科学の実質化』(東京工業大学)
- ・後援(予定を含む): 情報知識学会, アート・ドキュメンテーション学会, 記録管理学会, 情報メディア学会, 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会, 電子情報通信学会, 日本アーカイブズ学会, 日本情報考古学会, 日本図書館情報学会など
- ・詳細 <http://www.jinmoncom.jp/sympo2010/>
- ・趣旨 人文工学とは, 人文科学が情報工学と出会い, 融合することによって, 人文科学に新たな展開をもたらす方法論の一つです。人文科学はともすると主観的解釈の自己言及的な無限ループに陥るとみなされることもあります。私どもが今回掲げる人文工学は, それらに科学・工学的手法を応用することによって, 共有可能な解釈へと導くことに挑戦するものです。そのアプローチは, 多くの人々に人文科学を届けていく「実質化」への一つの方法を探ることです。

\*\*\*\*\*

◇◆関連行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

【シンポジウム 「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」

—ハーバード大学, レディング大学, 北海道大学を事例に—】

- ・開催期日 平成22年12月10日(金) 10:00-17:00(受付: 9:30-10:00)
- ・開催場所 東京大学鉄門記念講堂(文京区本郷7-3-1 医学部教育研究棟14階)  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_02\\_09\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_09_j.html)
- ・主催 国立情報学研究所 および 国立大学図書館協会
- ・詳細 <http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2010/20101210.html>
- ・概要 国立情報学研究所および大学図書館では, 平成17年度以来, 機関リポジトリの構築による教育研究成果のオープンアクセス化に努めてまいりました。その結果, 現在日本で機関リポジトリを持つ機関数は180を超えるなど, 一定の成果を収めています。また, SPARC Japanの取組みなどにより, オープンアクセスジャーナルへの関心も高まりつつあります。一方, 第4期科学技術基本計画の策定に向けて, 「科学技術基本政策策定の基本方針」(総合科学技術会議・平成22年6月16日)には, 機関リポジトリの充実や研究成果へのアクセスの容易化, 学術情報のデジタル化やオープンアクセスの推進等が盛り込まれ, これらの施策は政策的にも重要な位置を占めつつあります。

今回のシンポジウムでは、世界に先駆けて、研究者自らの発案で研究成果のオープンアクセス方針を決定したハーバード大学を始め、国内外の最新の事例をご報告いただきます。研究成果の公開促進の意義と課題について議論する場といたしたく、関係者各位にはぜひご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

・プログラム：

10:00-10:20

オープンアクセス序論：概況報告

尾城 孝一（東京大学附属図書館情報管理課長）

10:20-12:00

講演 1 "The Harvard Open-Access Policies"

スチュアート・シーバー（ハーバード大学、Welch Professor of Computer Science, Director, Office for Scholarly Communication）

13：30～14：30

講演 2 "Open Access in the UK: University of Reading and Beyond"

アンドリュー・A・アダムス（明治大学大学院経営学研究科特任教授）

14：30～15：00

講演 3 「北海道大学の機関リポジトリの状況について」

山本和雄（北海道大学附属図書館学術システム課長）

15：00～15：30

講演 4 「海外におけるオープンアクセス化に関する政策論議の展開（米国を中心に）」

遠藤 悟（東京工業大学大学マネジメントセンター教授）

15：50～17：00

パネルディスカッション

司会：安達淳（国立情報学研究所学術基盤推進部長・教授）

パネリスト：

スチュアート・シーバー，アンドリュー・A・アダムス

山本和雄，遠藤悟，加藤憲二（静岡大学附属図書館長）

※逐次通訳つき

\*\*\*\*\*

◇◆関連団体の行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

【人工知能学会（JSAI）】

◆人工知能学会「社会における AI 研究会」 第 11 回研究会

（「社会における AI・エボリユーションナリコンピューテーション合同研究会」）

・日程 12 月 4 日(土)

・場所 愛知工業大学八草キャンパス 1 号館 3 階 メディア視聴覚室

・日本ファジィ学会エボリユーションナリ・コンピューテーション(ECOmp)研究会と合同開催

※詳しくは：<http://www.ai-gakkai.or.jp/jsai/>

【科学技術振興機構（JST）】シンポジウムのご案内

◆世界を魅せる日本の課題解決型基礎研究～JST 目利き制度とその可能性

◇JST がこれまで行ってきた戦略的創造研究推進事業について、その成果を振り返ると同時に、これからの日本の科学技術の発展に向けた事業の在り方を問うていきます。

- ・開催日時：12月6日（月）
- ・会場：東京国際フォーラム B5 ホール
- ・主催：（独）科学技術振興機構（JST）
- ・後援：文部科学省
- ・参加費：無料

※詳しくは：<http://www.senryaku30.jst.go.jp/outline.html>

【情報処理学会（IPSJ）】セミナーのご案内

◆連続セミナー2010 第6回「次世代クラウドコンピューティングに向けて」

◇最終回となる第6回では、企業の基幹業務、電子行政、交通制御、プラント監視などの社会インフラに適用可能な「次世代クラウド」の実現に向けた最先端技術を紹介します。クラウドコンピューティングを構成するアプライアンス、ネットワーク、データセンタのそれぞれの分野のエキスパートをお招きし、次世代クラウドの全貌を明らかにします。

- ・コーディネータ：後藤 厚宏（NTT サイバースペース研究所 所長）
- ・開催日時：12月6日（月） 9:30 ～ 17:00
- ・会場：東京電機大学 神田キャンパス 7号館 1F 丹羽ホール

※詳しくは：<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2010/2010-6.html>

\*\*\*\*\*

◇◆編集後記◆◇

\*\*\*\*\*

最近、iPadを「持ち歩いているだけ」ではなく「使っている」人々を目にする機会が増えてきた。しかし、その使っているアプリは、電子書籍ではなく、大きなPDAとして使われているのがほとんどではないかと思われる。こういうガジェットが大好きな私も、iPhone、Kindle、iPadをはじめ、いくつかをしばらく使ってみたものの、結局、日常的に使うのは使い慣れたPCと紙の図書・雑誌に戻ってしまっている。近い将来には、電子書籍端末が私たちの生活を変えていくのだろうとは思っているが、まだまだその道筋は見えない。こんな時にタイムリーに開催される「情報知識学フォーラム」。講演1から講演3まで、素晴らしい講師陣が登場されるチャンス。皆様、是非ご参加を！

ご意見・ご感想は [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) まで、気軽にお寄せください。

メールマガジン11月号担当 原田隆史（慶應義塾大学）

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2010.12.24. ☆No.40.

情報知識学会メールマガジン読者の皆様！

クリスマスのこの時期に今年最後のメールマガジンをお届けします。

皆様には、何かと忙しい年末をお過ごしのことと思います。今月号は、フォーラムの報告の他、理事会から「情報知識学会会費等規定」のお知らせや、シニア情報知識学研究部会の第1回卓話会の報告などがあります。ぜひご一読下さい。

---

12月号 CONTENTS(目次)

---

◇◆情報知識学会からのお知らせ◇◆

【『第15回情報知識学フォーラム』の報告】12月4日

【平成22年度第3回理事会議事概要】12月4日

◇◆部会の活動から◇◆

【シニア情報知識学研究部会第1回卓話会報告】12月13日

◇◆情報知識学会誌◇◆

【J-STAGEからのお知らせ】

◇◆関連行事のお知らせ◇◆

【第二回アジア専門図書館国際会議】2011年2月10日～2月12日

◇◆関連団体の研究会から◇◆

【国立情報学研究所 NII】2011年1月19日

平成22年度市民講座 第7回

【情報科学技術協会 INFOSTA】2011年1月21日

2011年 新年 INFOSTA パーティーへのご案内

---

☆★.....☆☆

---

◇◆情報知識学会からのおしらせ◇◆

---

☆★.....☆☆

【第15回情報知識学フォーラムのご報告】

◆次のとおり開催され、お蔭様で盛会でした。

◇日時： 2010年12月4日(土) 13時～17時15分

◇会場： 慶応義塾大学三田キャンパス

◇主催： 情報知識学会

◇後援： (社)情報科学技術協会

◇協賛： (社)日本印刷学会

◇テーマ： 多様化する電子書籍端末と学術情報流通

◇講演：

杉本重雄(筑波大学)

「書籍の電子化がもたらすもの ―素朴な疑問と素朴な期待―」

植村八潮(東京電機大学出版局)

「電子書籍交換フォーマットの現状と標準化」

秋元良仁(凸版印刷(株))

「EPUBの多国語対応に向けた取組と事例報告」

原田隆史（慶應義塾大学）

「電子書籍フォーマットの研究動向と学術情報流通への課題」

◇総合討論

司会：原田隆史 パネリスト：杉本重雄、植村八潮、秋元良仁

◇参加者：72名：正会員31名、学生会員1名、非会員40名(内学生9名)

◇概要：

杉本・植村・秋元講師の講演は何れも内容豊富で、会場からの質問も多数あった。

休憩の後、原田講師の講演に続き、講演者による総合討論が行われ、会場からの質問に対するパネリストの回答もあった。参加者の熱気が感じられ盛会であった。なお、非会員の参加者のうち8名が本学会に当日入会された由、これも喜ばしいことである。本フォーラムの成功は関係各位のご尽力の賜物です。心から御礼申し上げます。なお、フォーラムについては近々、学会のWebページにも報告を掲載する予定です。

（フォーラム実行委員長 石塚英弘）

\*\*\*\*\*

【平成22年度 第3回理事会議事概要】

◆第3回理事会が下記のように行われました。

◇日時：2010年12月4日(土) 17:15～17:30

◇会場：慶應義塾大学三田キャンパス第1校舎111教室

◇出席者：根岸、石塚、長塚、江草、小川、国沢、田良島、原田、  
長田、阪口、孫、高久、村井、細野。

◆第1号議案／会費等規定制定の件

新規定では、年度途中での退会で当該年度の会費が未納の場合、四半期単位の割引とし、退会申し出の時期に応じ、年額の4分の3、2分の1、4分の1とする。これに加え、既に学会誌20巻1号(2010年2月)掲載の会告で告知し実施済みのもの、すなわち会員種別とその会費、諸権利、年度途中入会に関する部分を併せて、下記のごとく明文化した「会費等規定」が提案され、審議の結果、異議なく承認、即日施行された。なお、今後さらなる改訂について、来年度総会に向けて理事各位の意見を寄せられたい旨、会長から発言があった。

◇情報知識学会会費等規定

1. (本規定の目的)

本規定は、情報知識学会定款における会員、会費等関連規定の適用に関する細目を規定するものである。

2. (年会費額等)

会員種別ごとの年会費および選挙権等諸権利は下表のとおりとする。

| 会員種別 | 年会費    | 論文<br>投稿 | 役員<br>選挙権 | 役員被<br>選挙権 | 総会<br>議決権 | 適格要件     |
|------|--------|----------|-----------|------------|-----------|----------|
| 正会員  | 8,000円 | 可        | 有         | 有          | 有         |          |
| 学生会員 | 4,000円 | 可        | 無         | 有          | 無         |          |
| ユース  | 4,000円 | 可        | 無         | 有          | 無         | 35歳未満の者は |

|            |                 |   |                  |   |                  |                                                  |
|------------|-----------------|---|------------------|---|------------------|--------------------------------------------------|
| 会員         |                 |   |                  |   |                  | 本人希望により<br>選択可（35 歳以降、<br>または役員就任の<br>際は正会員に移行）  |
| シニア<br>会員  | 4,000 円         | 可 | 無                | 有 | 無                | 退職者は本人希望<br>により選択可(復職<br>時、または役員就任<br>の際は正会員に移行) |
| 名誉会員       | 0 円             | 可 | 無                | 無 | 無                |                                                  |
| 協賛会員       | 1 口 3 万<br>円以上  | 可 | 口数にかか<br>わらず 1 票 | 無 | 口数にかか<br>わらず 1 票 | 当該団体所属の個人<br>は論文投稿可                              |
| 特別協賛<br>会員 | 5 口 15 万<br>円以上 | 可 | 口数にかか<br>わらず 1 票 | 無 | 口数にかか<br>わらず 1 票 | 当該団体所属の個人<br>は論文投稿可                              |

### 3. (入会金)

入会金は当分の間無料とする。

### 4. (納入時期方法)

会費は年度開始の際の学会からの告知または請求に従い、早急に納入するものとする。

### 5. (年度途中入会)

年度途中からの入会の場合、会費は四半期単位の割引とし、入会の時期に応じ、年額の 4 分の 3、2 分の 1、4 分の 1 とする。

### 6. (退会等)

退会、会員種別の変更は、原則として当該年度の開始前に事務局宛に通告するものとする。

### 7. (年度途中退会)

年度途中での退会で当該年度の会費が未納の場合、四半期単位の割引とし、退会申し出の時期に応じ、年額の 4 分の 3、2 分の 1、4 分の 1 とする。既納の場合には、返還の扱いは行わない。

### 8. (納入催告)

会員が会費を納入しない場合、事務局長は納入の催告を行う。度々の催告にも関わらず納入しない場合には、事務局長は常務理事会に報告し、措置を求めるものとする。

### 9. (長期滞納時の措置)

会費を 2 年以上滞納の場合、常務理事会は審議の上、自然退会として処理することができる。

### 10. (既納会費の不返還)

既納の会費はいかなる事由があっても返還しない。

### 11. (疑義処理)

本規定の適用に関して疑義の生じた場合は、常務理事会において審議し、措置する。

### 12. (規定改正)

この規定の改正は理事会で審議、決定し、総会にて報告、了承を求めるものとする。

(付則)

この規則は 2010 年 12 月 4 日より施行する。

◆第2号議案／シニア情報知識学研究部会設立の件

下記のとおり提案され、新たな研究部会の設立が異議なく承認された。

1. 設立趣旨

社会の高齢化が進むとともにいわゆるシニアと呼ばれる人々の積極的な活動が注目されています。一方このような活動と急速な時代の変化との間には軋轢が生じていることもあります。その理由の一つとして過去に蓄積された貴重な知恵・経験・考え方が現在の生活の中で十分生かされていないこと、シニア世代が時代の流れに戸惑っていることなどがあげられます。こうした状況に鑑みて、「シニアを対象として情報知識学の応用を考える」および「シニアの観点・立場から情報知識学そのものを考える」ことは、大変意義のあることと言えます。活動方針として、長老の方々を含む多くの会員諸氏から情報知識学と関わるさまざまな過去の活動や動きに関して昔話やエピソードを収集し、なんらかの形でそれを発表・保存することがあげられます。これまで日の目を見ることのなかった過去の知見や叡智あるいは遭遇した各種の問題・危機についての知識・情報を共有することは、情報知識学の健全な発展に不可欠であると考えられるからです。

2. 当面の活動形態

- 1) 学会誌に「事始シリーズ」と銘打った欄を設けて温故知新となるような随想を掲載する
- 2) 情報知識学と関わる様々な過去の活動や動きに関する昔話やエピソードを気楽に語り、それに基づいて意見交換できる場となる卓話会を設置する

3. 部会員

会員の種別を問わない

4. 世話人

根岸会長、長塚・石塚両副会長、山本監事、松村多美子シニア会員、細野監事（世話人代表）  
以上

\*\*\*\*\*

☆★.....☆★

◇◆部会の活動から◇◆

☆★.....☆★

【シニア情報知識学研究部会第1回卓話会報告】

◆下記のように、シニア情報知識学研究部会第1回卓話会が開催された。

◇日 時： 12月13日 17:30～19:00

◇場 所： 学会事務局（凸版印刷株式会社）

◇本学会監事の山本毅雄先生（図書館情報大学・国立情報学研究所名誉教授）に、「OCLC創設者、Frederick Kilgour 先生と私」の演題で卓話をお願いした。

◇出席者は、山本、根岸、名和、大師堂、安平、長塚、石塚の方々および細野であった。Frederick Kilgour 先生は、世界的な規模での目録情報のデータベースの作成と提供を行う書誌ユーティリティ(bibliographic utility) OCLC の創立者である。山本先生の卓話は、Kilgour 先生との国際会議での出会いとその後の交流に基づいて、彼の仕事ぶりやひととな

りを紹介するものであった。

目録情報にかぎらず、オンライン・データベースの規模が著しく拡大されたのは実質的には 1970 年代といえる。それ以前にも磁気テープ形式のデータベースは存在したが、コンピュータシステムの処理能力、記憶容量が現在と比較して極端に劣っていたため、オンライン・データベース化には種々の困難がともなっていたためである。こうした時代に OCLC の発展の礎を築いた先駆者である Kilgour 先生の活動や苦勞についてのエピソードは、大変興味深いものであった。さらに OCLC での目録情報のデータベース構築の実態との関連で、わが国大学界での全国的な目録情報データベース構築の揺籃期におけるエピソードの紹介もなされた。

新しい活動やサービスを開始しそれを発展させていくためには、種々の人たちの多大なエネルギーと努力が不可欠であるが、ひとたびその活動が軌道に乗ると、こうした貢献が忘れ去られるきらいがある。しかし我々は、過去があつてこそ現代や未来があることを肝に銘じる必要がある。

なお、下記 OCLC のページに Kilgour 先生の講演ビデオと経歴が収録されているので、適宜参照されることをお勧めしたい。

URL: <http://www.oclc.org/about/default.htm>

URL: <http://www.oclc.org/about/history/presidents.htm>

(世話人代表 細野公男)

\*\*\*\*\*

☆★.....☆★

---

◇◆情報知識学会誌◇◆

☆★.....☆★

【編集委員会からのお知らせ】

◆学会誌 Vol. 20, No.3 が J-STAGE より公開されました。下記よりご一読下さい：

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/20/3/\\_contents/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/20/3/_contents/-char/ja/)

\*\*\*\*\*

【次回定期システムメンテナンス予定】

◆定期システムメンテナンスは、以下の時間帯に行われます。

1 月 29 日(土) 10:00 ～ 15:30

◇定期システムメンテナンスの年間予定は：

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/-char/ja/>

※Internet Explorer 8 でのご利用について：

J-STAGE において Internet Explorer 8 で一部不具合が発生する場合があります。詳細は、こちらをご確認ください。

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/advpub/0/\\_contents/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/advpub/0/_contents/-char/ja/)

\*\*\*\*\*

☆★.....☆★

◆◆関連行事のお知らせ◆◆

☆☆.....☆☆

【第二回アジア専門図書館国際会議】

◆国際アジア専門図書館国際会議が下記のように開催されます。

International Conference of Asian Special Libraries (ICoASL 2011)

◇日 時： 2011 年 2 月 10 日（木曜日）～2 月 12 日（土曜日）

◇会 場： 国連大学（〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5.53.70）

◇Conference Theme： ユーザーの信頼獲得をめざして：デジタル時代

における専門図書館革新の重要性 "Building User Trust: The Key to Special Libraries Renaissance in the Digital Era"

☆主催：SLA アジアン・チャプター

(Special Libraries Association, Asian Chapter)

☆共催：専門図書館協議会

(Japan Special Libraries Association: JSLA)

☆協賛：国連大学 米国大使館レファレンス資料室

◆開催趣旨：

Special Libraries Association (SLA：専門図書館協会) は米国に本部を置く専門図書館・インフォプロ(情報専門家)の為の非営利団体として、世界 75 国 約 11,000 人以上の会員が参加して活発に活動しています。SLA アジアン・チャプターは、主にアジアの SLA 会員が所属している地域別コミュニティです。これまでに種々の地域会議・ワークショップを開催してきました。日本では 2008 年 2 月に専門図書館協議会とともに、「SLA-JSLA ジョイント・ミーティング」を開催し、多くの方にご参加いただきました。

アジア専門図書館国際会議 (ICoASL) はアジアのインフォプロがグローバルな視点から知識共有をし、技術を身につける場を提供する事を目的として、2008 年から開始したチャプター主催の国際会議です。今回は専門図書館協議会と共催で、日本で初めて 3 日間の国際会議を開催します。電子書籍、iPad、ツイッターなどデジタル時代の新しい動きがますます活発になっている中で、私達インフォプロはどのように革新を目指していくか、アジア・米国の専門家による講演と論文発表、SLA 独自の E-ラーニングセミナーなどを行い、グローバルな視点からの討議、学習、情報交流の場を提供します。会議は全て英語で行われますが 1 日目のみ日本語同時通訳が付き、日本の皆様にも分かりやすくなっています。

◆プログラム（詳細な最新情報は、逐次ホームページでお知らせします）

★一日目 日本語 同時通訳付き

◇2011 年 2 月 10 日（木）9:30-17:30

・場所： 国連大学 3F ウ・タント国際会議場

・基調講演： SLA2010 プレジデント（アン・カプート氏）

・アジア各国インフォプロの招待講演

・E-ラーニング(Click University)セミナー：ステファン・アブラム氏

Using Technologies Strategically: A Special Librarian's Guide

◇18:00 -20:00

- ・ベンダー製品レビュー
- ・応募論文ポスター

☆レセプション

★二日目 英語

◇2011年 2月 11日(金・祝日)

- ・場所： 国連大学 5F エリザベス・ローズ会議場
- ・応募論文発表
- ・応募論文ポスター
- ・ベンダー製品レビュー

★三日目 英語・日本語

◇2011年 2月 12日(土) 図書館見学

- ・日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所図書館(IDE Library)
- ・江戸東京博物館 図書室

◆参加費および参加申込方法

◇参加申込はメールのみにて受け付けます。

◇参加申込み：

- ・最終申込期限(参加申込書受領日)：2011年 1月 30日(日)24:00 まで
- 送付先 宛先： SLA アジアン・チャプター

asiansla@gmail.com 又は pkjain@iegindia.org

※詳細は下記をご覧ください：

<http://units.sla.org/chapter/cas/BrochureICoASL2011-Japanese.pdf>

※問い合わせ先(日本国内)：SLA アジアン・チャプター代表 佐藤京子

E-mail: [asiansla@plala.to](mailto:asiansla@plala.to)

\*\*\*\*\*

☆★.....☆☆

◇◆関連団体の行事から◆◇

☆★.....☆☆

【国立情報学研究所 N I I】公開講座：＜参加費無料＞

◆平成 22 年度市民講座 第 7 回

◇タイトル：

「マルチメディアと検索技術 ―キーボードを使わずに検索するには?―」

◇講 師： 片山紀生(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系准教授)

◇日 時： 2011 年 1 月 19 日(水) 18:30~19:45 (講義・質疑応答)

◇会 場： 学術総合センター 2 階中会議場

※詳細は：

[http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&page\\_id=315&lang=japanese](http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=315&lang=japanese)

\*\*\*\*\*

【情報科学技術協会 INFOSTA】2011 年 新年 INFOSTA パーティーへのご案内

★☆新しい年を迎え、協会の一層の発展を期し、あわせて皆さま方の親睦と情報交換の場として、下記のように「2011 年新年 INFOSTA パーティー」を開催いたします。多数のご出席をお待ちしております。会員の方にも非会員の方にも参加していただき、新しい出会いの場にしたいと思います。なお、お手数ですが、会場の都合もございますので、参加ご希望の方は、事前に事務局までご連絡下さい。

☆日 時： 2011 年 1 月 21 日（金）18:00～20:00

☆会 場： インテリジェント・ルコ

※会費は会員、非会員とも 4,000 円（当日いただきます）

※参加申し込み方法など詳細は：

<http://www.infosta.or.jp/2011party.pdf>

\*\*\*\*\*

☆☆.....☆☆

～編集後記～

今年一年も、メールマガジンは皆様のご協力で毎月の配信ができました。ありがとうございました。来年も宜しく願い申し上げます。冬至を過ぎ、寒さが一層身にしみる年の瀬ですが、皆様にはお元気で、どうぞ良いお年をお迎え下さい！

ご意見、ご感想：宛先： [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

（メールマガジン編集長：岡本由起子）

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2011.1.25 ☆ No.41

情報知識学会メールマガジン読者のみなさま

2011 年 1 月号をお届けいたします。会長年頭所感のほか、第 19 回年次大会の発表募集などのお知らせがあります。今年もメールマガジンをご活用いただきたく、よろしくお願いいたします。

=====

1 月号 CONTENTS (目次)

-----

◇◆年頭所感◆◇

【電子書籍 2 年】情報知識学会長・根岸正光

◇◆お知らせ◆◇

【第 19 回年次大会 開催のお知らせ】

【第 19 回年次大会 発表募集のお知らせ】（〆切：2 月 28 日）

◇◆関連部会の活動報告◆◇

【専門用語研究部会報告】

◇◆関連団体の行事のご案内◆◇

【第 8 回 SPARC Japan セミナー2010】

「世界における“日本の論文／日本の学術誌”のインパクト」

【科学研究費補助金研究成果報告会】

「オープンアクセス、サイバースカラシップ下での学術コミュニケーション  
の総合的研究

【国立情報学研究所 平成 22 年度市民講座第 8 回】

「脳の中に創られる世界とは？－ 脳でモノを見る－」

【情報処理学会 第 73 回全国大会】

「グリーン IT－人類の未来のための情報処理技術－」

【日本学術会議 第 4 回情報学シンポジウム】

“VISION, MISSION, PASSION－ The Fourth Paradigm  
in every aspect is coming soon”

◇◆公募情報◆◇

【東京国立近代美術館】情報研究補佐員を公募中

(※〆切は 1 月 29 日、すぐです！)

=====

---

◇◆年頭所感◆◇ 一情報知識学会長・根岸正光

---

【年頭所感 ー 電子書籍 2 年】

情報知識学会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨 2010 年は電子書籍元年といわれ、iPad など電子書籍端末(タブレット端末)が発売され、対応するコンテンツ・サービスも始まって、歴史に残るかも知れぬ年になった。情報知識学会は早期に SGML/XML の有用性に着目し、フォーラムを長年にわたって開催したことから分かるとおり、文書電子化に関わる問題は本学会にとって重要テーマである。そこで昨年 12 月の情報知識学フォーラムでは、「多様化する電子書籍端末と学術情報流通」と題してこの話題をとりあげ、幸い多くの方々の参加を得て、関心の高さが確かめられた。

また昨年は文字・活字文化振興法に基づく「国民読書年」でもあったが、10 月に筆者はその関連行事である国会図書館のデータベースフォーラムでの講演を仰せつかり、同館のデータベースの有効性を紹介することになった。話の道筋として、昔の事情にもふれざるを得ないが、これをまた年寄りの昔語りかと思われるのはシャクである。今をよりよく知るには昔をよく知らねばならぬという意味で、「温故知新」という論語の成句がある。また、かのヘーゲルによる「経験と歴史に徹するところ、国民も政府も歴史から何も学んでおらん。」というような皮肉な箴言もよく引き合いに出される。昔話の前おき、正当化のためにさしあたりこれらに言及することにした。

ところでこのヘーゲルの言葉はどうやら『歴史哲学講義』の始めの方にあるらしい。この際、受け売り、孫引きでなく、本来の語句を確かめておきたいと思ったが、現行の長谷川訳岩波文庫版もその前の鬼頭訳も著作権存続中で、さすがにネット上にテキストは見当たらない。ではともかく原典をと探ると Google ブックスに 1840 年ドゥンカー&フンブロー特版があった。しかしこのドイツ語のしかも亀の子文字を頭からたぐるのは体によくない(実際には OCR 解読した通常活字のテキストも見られるが)。

そこで思い付いて、英訳本の方から当りを付けようと探るとこれもネット上にあり、これを全文検索などして、箴言の出典らしい箇所が見つかった。これをドイツ語版と対校して、めでたく原典の該当箇所に到達、確認できたという次第であった。なお、本稿執筆にあたり改めて調べると、標題が改変されているので見落としていたが、渋江保訳『歴史研究法』、明治 27 年博文館版が国会図書館の近代デジタルライブラリーで見られる。これは英訳本からの重訳で、渋江が冒険小説に転じる以前のもので、該当箇所はそれらしくまじめに和訳されている。

というわけで、ヘーゲルの古い本を探すうちに、図らずも電子書籍、デジタルライブラリーの最新事情を体感させられることになった。これぞまさに字義通りの温故知新の実践ならむと我ながら大いに得心して、講演にも折り込んだ。それにしても、今や古い本の方が居ながらにしてネットで簡単に見られるという逆転現象が起きており、電子書籍元年では新しい本のネット配信ビジネスの話題が中心であったというのも皮肉ではある。

さて本学会では昨年、シニア会員制度の発足と関連してシニア情報知識学研究部会を設立した。2010 年 12 月号メールマガジンに掲載の細野公男監事の設立趣意と卓話会報告にあるとおり、まさに温故知新を若手会員に呼びかけるのもその眼目である。今を知り将来を考えるために過去を学ぶ。電子書籍 2 年の年頭にあたり、改めて孔子やヘーゲルの箴言を思い起こしつつ、会員諸氏の活躍により、本年も実り多い学会活動が展開されるよう期待したい。特に 2011 年度の年次大会は、香川大学の堀幸雄実行委員長により 5 月に海を渡って高松で開催される。この際、会員各位の積極的な参加、発表、討論をお願いして、年頭あいさつの結びとする次第である。

---

◇◆お知らせ◆◇

---

#### 【第 19 回 年次大会開催のお知らせ】

◇情報知識学会・第 19 回(2011 年度)年次大会(研究報告会&総会)開催されます。

◆実行委員長 堀 幸雄 (香川大学)

実行委員 田窪 直規 (近畿大学)

原田 隆史 (慶應義塾大学)

梶川 裕矢 (東京大学)

◆日 時： 2011 年 5 月 28(土) - 29 日(日)

◆会 場： 香川大学 幸町キャンパス 研究交流棟 5F 研究者交流スペース

※地 図： <http://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/>

※大会 URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsik/kenkyu/2011/2011cfp.html>

※お問い合わせは： [jsik2011@whitebase.org](mailto:jsik2011@whitebase.org)

☆★.....☆☆

#### 【第 19 回年次大会 発表募集のお知らせ】

◇研究報告会の発表論文を下記要領で募集いたしますので、学会員の皆様どうぞ奮ってご応募ください。詳しくは下記の「募集サイト」をご覧ください：

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsik/kenkyu/2011/2011cfp.html>

◆ 1. 募集分野

(1) 情報知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見

- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス
- (6) 知識情報の流通と知的所有権
- (7) 専門分野における情報の品質管理、基準化
- (8) インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
- (9) その他情報知識学に関連する諸研究・開発

◆ 2. 応募方法

- \* 登録方法：登録フォームから必要情報を登録: <http://tinyurl.com/2c7xw95>
- \* 応募期限: 2011 年 2 月 28 日 (月)
- \* 採択可否通知: 2011 年 3 月 11 日 (金)
- \* 原稿提出期限: 2011 年 4 月 8 日 (金)

◆ 3. 論文執筆・発表について

1. 原稿の体裁は、学会誌の論文執筆要領に準拠してください。
2. 発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。論文提出がないと発表できません。
3. 登壇発表者は当学会員に限ります。当日入会も可能です。
4. 本論文も WEB 上での提出を予定しています。具体的な方法は採否決定時に改めて連絡いたします。
5. 予稿原稿ページ数は 6 ページ以内を基本とします。超過した場合は、2 ページ単位で 2,000 円ずつ超過料金が発生します。  
(例: 超過 1~2 ページ 2,000 円、超過 3~4 ページ 4,000 円)

◆ 4. お問い合わせ先

- \* 〒760-0016 香川県高松市幸町 2-1
- \* 香川大学 総合情報センター内
- \* 第 19 回 (2011 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会
- \* Tel/Fax: 087-832-1297 EMail: [jsik2011@whitebase.org](mailto:jsik2011@whitebase.org)

---

◇◆部会の活動報告◆◇

---

【専門用語研究部会報告】

2010 年 10 月 21、22 日に中国：昆明で EAFTerm(東アジア専門用語フォーラム)が開催されました。参加国は、中国、韓国、日本、オーストリアで、今回はモンゴルが欠席でした。現在実務的なプロジェクトは動いていませんが、EAFTerm での動きが発端となって作成された ISO のコンセプトデータベース (ISO 用語データベース) を多言語化するためのサポート要請などについて話しがありました。また現在の参加国以外のアジアの各国へ広げた場合などについての議論が行われました。

これらの動きについて 1 月 19 日に専門用語研究部会幹事に対して報告を行いました。参加国を広げた際に各国へどのような貢献ができるのかについて議論があり、特に東南アジア各国言語における専門用語の必要性について意見がでました。現在善し悪しは別にして英語の専門

用語を各国の言語に如何に取り入れるかが問題となっており、その面では日本の経験が役立つのではないかと意見がありました。

本年度の ISO/TC37（用語関係）の年次大会は、6月12～17日韓国ソウルで開催されます。ヨーロッパ各国で開催されることが多いのですが、2008年の北京に次いで2回目のアジアでの開催です。残念ながら日本では未開催ですが、日本として多数の参加があれば願っています。ちなみに6月10、11日には詳細未定ですがシンポジウムが開催されるようです。こちらは興味をお持ちの方だけでも参加できると思いますので、ぜひ参加下さい。詳細が分かり次第メルマガでお知らせします。

（専門用語研究部会事務局 長田）

---

◆◆関連団体の行事のご案内◆◆

---

【第8回 SPARC Japan セミナー2010】

◆テーマ：「世界における”日本の論文／日本の学術誌”のインパクト」

◆日 時： 2011年2月3日（木）13:30-17:00

◆場 所： 学術総合センター 2階 中会議場 1,2 （定員 120名）

地図 URL <http://www.nii.ac.jp/introduce/access1-j.shtml>

※参加申込期限：2011年1月31日（月）

※問い合わせ先：co\_sparc\_all@nii.ac.jp

※詳細は：<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2010/20110203.html>

◆概要：

日本の研究論文/学術誌は、今、世界の中でどのような位置にあるのでしょうか。

2010年12月に、時を同じくして「世界における"日本の論文/日本の学術誌"のインパクト」を異なる観点から調査分析した2つの報告書が出されました。

国立情報学研究所・根岸名誉教授による「日本の学術論文と学術雑誌の位置付けに関する計量的調査分析」では、いわゆる日本の研究論文の海外流出率や、日本誌の世界的位置付けに関する諸指標が明らかになっています。当該調査の前段階にあたる2003年発表の調査結果にもとづき、「国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）」の事業が展開されました。その成果と今後の課題についても、言及されています。

科学技術政策研究所・阪主任研究官による「科学研究のベンチマーキング2010・論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況-」では、我が国の科学研究のベンチマーキングとして、個別指標（①論文数、②Top10%論文数、③被引用数）と、複合指標（④論文数に対するTop10%論文数の占める割合、⑤相対被引用度）により、多角的に主要国を分析し、日本の状況を分野ごとに明らかにしています。

このたび、両報告書の著者ご本人による講演をしていただけることとなり、第8回 SPARC Japan セミナーとして開催することとなりました。関係各位におかれましては、ぜひご参加いただき、活発なご議論をいただきますよう、ご案内いたします。

◆参加対象者：

研究者、及び学協会、研究機関、図書館、学術出版関係者等

◆プログラム：

- 13:30-13:45 趣旨説明
- 13:45-14:45 「科学研究のベンチマーキング 2010」  
ー論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況  
阪 彩香 (文部科学省 科学技術政策研究所 主任研究官)
- 14:45-15:00 休憩
- 15:00-16:15 「日本の学術論文と学術雑誌の位置付けに関する計量的  
調査分析」  
ー日本の論文の『海外流出率』の動向を中心として」  
根岸 正光 (国立情報学研究所 名誉教授/SPARC Japan  
運営委員長)

16:15-17:00 ディスカッション

司会進行：永井 裕子 (日本動物学会)

☆★.....☆☆◆

「オープンアクセス、サイバースカラシップ下での学術コミュニケーションの  
総合的研究」研究成果報告会のご案内

趣旨：平成 20-22 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「オープンアクセス、サイバー スカラシ  
ップ下での学術コミュニケーションの総合的研究」(研究代表者：倉田敬子)の研究成果報告  
会を下記の要領で開催いたします。

◆日時：2011 年 2 月 5 日 (土) 13:00-17:00

◆場所：慶應義塾大学三田キャンパス東館 6F G-SEC Lab

◆地図：<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

(キャンパスマップ 4 番の建物)

※事前の参加申し込みは不要です。

※詳しくは <http://www.openaccessjapan.com/> をご覧ください。

#### ◆プログラム

最初に海外学術雑誌に発表した日本人は誰なのか

上田修一 (慶應義塾大学文学部)

日本における電子ジャーナルの発行状況

時実象一 (愛知大学文学部)

MEDLINE 収録の日本の医学系雑誌の電子化状況とインパクトの変化

林和弘 (日本化学会、科学技術政策研究所)

オープンアクセスの進展と電子ジャーナルの利用統計

加藤信哉 (東北大学附属図書館)

大学図書館の提供雑誌が研究者の引用行動へ及ぼす影響

横井慶子 (慶應義塾大学大学院)

生物医学分野においてオープンアクセスはどこまで進んだのか：2005 年、

2007 年、2009 年のデータの比較から

森岡倫子 (国立音楽大学附属図書館)

オープンアクセス実現手段の新機軸：すべては PubMed のもとに

三根慎二 (三重大学人文学部)



“Paradigm in every aspect is coming soon”

◆主 催： 日本学術会議情報学委員会（申請中）

◆後 援： 早稲田大学

◆日 時： 平成 23 年 3 月 5 日（土） 13：00～17:10

◆場 所： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

◆アクセス： 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 出口

※参加希望者は下記添付の申し込みフォームにご記入の上、お申し込みください。

※参加費： 無料

◆プログラム

13:00-13:10 開会挨拶

村岡 洋一（情報学委員会委員長）

13:10-14:30 迫力ある教育と分野の構築

“On Building a World Class University: Challenges and Opportunities”

Mounir Hamdi（香港科技大学）

“Computer Science Theory to Support Research in the Information Age”

John Hopcroft（Cornell University）

14:30-14:50 休憩

14:50-16:10 迫力ある研究テーマ

“Democratizing Access to the Data Explosion with Cloud Computing”

Dennis Gannon（Microsoft Research）

「ICT パラダイムシフトに向けたイノベーション実証基盤のあり方」

青山 友紀（慶應義塾大学）

16:10-16:50 迫力ある学生

「光いずる珠—IT 人材を見いだす「未踏ユース」

笈 捷彦（早稲田大学）

16:50-17:10 日本学術会議 活動報告

「情報学分野のマスタープランについて」

西尾 章治郎（情報学委員会幹事）

「日本学術会議の現状について」

武市 正人（情報学委員会副委員長）

◆本件に関する問い合わせ先

安達 淳（第 4 回情報学シンポジウム実行委員、国立情報学研究所）

e-science-sec@nii.ac.jp

◆参加申し込みフォーム（送付先：e-science-sec@nii.ac.jp）

お名前：

ご所属：

E-MAIL：

連絡事項：

※備考：日本学術会議の情報学委員会および分科会に関係する会員・連携会員の方々には別途、事務局より出欠の調査がありますので、このフォームでお申し込みいただく必要はござ

いません。

---

◇◆公募情報◆◇

---

【東京国立近代美術館】情報研究補佐員を公募中です。

お心当たりの方がいましたら、ご応募、ご紹介ください。

※申込み締切： 2011 年 1 月 29 日（木）

※詳細は： [http://www.momat.go.jp/jinji/saiyou2010\\_1210.pdf](http://www.momat.go.jp/jinji/saiyou2010_1210.pdf)

（田良島常務理事からの情報）

---

☆☆編集後記☆☆

時間が経つのは早いものです。あっという間に、1 月も半ばを過ぎてしまいました。

みなさまは、2011 年をどうお迎えでしょうか。全国的にインフルエンザが本格的に流行しはじめているそうです。今年は昨年と傾向が異なり、成人の感染率が高いとのことで、年始から年度末に向けて、いろいろとお忙しいと思いますが、しっかりと体調管理したいものですね。今年もみなさまの研究がますます発展するよい一年になりますよう願っております。

ご意見、ご感想は [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) まで、気軽にお寄せください。

メールマガジン 2011 年 1 月号担当 孫 媛（国立情報学研究所）

---

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2011.2.25 ☆ No.42

情報知識学会メールマガジン読者のみなさま

2011 年 2 月号をお届けいたします。第 19 回年次大会のほか、第 8 回論文賞の推薦募集や関西西部会研究会案内があります。年次大会の発表募集は 2 月 28 日までと期日は迫っていますが、是非御検討下さい。また、本学会 Web サイトが移転しました。お知らせを御覧の上でブックマークや他ページからのリンクの変更をよろしくお願いします。

---

2 月号 CONTENTS (目次)

---

◇◆お知らせ◆◇

【第 19 回年次大会 開催のお知らせ】 05/28(土)-29(日)

【第 19 回年次大会 発表募集のお知らせ】（〆切：2 月 28 日）

【第 8 回（2011）論文賞 推薦開始のお知らせ】（推薦〆切：3 月 20 日）

【2010 年度第 2 回（通算第 14 回）情報知識学会関西西部会研究会案内】 03/28(月)

【情報知識学会 Web サイトの移転とリニューアル】

◇◆関連団体の行事のご案内◆◇

【情報処理学会 第 73 回全国大会】 03/02(水)-03/04(金)

【日本学術会議 第 4 回情報学シンポジウム】 03/05(土)

【Code4Lib JAPAN Code4Lib 2011 参加報告会&Camp】 03/05(土)-03/07(月)

【第 40 回デジタル図書館ワークショップ】 03/10(木)

【SIST セミナー ―効率的な情報流通のための学術雑誌・論文の作成―】

京都: 03/11(金), 東京: 03/14(月)

【国立国会図書館 講演会 (ブリュースター・ケール氏)】 03/24(木)

---

◇◆お知らせ◆◇

---

【第 19 回 年次大会開催のお知らせ】

◇情報知識学会・第 19 回(2011 年度)年次大会(研究報告会&総会)開催されます。

◆実行委員長 堀 幸雄 (香川大学)

実行委員 田窪 直規 (近畿大学)

原田 隆史 (慶應義塾大学)

梶川 裕矢 (東京大学)

◆日 時: 2011 年 5 月 28(土) - 29 日(日)

◆会 場: 香川大学 幸町キャンパス 研究交流棟 5F  
研究者交流スペース

※地 図: <http://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/>

※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?2011cfp>

※お問い合わせは: [jsik2011@whitebase.org](mailto:jsik2011@whitebase.org)

☆★.....☆☆

【第 19 回 年次大会 発表募集のお知らせ】

◇研究報告会の発表論文を下記要領で募集いたしますので、学会員の皆様どうぞ奮ってご応募ください。詳しくは下記の「募集サイト」をご覧ください:

<http://www.jsik.jp/?2011cfp>

◆ 1. 募集分野

- (1) 情報知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス
- (6) 知識情報の流通と知的所有権
- (7) 専門分野における情報の品質管理、基準化
- (8) インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
- (9) その他情報知識学に関連する諸研究・開発

◆ 2. 応募方法

\* 登録方法: 登録フォームから必要情報を登録: <http://tinyurl.com/2c7xw95>

\* 応募期限: 2011 年 2 月 28 日 (月)

\* 採択可否通知: 2011 年 3 月 11 日 (金)

\* 原稿提出期限: 2011 年 4 月 8 日 (金)

◆ 3. 論文執筆・発表について

1. 原稿の体裁は、学会誌の論文執筆要領に準拠してください。
2. 発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。論文提出がないと発表できません。
3. 登壇発表者は当学会員に限ります。当日入会も可能です。
4. 本論文も WEB 上での提出を予定しています。具体的な方法は採否決定時に改めて連絡いたします。
5. 予稿原稿ページ数は 6 ページ以内を基本とします。超過した場合は、2 ページ単位で 2,000 円ずつ超過料金が発生します。  
(例: 超過 1~2 ページ 2,000 円、超過 3~4 ページ 4,000 円)

◆ 4. お問い合わせ先

- \* 〒760-0016 香川県高松市幸町 2-1
- \* 香川大学 総合情報センター内
- \* 第 19 回 (2011 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会
- \* Tel/Fax: 087-832-1297 EMail: jsik2011@whitebase.org

☆★.....☆☆

【第 8 回 (2011) 論文賞 推薦開始のお知らせ】

第 8 回 (2011) の論文賞の選定を行います。昨年同様の選考方式に基づき、学会員が直接投票で選びます。論文賞推薦委員会の委員は、長塚副会長 (委員長)、根岸会長、国沢編集委員長、田良島常務理事の 4 名です。

(1) 選定の日程

- 1 論文賞の候補の推薦。本学会員 (正会員, 賛助会員) は、推薦委員会に対して論文賞にふさわしいと思われる論文をその理由をつけて推薦する。
  - ・推薦開始 : 2011 年 2 月 25 日
  - ・推薦締切り : 2011 年 3 月 20 日
- 2 推薦委員会は、会員からの推薦論文が多数の場合は一次選考を行い、また少数の場合は推薦委員会により追加推薦を行って、候補論文を決定する。
  - ・候補決定 : 3 月 25 日
- 3 これら論文賞候補論文とその推薦理由を学会ホームページおよびメルマガ等に掲載し、会員に投票を依頼する。なお、推薦者の名前、人数などは公表しない。
  - ・投票開始 : 3 月 25 日
  - ・投票締切り : 4 月 23 日
- 4 投票の結果、最多得票の論文を論文賞授賞論文とする。ただし、推薦委員会は得票数や論文内容などを勘案し、得票数第 2 位の論文についても論文賞とすることができる。
- 5 選定結果発表
  - ・授賞式 : 次期総会 (5 月 28 日 (土)) において

(2) 推薦対象論文 (下記 6 件, 掲載順)

1. 久保 順子, 辻 慶太, 杉本 重雄: 異なる学問分野のコーパスを利用した専門用語抽出手法の提案 Vol. 20, No. 1, pp.15-31.

2. 下山 二郎: 観光サービスにおけるユビキタスシステムの開発と実証  
Vol. 20, No. 3, pp.231-238.
3. 川橋 裕: 情報危機管理における演習環境の構築と運用 Vol. 20, No. 3, pp.239-248.
4. 高久 雅生, 江草 由佳, 寺井 仁, 齋藤 ひとみ, 三輪 眞木子, 神門 典子:  
タスク種別とユーザ特性の違いが Web 情報探索行動に与える影響: 眼球運動  
データおよび閲覧行動ログを用いた分析 Vol. 20, No. 3, pp.249-276.
5. 梶並 知記, 高間 康史: Poker-Maker モデル: ユーザの検索意図を反映する  
キーワードマップと情報収集エージェントの連携による探索的情報検索  
Vol. 20, No. 3, pp.277-292.
6. 村井 源: 漸近の対応語彙推定法に基づく翻訳文の解釈的特徴の抽出 -日本語  
翻訳聖書の計量的比較- Vol. 20, No. 3, pp.293-310.

<注> これらは学会誌の他, オンライン (J-Stage) でも論文全文を参照できる.

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/-char/ja/>

#### (3) 推薦方法・締め切り

推薦する論文について, 400 字程度の推薦理由を付して, 2011 年 3 月 20 日までに,  
学会事務局 (jsik(at)nifty.com), および, 推薦委員会 (nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp) あてに,  
電子メールで送信する。形式自由。ただし, SUBJECT 欄に「論文賞候補推薦状」と明示する  
こと。

#### (4) 意見募集

来年度以降の選定方式の改定について会員の意見を求めます。例えば現状では、年度単位  
のため論文賞の対象とする論文が少ないので、例えば2年置きに選定する、あるいは2年間にわ  
たって（前年度の論文も重複して）対象にする等の案も考えられます。

※ご意見は、事務局 (jsik(at)nifty.com) まで。

☆★.....☆☆

#### 【2010 年度第 2 回（通算第 14 回）情報知識学会関西部会研究会案内】

あらゆる知識への万人によるアクセス

今回は、Wayback Machine と Internet Archive の創立・主宰者として有名なブリュースタ  
ー・ケール氏をお招きして、標記のタイトルで講演をお願いします。ネット界の有名人と会え  
るまたとない機会なので、奮ってご参加ください。なお、今回は通訳が付きます。

記

日 時：2011 年 03 月 28 日（月） 14：00～17：00

会 場：大阪大学中之島センター

大阪市北区中之島 4 丁目 3 番 53 号 Tel. 06-6444-2100

アクセスは以下を参照

<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>

論 題：あらゆる知識への万人によるアクセス

発表者：ブリュースター・ケール氏 (Internet Archive)

通訳：時実象一氏（当会理事；愛知大学）

概 要：

世界のウェブ・ページを網羅的に収集している Wayback Machine と、世界の書籍、音声、

動画をデジタル化して無料公開している Internet Archive はよく知られています。これを創立・主宰しているブリュースター・ケール氏が、世界のあらゆる知識をインターネットを通じて世界中に無料でアクセス／提供する理想について語ります。

参考文献：

時実象一（インタビュー）．世界の知識の図書館を目指す Internet Archive  
創設者 Brewster Kahle へのインタビュー．情報管理. 2009, 59(9), p.534-542.  
<http://bit.ly/4Vs2er>

共 催：アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会、記録管理学会

後 援：科学技術振興機構、情報科学技術協会

問合先：田窪直規（情報知識学会関西西部会長） Mail: [takuboAMmsa.kindai.ac.jp](mailto:takuboAMmsa.kindai.ac.jp)

会 費：主催・後援団体会員 200 円（非会員 400 円） 学生半額

\*事前申込制ではありませんので、お気軽にお越しください。

\*研究会終了後、発表者を囲んでの懇親会を予定しておりますので、ご参加下さい。

☆★.....☆☆

#### 【情報知識学会 Web サイトの移転とリニューアル】

このたび、情報知識学会の Web サイトの移転とリニューアルを同時に行ないました。

新 Web サイトの URL は <http://www.jsik.jp/> です。これまで使用していた旧 URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsik/> は廃止となります。当分のあいだ新 URL へ転送されますが、これまでこの URL をブックマークやリンク等で使われていた方は変更をお願い致します。

新 Web サイトのコンセプトは「学会の活動をシンプルに可視化」です。学会のニュースはトップページに表として一覧化してみやすくし、学会の活動で特に目立たせて広報が必要なものは最上部に特出しすることとし（現在ですと香川開催の年次大会）、次に目立たせたいものは「ピックアップ」として抜き出して表示させるようにしました。また、左メニューは学会の活動やお知らせなどの中でも特に目立たせたいものや更新頻度が高いものを選びました。

新サイトでは、Wiki システムを採用したため Web ブラウザを使って更新することが可能になり、年次大会の実行委員や各部会の担当者自身が担当 Web ページをタイムリーに更新しやすくなりました。また、サイト内検索や RSS 配信も行なえるようになりました。次にサイト移行とリニューアルの経緯について説明します。

2012 年 3 月末に国立情報学研究所学協会情報発信サービスが停止するため、これまで、このサービスを利用してきた当学会 Web サイトを他のサービスへ移行する必要ができました。そこで、常務理事会で検討の結果、さくらインターネットのレンタルサーバに移行し、移行の作業や手続の確認について原田常務理事と私(江草)が担当することとなりました。

また、同時に、これまで静的な HTML として作成していた Web サイトを PukiWiki システムを利用するように変更することも常務理事会で決定しました。PukiWiki システムは、Web サイト管理の負担を分担するために採用されました。既存の Web サイトのデータ(約 330 ファイル)を PukiWiki に変換する作業については、アルバイト(筑波大学 4 年生の池田光雪さん)に業務依頼することとしました。

昨年 11 月下旬から 1 月末までの約 2 ヶ月で PukiWiki へのデータ移行を行い、その後、私と高久理事で見栄えやサイト構成の調整を行うとともに、各理事に最終確認をお願いし、2 月 18 日

の常務理事会により承認されました。2 月の中旬にさくらインターネットへのドメイン指定事業者変更の手続きを行なったため、順調に行けばこのメールマガジンが発行されるころには無事リニューアルが完了していることと思います。

(江草由佳)

---

◇◆関連団体の行事のご案内◆◇

---

☆☆.....☆☆

【情報処理学会 IPSJ】第 73 回全国大会

◇大会スローガン：グリーン IT—人類の未来のための情報処理技術—

◆会 期： 2011 年 3 月 2 日（水）～4 日（金）

◆会 場： 東京工業大学 大岡山キャンパス

（東京都目黒区大岡山 2-12-1）

※大会聴講参加・講演論文集・懇親会 事前予約申込受付中

※申込み締切： 2011 年 2 月 10 日（木）19:00

※詳細は： <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/73kai/index.html>

☆☆.....☆☆

【日本学術会議 情報学シンポジウム】

日本学術会議情報学委員会では、過去 3 回にわたり、「情報学シンポジウム」を公開で催し、日本における情報分野のさらなる発展を期す議論をして参りました。この度、引き続いて第 4 回目のシンポジウムを企画いたしましたのでご案内を申し上げます。

第 4 回シンポジウムでは、多少沈滞気味と言われている我が国に大活力を与えるために、“VISION, MISSION, PASSION - The Fourth Paradigm in every aspect is coming soon” と題して、教育、研究、学生の観点から、それぞれ迫力のある話題を企画しました。それらの話題をもとに、一般の方々からも広く意見をいただき、我が国の情報分野が大いに活気を呈するように熱気のこもった議論が展開されることを期待しております。一人でも多くの方が、本シンポジウムにご参加いただけますようにご案内申し上げます。

◇第 4 回情報学シンポジウム “VISION, MISSION, PASSION— The Fourth Paradigm in every aspect is coming soon”

◆主 催： 日本学術会議情報学委員会（申請中）

◆後 援： 早稲田大学

◆日 時： 平成 23 年 3 月 5 日（土） 13：00～17:10

◆場 所： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

◆アクセス： 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 出口

※参加希望者は下記添付の申し込みフォームにご記入の上、お申し込みください。

※参加費： 無料

◆プログラム

13:00-13:10 開会挨拶

村岡 洋一（情報学委員会委員長）

13:10-14:30 迫力ある教育と分野の構築

“On Building a World Class University: Challenges and Opportunities”

Mounir Hamdi (香港科技大学)

“Computer Science Theory to Support Research in the Information Age”

John Hopcroft (Cornell University)

14:30-14:50 休憩

14:50-16:10 迫力ある研究テーマ

“Democratizing Access to the Data Explosion with Cloud Computing”

Dennis Gannon (Microsoft Research)

「ICT パラダイムシフトに向けたイノベーション実証基盤のあり方」

青山 友紀 (慶應義塾大学)

16:10-16:50 迫力ある学生

「光いずる珠—IT 人材を見いだす「未踏ユース」

寛 捷彦 (早稲田大学)

16:50-17:10 日本学術会議 活動報告

「情報学分野のマスタープランについて」

西尾 章治郎 (情報学委員会幹事)

「日本学術会議の現状について」

武市 正人 (情報学委員会副委員長)

◆本件に関する問い合わせ先

安達 淳 (第4回情報学シンポジウム実行委員、国立情報学研究所)

e-science-sec@nii.ac.jp

◆参加申し込みフォーム (送付先: e-science-sec@nii.ac.jp)

お名前:

ご所属:

E-MAIL:

連絡事項:

※備考: 日本学術会議の情報学委員会および分科会に関係する会員・連携会員の方々には別途、事務局より出欠の調査がありますので、このフォームでお申し込みいただく必要はございません。

☆☆.....☆☆

【Code4Lib JAPAN: Code4Lib 2011 参加報告会&Camp 開催のお知らせ】

昨年に引き続き、今年も帰国後に Code4Lib 2011 参加報告会を 3 月 5 日 (土) に開催します。報告会では、渡航派遣者の報告に加え、ライトニングトークなどの話題提供も予定しています。また、今年は報告会に引き続き Code4Lib JAPAN 初のテクニカル Camp を予定しています。詳細・最新情報は <http://www.code4lib.jp/2011/01/360/> を御覧下さい。

会場: 南青山会館: 東京都港区青山 5 丁目 7-10

(詳細: <http://www.nissoken.com/s-map/351-11.html>)

\*Code4Lib 2011 参加報告会概要

日時: 2011 年 3 月 5 日 (土曜)

12:30- 受付開始

13:00-15:00 報告会

参加費：無料

**\*Code4Lib JAPAN Camp 2011 概要**

日時：2011 年 3 月 5 日（土曜）報告会終了後～3 月 7 日（月曜）

3 月 5 日（土） 15:20 開始

- ・Camp 参加者によるライトニングトーク
- ・懇親会（17:30～19:30）

3 月 6 日（日）

- ・開発

3 月 7 日（月） 11:50 解散

- ・成果のまとめ等
- ・表彰

参加費

- ・懇親会（一般）：4,000 円／（学生）：2,000 円
- ・Camp（一般）※：20,000 円／（学生）※：18,000 円

※懇親会費、宿泊費、食事代を含みます。

※Code4Lib JAPAN サポーターは 3200 円引きとなります。

遠方の学生には Travel Support の制度も用意する予定です。

**\*申込方法**

専用申込みフォーム（<http://bit.ly/c4ljp-camp2011>）より

☆☆.....☆☆

**【第 40 回デジタル図書館ワークショップ】**

日 程：平成 23 年 3 月 10 日（木）

会 場：筑波大学東京キャンパス（秋葉原地区）

（千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 14 階）

<http://www.lawschool.tsukuba.ac.jp/gaiyo/access.html>

[交通手段]

JR 秋葉原駅 徒歩 1 分

つくばエクスプレス 秋葉原駅 徒歩 3 分

東京メトロ日比谷線 秋葉原駅 徒歩 4 分

デジタル図書館ワークショップに関する最新の情報は下記 URL をご覧ください。

<http://www.dl.slis.tsukuba.ac.jp/DLworkshop/>

◎ 参加費：無料

◎ 定員：50 名

◎ 参加申し込み：

氏名、所属を添えて、

[dlw40-registration\\_AT\\_dl.slis.tsukuba.ac.jp](mailto:dlw40-registration_AT_dl.slis.tsukuba.ac.jp)

までお申し込みください。

（お手数ですが「\_AT\_」の部分は「@」で置換願います。）

◎ プログラム

平成 23 年 3 月 10 日 (木) 13:00 - 17:00

[13:00 - 14:00]

1. Google ブックスとクラウドコンピューティング

講演：佐藤陽一（グーグル株式会社）

[14:00 - 14:30]

2. Code4Lib JAPAN - 2010 年度活動を振り返って

パネルセッションに先立ち、2010 年度に設立した Code4Lib JAPAN の設立趣旨と初年度の活動について簡単に紹介します。

講演：丸山高弘（Code4Lib JAPAN 代表/山中湖情報創造館、NPO 法人地域資料デジタル化研究会）

[14:30 - 15:00] (休憩)

[15:00 - 17:00]

3. Code4Lib JAPAN スペシャル・パネル

「システムライブラリアンの要請と養成」

昨年より電子書籍端末ブームに伴い電子書籍が話題を呼んでいます。そのような資料・情報源の多様化に加え、図書館システム利用の民間での新たなサービス構築や外部サービスとの連携の活発化など、図書館における情報技術の利活用の要請が高まっています。そのような状況で図書館員や図書館に関わる技術者・研究者らの有志により、情報技術やシステムに関して切磋琢磨しようという様々なコミュニティが立ち上がっています。Code4Lib JAPAN もそういった情報技術やシステムに通じ、これからの図書館運営に寄与できるような人々の養成を視野に設立しました。

本パネルではこのような状況から、これからの図書館を支える情報技術者あるいはシステムライブラリアンの姿やその養成について、各コミュニティに参加されている方々をお招きし、ざっくばらんな意見交換を通じて問題意識の共有と課題の明確化を目指したいと考えています。

パネリスト：

川嶋 斉（公共図書館 WEB サービス勉強会/野田市立図書館）

清田陽司（マイニング探検会/東京大学情報基盤センター）

田辺浩介（Project Next-L/慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程）

原田隆史（慶應義塾大学文学部）

以下、交渉・調整中

DRF-tech

Code4Lib JAPAN

コーディネータ：

宇陀則彦（筑波大学図書館情報メディア研究科）

☆★.....☆☆

【SIST セミナー ―効率的な情報流通のための学術雑誌・論文の作成―】

昨年 3 月に学術雑誌と学術論文についての 2 つの基準が、今日の電子化状況を踏まえて、「学術雑誌の発行と構成」（SIST 07）および「学術論文の執筆と構成」（SIST 08）として改訂されました。今回はこの改訂版と、学術論文の構成要素であり、皆様のご関心の高い「参照文献の

書き方」(SIST 02:2007)について、紹介いたします。

京都(3月11日【金】)と東京(3月14日【月】)で、同一内容のセミナーを開催いたしますので、論文執筆、情報リテラシー教育、学協会誌・技報等の編集、図書館・企業等の情報管理等の業務に携わっておられる方々、特に、学協会誌・技報・論文誌・紀要などの編集スタッフ・編集委員の方、論文作成に係わる方およびその指導に当たられる方は是非ご参加下さい。(以上公式サイトより抜粋)

詳細は <http://sist-jst.jp/seminar201103/index.html> を御覧下さい。

☆★.....☆☆

【国立国会図書館 講演会】

題目

- ・講演「あらゆる知識へのユニバーサルアクセス—誰もが自由に情報アクセス  
できることを目指して」  
ブリュースター・ケール氏 (IA 創設者)
- ・鼎談  
ブリュースター・ケール氏  
時実象一氏 (愛知大学教授)  
長尾真 (国立国会図書館長)

※同時通訳付 (英⇄日)

日時: 平成 23 年 3 月 24 日(木) 14:00 ~ 17:00 (13 時 30 分より受付開始)

会場: 国立国会図書館東京本館新館講堂

募集人数: 300 名 (先着順)

参加費: 無料

申込み方法:

以下のページより申込みフォームに必要事項をご記入の上お申し込み下さい。

<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/20110324lecture.html>

また、FAX でもお申込みいただけます。以下の必要事項をご記入の上、下記お問い合わせ先の FAX 番号までお送りください。

1. 講演会名 (ブリュースター・ケール氏講演会)
2. お名前
3. お名前のよみ
4. FAX 番号

申込み締切:

平成 23 年 3 月 18 日 (金) 17 時 (先着順で定員となり次第、受付を終了します。)

お問い合わせ先:

〒100-8924 千代田区永田町 1-10-1

国立国会図書館総務部支部図書館・協力課協力係

電話: 03-3581-2331 (代表)

FAX: 03-3508-2934

電子メール: [lecture@ndl.go.jp](mailto:lecture@ndl.go.jp)

(以上公式サイトより抜粋・編集)

詳細は <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/20110324lecture.html> を御覧下さい。

☆☆編集後記☆☆

2011 年も早 2 カ月が経とうとしています。今年は世間ではテレビ放送のデジタル化が話題ですが、今月はインターネットでも IPv4 アドレスの中央枯渇という大きな節目を迎えました。各地域の流通在庫もありますが、秋には本格的に IPv6 対応が問題になると見られています。本学会も Web サイトが移転しましたが、動いているものを変えるのはなかなか難しいものです。今やインターネットは情報流通基盤として欠かせませんが、この変化をうまく乗り切れるのかどうか気がなるところです。

ご意見、ご感想は [jsik\(at\)nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) まで、気軽にお寄せください。

メールマガジン 2011 年 2 月号担当 阪口 哲男（筑波大学）

\*\*\*\*\*

震災お見舞いとメール・マガジン 3 月号休刊のお知らせ

情報知識学会会員 各位

今般の震災被害に会われた方々、関係の方々に心よりお見舞い申し上げます。その後も余震、停電等、その影響は継続しており、業務、研究に困難を来している会員の方々も多いと思われ、お察し申し上げます。

メール・マガジン 3 月号については、発刊に向けて準備しつつありましたが、こうした事態の推移に鑑み、休刊することに致しましたのでお知らせ致します。5 月 28-29 日、香川での年次大会は、幸いに 26 件の発表申し込みを頂き、予定通りの開催をめざして実行委員会にて準備が進められており、盛会が期待されます。なお、発表予稿原稿の締め切りが 4 月 8 日になっていましたが、これを延期してもらうよう会長より実行委員会に申し入れているところで、関係の方々はご承知おき下さい。

学会事務局は、建物被害は軽微であったものの、局長は地震当夜帰宅できず、その後も通勤事情には不安のある状況ではありますが、平常の業務体制にあります。

この際、会員各位におかれは、一層のご自愛賜りますようお願い致します。

2011 年 3 月 23 日

情報知識学会

会長 根岸正光

メール・マガジン編集長 岡本由起子

事務局長 五所吉哉

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

☆☆◆ 情報知識学会 メールマガジン ◆☆☆ 2011.4.1 ★ No.43

臨時増刊号をお届けします

◆◆ 年次大会発表原稿についてのお知らせ ◆◆

◆◆ 論文賞候補論文に対する会員投票の公告 ◆◆

☆★.....☆★

【情報知識学会 第19回(2011年度)年次大会】

◆◆年次大会発表原稿についてのお知らせ◆◆

地震などのために作成に時間がかかる方もおられるということで情報知識学会第19回(2011年度)年次大会にエントリーした方を対象とした原稿の締め切りを延長することとなりました。

新しい原稿の締め切りは「2011年4月30日(土)」といたします。

年次大会は予定通り 5/28(土)・5/29(日)に香川大学にて開催されます。

プログラムも近日中に公開しますので、皆さまふるってご参加ください。

情報知識学会 2011年度大会実行委員会

<http://www.jsik.jp/?2011cfp>

☆★.....☆★

【第8回(2011)情報知識学会論文賞】

◆◆論文賞候補論文に対する会員投票の公告◆◆

2011年3月31日

論文賞推薦委員会(長塚、根岸、国沢、田良島)

第8回(2011)の論文賞は、「学会員の選ぶ論文賞」として、全学会員の直接投票に基づいて選定します。投票に先立ち論文賞候補論文の推薦を募集したところ、会員から下記1件について推薦があり、論文賞推薦委員会にて審議の結果、この論文を候補として、会員各位の投票を募ることに致しました。投票にご参加下さるようお願いします。

(1) 投票方法

同封の2011年度総会出欠票はがきの論文賞投票欄に、この論文の「諾」「否」を記入し、4月30日必着にて投函する。

(2) 開票および結果発表

論文賞推薦委員会において開票し、「諾」が「否」を上まわる場合、論文賞授賞論文とする。ただし、同票の場合には論文賞推薦委員会が決定する。選定結果の発表および授賞式は2011年度総会の席上にて行う。

(3) 投票対象候補論文および推薦理由

「タスク種別とユーザ特性の違いがWeb情報探索行動に与える影響：

眼球運動データおよび閲覧行動ログを用いた分析」

Vol. 20, No. 3, pp249-276, 2010

(高久 雅生, 江草 由佳, 寺井 仁, 齋藤 ひとみ, 三輪 眞木子, 神門 典子)

本論文は、Web利用者の情報探索行動のより詳細なプロセスを理解するために、眼球運動データ、ブラウザログ等の情報を用いて、図書館情報学専攻の大学院生と一般学部生グループ間

のユーザ特性の違い、および、レポートタスクと旅行タスクでのタスクの違いが、探索行動にどのように影響するかを検証したものである。その結果、旅行タスクではスポンサーリンク、レポートタスクではスニペット領域がより多く見られるなどタスク毎に着目する情報が異なること、また、タスクにより情報収集方略が異なる傾向を見出している。さらに、大学院生は学部生に比べて、ページ閲覧をすばやく行うなど、ユーザ特性により、効率的な情報収集を目指した行動に差異がある等の知見を得ている。

利用者が Web 全般もしくはサーチエンジンをどのように利用しているかについては、様々な研究が行われている。しかし、ユーザの情報探索行動全体にかかわる要因との関係についての包括的な研究が数少ないなかで、本研究はユーザの自然な情報探索行動を理解するために、ブラウザログ、画面キャプチャー映像、発話、眼球運動、インタビューなどの様々なデータを収集して、タスクや経験の違いが与える探索行動への影響を考察している点、さらに、ユーザ実験から得られたデータにあわせた新たな分析手法を開発している点など、Web 利用者の情報探索行動の詳細な解明に向けた新たな領域を切り開いたものであると言える。よって、本論文を第 8 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。

この論文は学会誌、および J-Stage にてオンラインで論文全文を参照できます。

[http://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/20/3/20\\_249/\\_article/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/20/3/20_249/_article/-char/ja/)

=====

#### 【臨時増刊号配信について】

メールマガジン 3 月号はこの大災害の中で休刊となりましたが、情報知識学会として、会員各位にぜひとも早急にお知らせしたいことがあり、臨時増刊号を配信させていただきました。東北関東大震災に際し、日々その数を増す亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、未だに行方不明の方々が一刻も早くご家族の元に戻られますことを、そして、大震災や原発事故で被災された方々の生活が一日も早く再建に向かうことを切に祈らずにはられません。

(メールマガジン編集長：岡本由起子)

.....

\*\*\*\*\*

☆◇◆ 情報知識学会 メールマガジン ◆◇☆2011.4.26★No.44

情報知識学会メールマガジン読者の皆様

メールマガジン 4 月号をお届け致します。

=====

#### 4 月号 CONTENTS (目次)

=====

◇◆2011 年度 情報知識学会 第 19 回年次大会参加募集のお知らせ◆◇

◇◆平成 23 年度第 1 回常務理事会議事概要◆◇

◇◆関連行事のお知らせ◆◇

【SO/TC37 (専門用語) 年次総会と LaRC2011 のお知らせ】

【国立国会図書館講演会「あらゆる知識へのユニバーサルアクセス—誰もが自由に情報アクセスできることを目指して」のお知らせ】

【情報知識学会関西支部 2011 年度第 1 回（通算 14 回）研究会案内】

\*\*\*\*\*

◇◆2011 年度 情報知識学会 第 19 回年次大会参加募集のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

2011 年度 情報知識学会 第 19 回年次大会参加募集のお知らせ

第 19 回年次大会は、香川大学幸町キャンパスにおいて開催します。

本年は、四国の大学連携事業「四国の知」の記念シンポジウムも開催します。なお、事前の参加申込は不要です。直接会場にお越しください。皆様のご参加をお待ちしております。

・ 情報知識学会 第 19 回（2011 年度）年次大会

<http://www.jsik.jp/?2011program>

堀 幸雄（JSIK2011 実行委員長）

\*\*\*\*\*

◇◆平成 23 年度第 1 回常務理事会議事概要◆◇

\*\*\*\*\*

◆情報知識学会平成 23 年度第 1 回常務理事会議事概要

日時：2011 年 4 月 11 日（月）17:30～20:30

会場：学会事務局

出席：根岸、石塚、長塚、江草、小川、田良島、原田、細野、堀。

◆議事：

1. 第 19 回（2011 年度）年次大会準備状況（堀幸雄実行委員長）

堀実行委員長より大会プログラム最新案により現状報告。一般発表 26 件に「e-Knowledge コンソーシアム四国」によるシンポジウムを加えて、盛会が期待される。

協議の結果、プログラムを発表者あて通知するとともに早急に学会 HP に掲載する、周辺ホテル等の案内も掲載する、大会参加者拡充策の一環として懇親会費は無料とすることにした。永年会員表彰は来年度に延期（次記）。

2. 永年会員表彰制度（根岸会長）

前回常務理事会で協議した永年会員表彰制度についてさらに協議。香川大会での表彰式への招待を考えていたが、高齢者もおられ、参加の困難も予想されるので、来年度大会を第 1 回の表彰として、以後、20 年継続会員を対象として毎年実施する方向でさらに検討することにした。

3. 第 8 回(2011)論文賞（長塚論文賞推薦委員会委員長）

本件、4 月 1 日発行のメールマガジン増刊号で既に告知済。その際、投票締切日を 4 月 30 日としたが、投票はがきは総会出欠通知と兼用のため、再度協議の結果、5 月 10 日に変更することにした。投票公告文書を総会開催通知に同封して発送する。

4. ホームページの現況（江草常務理事）

HP の移転は順調に推移し、計画停電による NII サーバー停止の影響を受けなかった。安定状態に達したので、NII に対して、旧ページの閉鎖とリンク情報の更新手続きを行うこと

にした。

5. 平成 22 年度事業報告・決算報告（事務局）

本件、総会資料として準備中であるが、決算結果は概ね例年のとおりの収支の見込み。会員数の異動に関して、正会員からシニア会員等への変更について記載法を工夫する。部会報告（事業報告の一部）が提出されていないものがあるので、既出報告をまとめて全体を整形編集の上、再度部会長宛報告を依頼する。

6. 平成 23 年度事業計画・予算案（事務局）

予算案は例年に準じた形で準備中。各部会の事業計画は、上記部会報告と合わせて、部会長に再度提出を依頼する。

7. 総会開催案内（事務局）

総会開催案内、出欠回答兼論文賞投票はがき等の発送手配に入る。回答期限は 5 月 10 日とする。懇親会費無料の件を案内文書に補記する。

8. その他

（1）前回シニア部会における山本毅雄先生の講演内容を学会誌「事始めシリー会も「協力」名義に加わる件について提案があり、了承された。また学会員あてメールズ」の記事として執筆いただくよう、細野代表世話人から山本先生に依頼する。

（2）江草、田良島常務理事より、saveMLAK（博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報サイト、<http://savemlak.jp/>）による 4 月 23 日の討議会開催について、日本アーカイブズ学会、アート・ドキュメンテーション協会と共に、本学にて本件を告知する。

（3）来年度総会に向けての選挙管理委員長、本年度情報知識学フォーラムの実行委員長の委嘱者についてさらに検討する。

9. 次回理事会開催日時

2011 年 5 月 11 日（水）18:00 より凸版印刷(株)西館 3 階社員食堂にて理事会開催。これに先立ち、同日 15:00 から監査会、17:30 から論文賞推薦委員会（学会事務局）。

\*\*\*\*\*

◇◆関連行事のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

---

◇◆ISO/TC37（専門用語）年次総会と LaRC2011 のお知らせ◆◇

---

ISO/TC37 の年次総会が 6 月 12 日～17 日までソウルで開催されます。韓国とは EAFTerm（東アジア専門用語フォーラム）などを通じて親密な関係を持っていますので日本からも関係者が出席いたします。また TC37 会議に先立って 6 月 10,11 日に、専門用語、言語、コンテンツリソースに関する会議である「LaRC2011」がソウルで開催されます。日本では豊橋技術科学大学の井佐原先生が対応されています。ご興味のある方はぜひご参加下さい。

<http://swrc.kaist.ac.kr/isotc37wiki/index.php/LaRC2011>

---

◇◆国立国会図書館講演会「あらゆる知識へのユニバーサルアクセス—誰もが自由に情報アクセスできることを目指して」◇◆

国立国会図書館

講演会「あらゆる知識へのユニバーサルアクセス—誰もが自由に情報アクセスできることを目指して」(5/24)

<http://www.ndl.go.jp/event/events/20110524lecture.html>

◇◆情報知識学会関西西部会 2011 年度第 1 回（通算 14 回）研究会案内◇◆

今回は、最近注目されている MLA 連携（博物館、図書館、文書館の連携）に関する研究会を開催します。奮ってご参加ください。

日 時：2011 年 05 月 14 日（土） 14：30-17：00

会 場：大阪市立市民交流センターなにわ 201 号室

<http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000064682.html>

JR 大阪環状線芦原橋駅下車、南出口を出てすぐ（南出口を出ると郵便局（浪速芦原局）がありますが、そこから通り（新なにわ筋）を渡ったところ）。大阪駅→芦原橋：13 分、天王寺駅→芦原橋：6 分

論 題：MLA 連携について：情報組織化をも意識して

発表者：田窪直規氏（近畿大学）

概 要：

近年、世界的に、図書館、文書館、博物館の連携が注目されるようになってきた。日本でもこれが注目されており、よく MLA 連携と呼ばれている。本発表では、MLA 連携を多角的に論じ、これについての理解を計る。具体的には、連携が注目されるようになった理由、連携事例・動向、連携基盤、MLA の位相関係、教育の問題などについて触れる。なお発表に際しては、情報組織化の側面を意識したい。

共 催：日本図書館研究会情報組織化研究グループ

参加費：300 円（飲み物、資料代）

\*事前申込制ではありませんので、気楽にお越しください。

\*\*\*\*\*

◇◆編集後記◆◇

\*\*\*\*\*

震災により東北を中心として復興が喫緊の課題となっていますが、東京電力管内では夏の電力不足が懸念されております。昨年のメールマガジン 8 月号の安永先生の編集後記を振り返ってみますと、「猛暑、炎暑、激暑、厳暑、酷暑、極暑、甚暑、熱暑、旱暑、蒸暑、辱暑、盛暑、大暑（後略）」と「暑」という語が 26 回も現れております。安永先生の語彙の豊さとともに、昨年がいかに暑い夏であったのかということに驚かされます。言語というのは、その概念がその国で重要であればあるほど、分化するそうです。やはり日本は暑い国なんですね。いろん

な暑さを楽しむ余裕があれば良いですが、なかなかそうもいってられないので、今年の夏がエアコンをつけなくても快適な、涼しい夏となることを願っております。

ご意見・ご感想は [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) まで、気軽にお寄せください。

メールマガジン 4 月号担当 梶川裕矢（東京大学）

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2011.5.25. ☆No.45.

情報知識学会メールマガジン読者の皆様

香川大学での年次大会も今週の末と迫りました。

25 の発表論文の他、「記念シンポジウム: 四国の知の集積」など、2 日間にわたって開催されます。どうぞお誘い合わせの上ご参加ください！

また、岩田常務理事より、震災・原発事故に関連して、ご専門の立場から時宜を得た貴重なご寄稿を頂きました。ご一読の上、共に考えたいと思います。

=====

## 5 月号 CONTENTS (目次)

=====

### ◇◆東日本大震災・福島原発事故関連寄稿◆◇

【データとリスクの学問】岩田修一（CODATA 部会）

### ◇◆情報知識学会 第 19 回年次大会◆◇

5 月 28 日、29 日香川大学で開催されます。

### ◇◆情報知識学会 平成 23 年度第 1 回理事会議事概要◆◇

5 月 11 日開催されました。

### ◇◆情報知識学会誌◆◇

【J-STAGE からのお知らせ】

### ◇◆関連行事のご案内◆◇

【アート・ドキュメンテーション学会 2011 年度年次大会のご案内】

☆☆.....☆☆

### ◇◆東日本大震災・福島原発事故関連寄稿◆◇

\_\_\_\_\_

【データとリスクの学問】 岩田 修一（CODATA 部会）

「多くの技術者は 100 年程度の時間でしか考えることができない…」、そんなメールのやりとりを歴史学者の Carol Gluck さんとしたのがきっかけで久しぶりに方丈記を読んだ。

“また元暦二年のころ、おほなる（大地震）ふること侍りき。そのさまよのつねならず。山くづれて川を埋み、海かたぶきて陸をひたせり。土さけて水わきあがり、いはほ（巖）われて谷にまろび入り、なぎさこぐふねは浪にたゞよひ、道ゆく駒は足のたちどをまどはせり。いはむや都のほとりには、在々所々堂舎廟塔、一つとして全からず。或はくづれ、或は

たふれた（ぬい）る間、塵灰立ちあがりて盛なる煙のごとし。地のふるひ家のやぶるゝ音いかづち（雷）にことならず。家の中に居れば忽にうちひしげなむとす。はしり出づればまた地わ

れさく。羽なければ空へもあがるべからず。龍ならねば雲にのぼらむこと難し。おそれの中におおるべかりけるは、たゞ地震なりけるとぞ覺え侍りし。”

(鴨長明『方丈記』、青空文庫より引用) ※参照 URL 1)

東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)との類似性で引用されることの多い貞観地震(貞観11年5月26日)については、菅原道真、大蔵善行らが中心になって編集したとされる歴史書「日本三代実録」に同様の記述がある。歴史的な事実の多くは歴史書や随筆、日記の記述にみることができ、そしてもっと前の事実に関しても、現代に伝わる神話、仏典、聖書、聖典の記述: テキストデータから“臨場感”を持って推測できる。

一方、高々、数百年の蓄積しかなくても、科学の目を通せば、約137億年の宇宙の歴史も約46億年の地球の歴史も精緻な観測値からなる数値データとメタデータをてがかりにして誰もがほぼ同じ理解に到達することが論理的には可能である。しかしながら科学的データから“事実に関する臨場感”を獲得することは容易ではない。

3月11日以降、マグニチュード、シーベルト(Sv)、ミリ、マイクロ、ベクレル(Bq)等々の数値がメディアにあふれているが、1mSvと20mSvの違いにより自分の寿命がどの程度短くなるのかという未来について“臨場感”をもって説明できる人はいない。人々の不安は不確実な未来に向けられ、不確実な未来に希望や絶望を与えてくれる言説に飛びつき、裏切られれば失望し非難する。全てのデータは過去の事実に関する断片的な情報であり、言語を獲得するのに引き換えに野生的本能を失ってしまった私達人間は過去からしか学習できない。

未来に関する不確実性は、過去の事実についての完璧な理解に基づいてこそ評価できる。『JRの技術チームは地震の初期微動検知から停車動作に入るまでの動作を1秒短縮できる「新幹線早期地震検知システム」を開発し、東北新幹線の車両すべてにこのシステムを導入した結果、乗客を乗せたすべての車両で脱線を防ぎ、高速走行中の脱線という最悪の事故を回避し、一人の犠牲者も出さなかった。』という驚嘆するような動かしがたい事実の積み重ねが社会的な信頼を獲得することになる。それでも東北新幹線の線路からおよそ50キロ離れた牡鹿半島の地震計の加速度の感知から、架線の停電、走行中の新幹線の非常ブレーキ、減速、本震、列車の停止にいたるまでの事実関係の連鎖が、たった数十秒の間の出来事であったことを考えると、実際にはかなり際どかったことが想像できる。素晴らしい点は、そうした成功、事実関係の背後にある様々な可能性、複数の事象の多様な展開を想定して未来の不確実性に備えることをJRの技術者達が開始していることで、そうした不断の努力が社会からの信頼を維持、獲得するためには重要である。

一方、福島第一プラントにおける困難は、地震と津波によって電源を失いプラントの内部の状況を計測することが十分にできなくなったこと、プラントの温度、圧力、化学を自在に制御するための手段を失ったこと、そして放射性核種の漏洩による現場の放射線量の増大が損壊した現場へのアクセスの大きな制約になっていることにある。プラント内部の直接的なデータが十分には得られていない状況で放射性物質の放出を抑制し、食い止めるための努力が継続しているが、入手可能なわずかなデータを手掛かりにした事故終息への作業は依然として一進一退の試行錯誤の連続である。筆者も含めた原子力関係者に求められているのは、第一に完璧でない複雑なシステムのふるまいの的確な把握と問題解決に向けての着実な成果の積み上げであり、第二に将来の可能性、リスクへの周到な準備と社会への適切な説明である。そこでは能動的で積極的で先見的で挑戦的で粘り強く注意深い、旧来の学問の枠組みを超克した専門家集団の努

力"scio"と "risicare"を必要とする。

「FUKUSHIMA」に関するデータ、知識の徹底的な再編を通して、不確実性が高く時定数も場所も時間も環境も異なるさまざまなリスクへの周到な準備が出来ないだろうか。そして SHINKANSEN や FUKUSHIMA を基点にして、日本三代実録とも方丈記とも全く次元の異なる、人工物の新たな学術、そして人工物の新たな歴史が創れないだろうか。FUKUSHIMA DAIICHI の現場での苦闘に想いを馳せながら、学問の現場でも Trans-science 2) のような水平展開ではなく、もっと根源的な考究を通して産業や被災地の現場と一緒に苦闘し強固な連帯を確立したいと思う。

そのように考えて試論、私論は以下の 3) - 6) で展開中である。今後は同志を募り、データ科学、設計科学や情報知識学への胎動の準備を Data Science Journal や情報知識学会で共考したいと思う。積極的なご参加をお願いしたい。

※参照 URL :

1) [http://www.aozora.gr.jp/cards/000196/files/975\\_15935.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000196/files/975_15935.html)

2) <http://www.greenchemistryandsustainabledesign.org/Weinberg%20-%20Science%20and%20Trans-Science.pdf>

3) <http://www.businesswire.com/news/home/20110420005677/en>

4) <http://www.kagakudojin.co.jp/kagaku/web-kagaku02/c6606/c6606-iwata/index.html>

5) [http://www.jpгу.org/meeting/session/session\\_html/U04\\_e.html](http://www.jpгу.org/meeting/session/session_html/U04_e.html)

6) <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/JASTS/main.htm>

☆☆.....☆☆

---

#### ◇◆情報知識学会 第 19 回年次大会◆◇

---

◆第 19 回年次大会は、いよいよ、来る 5 月 28 日土曜日から二日間、香川大学幸町キャンパスにおいて開催されます。

本年は、四国の大学連携事業「四国の知」の記念シンポジウムも、同時に開催します。

※[http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/event/110502/post\\_18.html](http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/event/110502/post_18.html)

なお、事前の参加申込は不要です。直接会場にお越しください。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

実行委員長 堀 幸雄 (香川大学)

委員 田窪直規 (近畿大学)

委員 原田隆史 (同志社大学)

委員 梶川裕矢 (東京大学) ↑

#### ◆開催概要

◇日時 : 2011 年 5 月 28・29 日 (土・日)

◇会場 : 香川大学幸町キャンパス 研究交流棟 5F 研究者交流スペース

※アクセスマップ :

<http://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/>

◇参加費 : 無料

◇資料代 : 会員無料、一般非会員 3,000 円、学生非会員 1,000 円

◇懇談会参加費： 無料

◇連絡先： 年次大会実行委員会 jsik2011 (at) whitebase.org

◇宿泊案内: My トリップかがわ (香川県観光協会)

※<http://www.my-kagawa.jp/>

◆なお、大会プログラムが一部変更になりました。

※下記をご参照下さい：

<http://www.jsik.jp/?2011program>

☆★.....☆☆

---

◇◆情報知識学会 平成 23 年度第 1 回理事会議事概要◆◇

---

◇日 時：2011 年 5 月 11 日(水) 18:00～20:00

◇会 場：凸版印刷(株)西館 3 階 (東京都台東区台東 1-5-1)

◇出席者：根岸、石塚、長塚、岩田、江草、小川、国沢、田良島、長田、孫、  
高久、村井、細野。

◇議 題： 主として平成 23 年度総会用資料案に基づき下記の協議を行った。

1. 平成 22 年度事業報告・決算報告

収支について事務局より報告。予算 7,672,192 円に対し、実績 7,589,851 円で、ほぼ計画通りとなった。貸借対照表では期末の正味財産 1,900,797 円で前年度 比 56,395 円の減で差は無い。今理事会直前の監事会において監査を行い適正と判定した旨、細野公男監事から報告された。

2. 論文賞結果発表 (長塚隆論文賞推薦委員長)

締切日までに到着した投票用紙を集計した結果、2011 年度論文賞が決定した旨、報告された。年次大会で公式発表され、受賞者により記念講演が行われる。

3. 第 19 回 (2011 年度) 年次大会

香川大学 (高松市) で 5 月 28～29 日の開催を目指し準備が進められている。堀幸雄実行委員長をはじめ各委員・理事の尽力により発表者 25 名となり盛会が期待される。会長から各理事に対し積極的に参加勧誘されるよう要請があった。

4. 第 16 回情報知識学フォーラム

実行委員長を村井源理事に委嘱した。後日、その他理事等による実行委員会を構成し、今秋開催する。開催日・会場など未定。テーマは昨年に引き続き、「電子書籍」関連とすることも一案であるが、更に実行委員会で検討する。

5. メールマガジン月別担当予定

今回欠席の岡本メルマガ編集長より、文書で本年度分の月別編集担当者(案)が提示された。指名された出席理事はこれを応諾し、欠席理事については、後日、岡本編集長が連絡し、担当を決めることとした。なお、今 5 月号は岡本編集長自ら編集担当する。

6. 平成 24～25 年度役員選挙

来春の役員改選投票実施を控え、選挙管理委員長の人選について、田良島常務理事が心当たりへ就任打診を続行中。

7. 平成 23 年度事業計画・予算 (案)

本年4月11日の常務理事会で検討された事業計画・予算(案)について事務局が説明し、担当部長・各委員長の下承を得た。予算総額は7,295,797円。前年度の実績を踏まえて編成しているが、隔年実施の役員選挙費用が加わった。なお、今年度の年次大会は遠隔地開催のため特例として10万円追加している。

#### 8. 平成23年度総会

香川大学に於ける年次大会の冒頭、5月28日(土)正午から開催。会長・副会長・監事による当日の議案の報告、説明等、役割分担を決定した。

#### 9. 次回理事会

2011年5月28日(土) 12:00～総会終了後 於：香川大学

以上

☆☆.....☆☆

---

#### ◇◆情報知識学会誌◆◇

---

##### 【J-STAGE からのお知らせ】

##### ◆定期システムメンテナンス

##### ◇次回定期システムメンテナンス

以下の時間帯にサービスを一時的に停止させていただきます。

5月28日(土) 10:00 ～ 15:30

##### ◇定期システムメンテナンスの年間予定は下記から参照して下さい：

※<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/-char/ja/>

##### ◆Internet Explorer 8 でのご利用について

J-STAGE において Internet Explorer 8 で一部不具合が発生する場合は報告されております。詳細は、こちらをご確認ください。

◆東北地方太平洋沖地震(東日本・東北関東大震災)による大規模停電回避等のため、J-STAGE (投稿審査サービスを含む) が予告なく一時停止される場合があります。みなさまのご協力をお願い申し上げます。

☆☆.....☆☆

---

#### ◇◆関連行事のご案内◆◇

---

##### 【アート・ドキュメンテーション学会 2011 年度年次大会のご案内】

◇日時：2011 年 6 月 11 日 (土)

◇会場：東京国立博物館 平成館大講堂

◇主催：アート・ドキュメンテーション学会(JADS)・東京国立博物館

◇後援：情報知識学会

※情報知識学会会員は参加費が JADS 会員扱いとなります。

申込フォームの「ご所属」欄に「情報知識学会」と書き加えてください。

※お問い合わせ：アート・ドキュメンテーション学会事務局

〒166-8532 杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内

電話 : 03-5307-1175

Email (大会関係専用アドレス) jadsevent@gmail.com

※当日は、東京国立博物館「西門」をご利用ください。

※展示 (総合文化展[平常展]・特別展)ごらんいただくことはできません。

◆スケジュール

※報告者・題目等、変更される場合があります。

9:30 受付開始

10:00 総会(JADS 会員のみ)

11:45 昼食

13:15 大会 主催者挨拶

13:30 特別報告「3・11から3か月—MLAの被災と復興—」:

MLA 関連の被災・復興状況及び文化財レスキュー等救援活動の現状について、  
2本の報告を予定しています。

14:30 研究発表会

○村田良二(東京国立博物館)「国宝・重要文化財のデジタル・アーカイブ構築とその展望」

○佐藤祐介(東京国立博物館)「モバイル環境における文化財情報の活用」

○宮崎幹子(奈良国立博物館)「アメリカにおける博物館収蔵品情報の連携

—OCLC 報告書と現地調査を中心に—」

○丸川雄三(国立情報学研究所)・宮崎幹子(奈良国立博物館)「文化遺産オンラインにおける  
収蔵品情報の連携 基盤について—奈良国立博物館との連携事例を中心に—」

○渡邊美喜 (東京国立近代美術館)「マクミラン社グローヴ世界美術大事典にみるアート・  
アーカイブズの類型とその実例」

17:20 クロージング

17:30 閉会

18:00 懇親会(会費 4000 円程度)

◆参加申込

下記の申込フォームに必要事項を記入し、送信してください。

<http://www.jads.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=2011taikai>

◆参加費 (資料代含む)

※参加費の一部を、文化財レスキュー (東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業)への  
義援金に充てさせていただきます。

\*JADS 会員 : 1,000 円 (学生会員 500 円)

\*一般 : 2000 円 (学生 1,000 円)

※当日入会で会員扱いとなります。特典として JADS 特製トートバッグを進呈。

学生の方は、当日学生証をご提示ください。

☆★.....☆☆

---

◇◆編集後記◆◇

東日本大震災によって大きく変わった日本から、どのように世界へと発信していけばよいのか、  
考えあぐねている向きも多かろうと思う昨今ですが、皆様からも様々な立場や状況からのご意

見、ご感想をぜひお寄せいただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

ご意見、ご感想の宛先： [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メール・マガジン編集長：岡本 由起子)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2011.6.28. ☆No.46.

情報知識学会メールマガジン読者の皆様

香川大学での年次大会が無事終了しました。今回は、大会の報告と、同大会で行われた論文  
賞授与式の報告が、メインの記事となります。

=====

## 6月号 CONTENTS(目次)

=====

- ◇◆情報知識学会第19回年次大会報告◆◇
- ◇◆第8回論文賞授賞式と受賞講演報告◆◇
- ◇◆情報知識学フォーラムのお知らせ◆◇
- ◇◆平成23年度第2回理事会議事概要◆◇
- ◇◆J-STAGE からののお知らせ◆◇
- ◇◆関連団体行事のご案内◆◇

☆☆.....☆☆

|

### ◇◆情報知識学会第19回年次大会報告◆◇

|

本年度の年次大会は 5/28(Sat) - 5/29(Sun) の 2 日間、香川大学幸町キャンパスにて開催  
されました。本年度は四国開催ということで、四国の大学連携事業「四国の知」の記念シンポジ  
ウムを開催し、細川滋会長(香川大学副学長)をはじめ、四国の知の発信を目的としている講演  
者の方にご講演を頂きました。

また一般発表では、計量書誌学やデータベースから、人間と情報の関わりを扱うシステムま  
でをカバーする内容で、計 25 件の発表がありました。

年次大会当日は台風接近という悪天候のなか、60 名を超える方に会場にお越し頂きました。  
来年度も活気のある大会にしたいと考えていますので、皆さん、ぜひ奮ってご参加していただ  
きますようお願いします。

論文賞表彰式・記念講演、四国の知の記念シンポジウムの様子についてはそれぞれ下記の url  
から見るができます。

- 第 8 回 (2011) 情報知識学会論文賞 (JSIK)

[http://www.jsik.jp/?paper\\_award2011](http://www.jsik.jp/?paper_award2011)

- 情報知識学会で eK4 の記念シンポジウムを行いました (四国の知)

[http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/event/110530/ek4\\_1.html](http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/event/110530/ek4_1.html)

なお、年次大会の会場風景の写真を含め、詳しくはホームページに掲載予定です。

大会実行委員長 堀 幸雄（香川大学）

☆★.....☆☆

---

◆◆第8回論文賞授賞式と受賞講演報告◆◆

---

去る5月28日（土）と29日（日）に、香川大学幸町キャンパスにおいて開催された第19回（2011年度）年次大会において、情報知識学会第8回（2011）論文賞の授賞式と受賞講演が行われました。

大会2日目の第8回（2011）論文賞授賞式では、本年の論文賞推薦委員長から、第8回（2011年）の論文賞は、「学会員の選ぶ論文賞」として、全学会員の直接投票に基づいて、論文賞推薦委員会で締切日までに到着した投票用紙を集計した結果、2011年度論文賞には高久雅生、江草由佳、寺井 仁、齋藤 ひとみ、三輪眞木子、神門典子の6名の共著である「タスク種別とユーザ特性の違いが Web 情報探索行動に与える影響:眼球運動：データおよび閲覧行動ログを用いた分析」が決定した旨が報告されました。

その後、根岸会長より、第8回（2011）論文賞賞状が、当日大会に出席の受賞者に大会会場で直接手渡されました。大会参加者からの拍手に迎えられ、共著者を代表して、高久雅生氏による受賞講演が行われました。

第8回（2011）論文賞論文

「タスク種別とユーザ特性の違いが Web 情報探索行動に与える影響:眼球運動：データおよび閲覧行動ログを用いた分析」

Vol. 20, No. 3, pp249-276, 2010

（高久雅生，江草由佳，寺井仁，齋藤ひとみ，三輪 眞木子，神門典子）

この論文は学会誌，および J-Stage にてオンラインで論文全文を参照できます．

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/-char/ja/>

論文賞推薦委員長 長塚隆（鶴見大学）

☆★.....☆☆

---

◆◆情報知識学フォーラムのお知らせ◆◆

---

6月27日（月）に凸版印刷にて、第16回情報知識学フォーラム第一回実行委員会を開催し、以下のように決定いたしました。

- ・日時：2011年10月29日（土）の午後
- ・会場：東工大の大岡山キャンパス
- ・仮題：『電子書籍フォーマットの新しい潮流：ePub3.0とXMDf4.0』
- ・趣旨・内容：

昨年度の電子書籍に関するフォーラムが好評だったので、今年度も電子書籍に関するフォーラムを行う。今年度は、主に電子書籍のフォーマットの規格化や実装の最前線で関わっている方たちによる発表と討議を予定している。

情報知識学フォーラム実行委員長 村井 源（東京工業大学）

☆☆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・☆☆

---

◇◆平成 23 年度第 2 回理事会議事概要◆◇

---

開催日：2011 年 5 月 28 日 12:30-12:55

会 場：香川大学幸町キャンパス（高松市）

出席者：根岸、石塚、長塚、江草、国沢、田良島、原田、梶川、孫、高久、田窪、時実、堀、村井、山本（昭）、細野

議 題：

1. 役員選挙管理委員長の人選（根岸会長）

田良島常務理事より神立孝一氏（創価大学）に打診の結果、委員長就任応諾との回答を得たとの報告あり。今後、神立氏と協議しつつ、委員会の構成を進める。

2. 情報知識学フォーラム実行委員会のメンバー構成（村井実行委員長）

村井委員長より、昨年度フォーラム実行委員を中心に委員会を構成することとし、原田、阪口、江草、高久、小川、白鳥の各氏に就任を依頼し了解を得たとの報告あり。今後、早期に実行委員会を開催し、準備を進める予定。

3. 来年度年次大会の実施について（開催地、実行委員長等）

慣例に従い、堀本年度大会実行委員長より、念頭にある候補者に来年度実行委員長の就任を打診中で、承諾が得られつつあるとの報告があり、さらに進めてもらうことにした。出席理事より、開催地について、今般香川大会の実績に鑑み、今後、全国各地での開催を定例化できないかとの意見が出された。

4. その他

一部理事においては、当日、高松空港悪天候のため、迂回等により、前記開催時間には間に合わなかったが、当日午後に、会長より議事内容を説明し了解を得た。

以 上

☆☆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・☆☆

---

◇◆J-STAGE からのお知らせ◆◇

---

J-STAGE 節電運用期間等の変更について(6/25～10/1)

いつも大変お世話になっております。科学技術振興機構（JST）電子ジャーナル担当でございます。平素より J-STAGE の運用にご協力を賜りありがとうございます。去る 5 月 26 日、J-STAGE システムの夏季節電（縮退）運用についてご案内を差し上げております。

この中で、節電運転対応期間として 6 月 25 日～9 月 24 日を予定しておりましたが、さらなる節電対策の必要性が高まっていることから、対応期間を 1 週間延長し、10 月 1 日までとさせていただきます。また、本対応にともない、9 月の定期メンテナンス日程を当初の 9 月 24 日(土)から 10 月 1 日(土)に変更させていただきます。

<変更内容>

◆節電運用期間：6 月 25 日～10 月 1 日

◆9月定期メンテナンス：10月1日 10:00～20:00

※作業が終了し次第、時間内でもサービスを再開いたします。

☆★.....☆☆

---

◇◆関連行事のご案内◆◇

---

\*\*\*\*\*

【科学技術振興機構 JST】7月3日

◆地域環境学ネットワーク 公開シンポジウム

～「地域が国際的な制度を活かすために」

◇日時： 2011年07月03日（日）

◇会場： 熊本大学文学部・法学部本館1階A3講義室

※お問合せ地域環境学ネットワーク事務局

Tel 0268-39-0202

Fax 0268-39-0202

Mail: lsnesgooglegroups.com

※参加無料

◇プログラム：7月3日（日）13:00?17:00

[http://www2.nagano.ac.jp/sato/symposium2011\\_kumamoto/](http://www2.nagano.ac.jp/sato/symposium2011_kumamoto/)

\*\*\*\*\*

【人工知能学会 JSAI】7月14日

◆第1回 AI ツール入門講座

◇日時： 2011年7月14日(木) 10:00-18:00

◇会場： キャンパスイノベーションセンター(田町)多目的室2、多目的室3

◇照会先： [account@ai-gakkai.or.jp](mailto:account@ai-gakkai.or.jp)

※定員： 50名（定員になり次第締め切らせていただきます）

※参加費： 会員 11,000円(賛助会員の社員の方も含みます)、学生会員 5,000円、

非会員 16,000円、学生非会員 16,000円

※<http://www.ai-gakkai.or.jp/jsai/seminar/tool01.html>

◆概要

学会の活性化を主な目的とし、学会員（一般、学生）ならびに非会員の方を対象に、学会に関連するツールや応用アプリケーション開発における入門講座を実施する「AI ツール入門講座」を新たに企画いたしました。第1回目である今回は、ベイジアンネットワーク構築支援システムとオントロジー構築ツールの入門講座を開催します。どちらの講座も AI ツールについて実際に手元で操作しながら学ぶことができ、これらのツールの導入を考えておられる学生・研究者・企業の方々にとって有意義な機会になると思っております。ぜひお誘いあわせのうえ、お気軽にご参加下さい。

\*\*\*\*\*

【国立情報学研究所 NII】8月1日

◆公開講座： 平成23年度市民講座 第2回 ※「文字通訳」を行います。

◆タイトル:

「量子コンピュータは本当に実現できるのか? 新しい情報社会の扉を開く量子技術」  
～最先端研究開発支援プログラム 「量子情報処理プロジェクト」～

◇参考資料:『日経サイエンス 2011 年 3 月号』

◇講師: 山本 喜久(国立情報学研究所教授/スタンフォード大学教授)

◇日時: 2011 年 8 月 1 日(月) 18:30~19:45(講義・質疑応答)

◇会場: 学術総合センター 2 階・中会議場

※参加費無料

[http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&page\\_id=315&lang=japanese](http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=315&lang=japanese)

◆概要:

現代コンピュータの基本概念は、第 2 次世界大戦中にドイツが使用していた暗号 Enigma を解読するために発明されました。以来 70 年間、一貫してこの基本思想に基づいて進化を続けてきた現代コンピュータにも弱点があります。これを克服するため、量子力学という全く新しい概念に基づく未来コンピュータの開発競争が世界中で行われています。その研究開発の最前線を紹介します。

\*\*\*\*\*

【情報処理学会 IPSJ】8 月 18 日(6 月参加登録開始)

◆情報処理学会 情報教育シンポジウム Summer Symposium in Setouchi 2011

◇日時: 2011 年 8 月 18 日(木)~20 日(土)

◇場所: 岡山いこいの村

所在地:〒701-4501 岡山県瀬戸内市邑久町虫明大平山 5652-11

電話:(0869)25-0686

◇主催: (社)情報処理学会 コンピュータと教育研究会(CE)

同 教育学習支援情報システム研究会(CLE)

※参加登録受付は 6 月中旬に開始予定です。

<http://ce.eplang.jp/index.php?SSS2011>

☆★.....☆☆

◇◆編集後記◆◇

メールマガジンは、原則として毎月 25 日発行になっています。したがって、6 月号はいつもより遅くなりました。しかし、その分、27 日に決まった情報知識学フォーラムの最新情報をお伝えすることができましたので、この点、ご寛容いただければ幸いです。7 月号のメールマガジンが届く頃には、梅雨が明けて、夏本番になっていることでしょう。うまく節電して乗り切れば良いのですが。

ご意見、ご感想の宛先: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メール・マガジン 6 月号担当: 田窪 直規)

☆★.....☆☆

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2011.7.25. ☆No.47.

情報知識学会メールマガジン読者の皆様

---

7 月号 CONTENTS (目次)

---

◇◆情報知識学会 平成 23 年度総会議事録◆◇

◇◆第 2 回卓話会◆◇

◇◆関連団体行事のご案内◆◇

---

---

◇◆ 情報知識学会 平成 23 年度総会議事録

---

- 開催日: 平成 23 年 5 月 28 日(土) 12:00～12:20
- 会 場: 香川大学 幸町キャンパス 研究交流棟 6 階
- 議 長: 根岸会長
- 議 事:

1)総会有効成立確認:事務局〔資料1〕

出席者 13 名、委任状 77 通、計 90 名

依って定足数(正会員の 10 分の 1)を満たし、総会成立。

2)平成 22 年度事業報告:石塚副会長〔資料2〕

3)平成 22 年度決算報告:石塚副会長〔資料3〕

4)平成 22 年度監査結果報告:根岸会長〔資料4〕

5)平成 23 年度事業計画説明:長塚副会長〔資料5〕

6)平成 23 年度予算案説明:長塚副会長〔資料6〕

上記の報告および事業計画・予算案はいずれも原案どおり承認された。

<注1>〔総会資料〕は大部のため学会誌次号に掲載します。

<注2>監査結果報告は当日天候不良、航空便欠航により細野監事遅参のため、同監事からの依頼に基づき根岸会長が代読。

---

---

◇◆ 第 2 回卓話会 (シニア情報知識学研究部会)

---

- 日時: 2011 年 7 月 27 日 (水) 17:30-19:00
- 場所: 情報知識学会事務局 (秋葉原)
- 講師: 奥住圭介氏
- 演題: データベース事始
- 内容:

学会誌 vol.21, No.1 に掲載された記事内容を中心にわが国におけるデータベース揺籃期での種々のエピソードを語っていただきます。

参加申込:事務局にメール、電話等で申し込みください。

(事務局はスペースに余裕がありませんので、事前連絡いただければ幸甚です。)

※会場の建物内には自動販売機がありませんので、飲み物は各自ご持参ください。

---

◇◆関連行事のご案内◆◇

---

\*\*\*\*\*

情報処理学会 第152回 データベースシステム研究会 (SIG-DBS)・

第103回 情報基礎とアクセス技術研究会 (SIG-IFAT)

合同研究発表会

- ・ 日程: 2011年8月2日(火)・3日(水)
- ・ 場所: 立命館大学 (朱雀キャンパス)  
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
- ・ テーマ: 大規模データの管理・検索・知識発見および一般
- ・ web: <http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2011/DBS152IFAT103.html>

---

◇◆編集後記◆◇

もうすぐ夏休みですね。私は今年の夏には、これまで研究成果をまとめたものを自分の設立した会社から一般向けにリリースするという事で忙しくも楽しみな夏休みになりそうです。

どうぞ皆さんも良い夏休みを過ごしてください。

ご意見、ご感想の宛先: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メールマガジン 7月号担当: 堀 幸雄)

E-Mail: [horiyuki@itc.kagawa-u.ac.jp](mailto:horiyuki@itc.kagawa-u.ac.jp)

HP → <http://www.itc.kagawa-u.ac.jp/~horiyuki/>

---

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

◇◆● 情報知識学会 メールマガジン ●◆◇ 2011.8.30 ◇ No.48.

情報知識学会メルマガ読者の皆様!

多事多難の夏も終わりに近づき朝夕に秋の気配が感じられるようになってまいりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。8月号をお届けします。

---

---

◇◆◇☆ 8月号・目次 ☆◇◆◇

◆◇お知らせ◆◇

【第16回情報知識学フォーラム実行委員会からのお知らせ】

◆◇部会の活動◆◇

【シニア情報知識学研究部会第2回卓話会報告】

◆◇情報知識学会誌◆◇

【J-STAGEからのお知らせ】

◆◇関連団体の行事のお知らせ◆◇

【情報科学技術協会 INFOSTA】著作権処理実践セミナー

【国立情報学研究所 NII】軽井沢土曜懇話会

◆◇会員からの情報◆◇

【(緊急企画) 情報リテラシー教育に携わる人のための連続講座】

\*\*\*\*\*

◇◆お知らせ◇◆

\*\*\*\*\*

【第16回情報知識学フォーラム実行委員会からのお知らせ】

◆8月1日に秋葉原の学会事務局にて第二回情報知識学フォーラム実行委員会を開催いたしました。

◇例年通りフォーラムの参加費はどなたも無料、非会員で資料ご希望の方からは講演資料代をいただくという形に決定いたしました。

◇また、フォーラムのタイトルは

「電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流」

に修正し、小川常務理事のご尽力で、現在最前線で活躍されているヴァリエティ豊かな方々からご講演の受諾をいただけることとなりました。

◇現在決定している講演者の方々は下記になります。

- ・ 社団法人日本印刷技術協会 千葉 弘幸様
- ・ シャープ株式会社 花田 恵太郎様
- ・ 株式会社ボイジャー 林 純一様
- ・ アドビシステムズ株式会社 岩本 崇様

XPDF、.book、ePub という有力電子書籍フォーマットを中心に、電子書籍の今後について活発でオープンな議論ができる場になればと考えております。

◇開催日時： 今年度のフォーラムは10月29日(土)の午後、

◇開催場所： 東京工業大学大岡山キャンパスにて開催の予定でおります。

近々事前受け付けも開始できる見込みですが、詳細が固まり次第また追ってご連絡させていただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※参照 URL : <http://www.jsik.jp/?forum>

情報知識学フォーラム実行委員長 村井 源 (東京工業大学)

\*\*\*\*\*

◇◆部会の活動◇◆

\*\*\*\*\*

【シニア情報知識学研究部会第2回卓話会報告】

◆下記のように、シニア情報知識学研究部会第2回卓話会が開催されました。

◇日時： 2011年7月27日 17:30～19:00

◇場所： 学会事務局（凸版印刷株式会社）

◇出席者：根岸、石塚、長塚、松村、山本（毅雄）、太田、貝島、長田、安平、  
細野。（順不同・敬称略）

◇講師： 奥住啓介氏

◇演題： データベース事始

かつて長らく財団法人データベース振興センター(DPC)に勤務されておられた奥住啓介氏に、「事始めシリーズ」第1報として学会誌 Vol.21, No.1 に掲載された記事を踏まえて、「データベース事始」の演題で卓話をお願いした。1984年に通産省(現経産省)の主導のもと、わが国におけるデータベース産業を育成し国産データベースの構築事業を積極的に支援する目的で設立された DPC は、インターネットが出現する以前のわが国における情報処理産業の発展に大きく貢献した。したがって、その具体的な活動は温故知新の観点から折にふれて振り返ることが必要であろう。活動の概略およびポイントは、学会誌に掲載された上記記事内容から知ることができるので、卓話会では裏面史的な話も多く語られ、当時を髣髴させるようであった。その一例が通産省やデータベース業界と DPC との間での人間関係や政策、補助金等の話であり、いろいろ質問やコメントが出された。また、日米情報摩擦が喧伝された時代には、現在では考えられないような軋轢が生じたとのことである。たとえば、英文版データベース白書 **Databases in Japan** が『データベース白書』の要約版として刊行されたが、頁数の少なかつたため、日本は情報隠しをしていてけしからんとクレームが米国方面から出されたそうである。いろいろな活動や事業が遭遇する課題や問題は、それぞれの時代ごとに異なる。今からすればたとえ噴飯物のようにみえるものでも、当時は皆がそれに全力を傾注して解決しようとしたのである。そしてそうした課題・問題は、形を変えて現代でも存在するといえよう。

（世話人代表 細野公男）

\*\*\*\*\*

---

◇◆情報知識学会誌◇◆

---

\*\*\*\*\*

#### 【J-STAGE からのお知らせ】

##### ◆次回定期システムメンテナンス予定

定期システムメンテナンスのため、以下の時間帯にサービスを一時的に停止させていただきます。

◇10月1日(土) 10:00 ～ 20:00

◆東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)に伴う節電対応により、下記の期間、冗長構成サーバ等の一部で縮退運転を実施するため、状況により一時的なレスポンス低下等の発生する場合があります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

◇節電（縮退）運用期間：6月25日～10月1日

（期間が変更になりました）

◇Internet Explorer 8 でのご利用について

J-STAGE において Internet Explorer 8 で一部不具合が発生する場合は報告されております。

※詳細は：<http://info.jstage.jst.go.jp/info/policy/browser.html>

\*\*\*\*\*

---

◆◆関連団体の行事のお知らせ◆◆

---

\*\*\*\*\*

【情報科学技術協会 INFOSTA】

◆著作権処理実践セミナー（現場の悩みにお答えします）

これまで INFOSTA では、基礎から学べる著作権法セミナーを数回行ってまいりました。

◇今回の著作権セミナーは、著作権処理の実践的な対応方法について学びます。普段の業務の中で皆さんが、著作物の転載や改変、翻案などを行うために著作権処理をしようとした時、どう処理すればよいのかと迷うような場合にうってつけの内容です。例えば、著作物の引用であれば許諾を必要としない場合もありますが、必ずしも引用の範囲ではない場合もあり、そういう著作物の利用の際には著作権処理を正しく行う必要があります。

セミナーでは、Copyright Clearance Center (CCC)の Rightslink を例に、インターネットを使って著作権処理を行う方法をご紹介します。

◇開催日時

・大阪会場 2011 年 9 月 22 日（木） 13：30～16：30

・東京会場 2011 年 9 月 26 日（月） 13：30～16：30

◇講師：松坂重徳氏（株式会社インフォレスト）

◇開催場所

・大阪：大阪産業創造館 6F 会議室 A・B（大阪府大阪市中央区本町 1-4-5）

・東京：総評会館 2F 201 会議室（東京都千代田区神田駿河台 3-2-11）

◇主催：社団法人 情報科学技術協会（INFOSTA）

※詳細は：<http://www.infosta.or.jp/>

☆★.....

【国立情報学研究所 NII】

◆平成 23 年度第 1 回軽井沢土曜懇話会

◇日時： 2011 年 9 月 24 日（土）

◇テーマ：「科学技術をめぐる市民の議論とは」

◇講師： 小林傳司氏（大阪大学コミュニケーション・デザイン・センター教授）

◇対象： 一般

※申込み受付中

※参照 URL：

[http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main](http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main)

\*\*\*\*\*

---

◆◆会員からの情報◆◆

---

\*\*\*\*\*

【(緊急企画) 情報リテラシー教育に携わる人のための連続講座】

◆宇陀則彦氏(筑波大学)からのお知らせです。

◇テーマ: 「情報を評価し判断する力をいかに育むか」

◇開催場所: 立教大学池袋キャンパス

<http://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/direction/>

※なお、開催場所の教室番号については、お申し込みいただいた方に、メールにて、後日、ご連絡いたします。

◆プログラム◆

◇第1回 2011年9月24日(土) 15時~17時

・テーマ: 「知性の自由」を求める教育

・講師: 中尾ハジメ氏(京都精華大学教授)

◇第2回 2011年10月29日(土) 15時~17時

・テーマ: メディアとメディアリテラシー論者と図書館

・講師: 影浦峯氏(東京大学教授)

◇第3回 2011年11月26日(土) 15時~17時

・テーマ: 読書の歴史から学ぶ・教える

・講師: 和田敦彦氏(早稲田大学教授)

◇第4回 2011年12月17日(土) 15時~17時

・テーマ: 情報リテラシーとシティズンシップ

・講師: 小玉重夫氏(東京大学教授)

◇第5回 2012年1月28日(土) 13時~17時を予定

・(まとめ) 第1回から第4回の受講者の代表者が中心となつてのディスカッションによって構成する予定

◇主催: 立教大学 学校・社会教育講座 司書課程

・(連絡先・同課程主任 中村百合子; [yurikon@rikkyo.ac.jp](mailto:yurikon@rikkyo.ac.jp); 03-3985-3831)

・企画協力: 足立正治(大阪樟蔭女子大学非常勤講師)

※なお、企画の趣旨や講師紹介は、次のブログで、行っています。

<http://d.hatena.ne.jp/to-yurikon/>

<http://blog.goo.ne.jp/masa-sem>

---

☆★.....★★

【編集後記】

どれほど暑さが続くかと危惧するうちに節電の夏も大禍なく(?)終わろうとしております。無理をして熱中症に、というようなケースもあったようです。確かな情報があるようでない、という不安な夏でもありました。秋に向けて、ますます情報の確かさと透明さが求められることを痛感します。

皆様のお便り、ご感想、ご意見などをお寄せ下さい: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メールマガジン編集長 岡本由起子)

☆★.....★★

\*\*\*\*\*

◆◆● 情報知識学会 メールマガジン ●◆◇ 2011.9.26 ◇ No.49.

情報知識学会メルマガ読者の皆様！

情報知識学会メール マガジン読者の皆様。メールマガジン 9月号をお届け致します。

---

◆◆◇☆ 9月号・目次 ☆◆◆◇

◆◇お知らせ◆◇

【第16回情報知識学フォーラム『電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流』】

【選挙管理委員会の設置について】

◆◇後援行事のご案内◆◇

【人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん 2011）

「デジタル・アーカイブ」再考—いま改めて問う記録・保存・活用の技術—】

◆◇関連行事のお知らせ◆◇

【連続公開講座「情報を評価し判断する力をいかに育むか」】

【「電子書籍と図書館の可能性」】

【INFOPRO2011 第8回情報プロフェッショナルシンポジウム】

【第13回図書館総合展/学術情報オープンサミット2011】

【科学技術振興機構「JST 文献情報提供事業の今後について」（報告書公開）】

【平成23年度第4回NII市民講座「漢字コードの迷信を打破する！

インターネット時代の文字コード」】

---

\*\*\*\*\*

◆◆お知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

【第16回情報知識学フォーラム『電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流』】

○情報知識学フォーラム実行委員より

9月9日（金）に学会事務局にて第三回情報知識学フォーラム実行委員会を開催いたしました。ご講演いただく講師の方とプログラムを最終決定し、事前申し込みや他団体等での広報について話し合いました。下記が最終決定したフォーラムの概要となります。情報知識学会の会員の皆様は、例年通り参加費・資料代ともに無料となっております。事前申し込みのサイトを準備してございますのでそちらよりお申込みいただけますと幸いです。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◇日時：2011年10月29日（土） 13:30-17:20 （受付開始13:00）

◇会場：東京工業大学大岡山キャンパス 西9号館2F コラボレーションルーム

（住所：東京都目黒区大岡山2-12-1）

◇主催：情報知識学会

◇協賛：一般社団法人日本印刷学会、 社団法人日本印刷技術協会、  
社団法人情報科学技術協会

\* 参加費：無料 （非学会員の方が予稿集をご希望の場合には  
資料代を 3000 円いただきます）

\* 事前の参加申込は次のページからお願いします：

<http://bit.ly/JSIKForum2011>

\* 定員は 100 名です。当日参加も可能ですが、できるだけ事前の参加申込を  
お願いしております。

◇プログラム

|             |                                                     |
|-------------|-----------------------------------------------------|
| 13:00       | 受付開始                                                |
| 13:30-13:35 | 開会挨拶 根岸正光（情報知識学会会長）                                 |
| 13:35-14:25 | 講演 1: 電子出版の可能性と印刷会社の役割<br>千葉 弘幸（社団法人 日本印刷技術協会）      |
| 14:25-15:05 | 講演 2: 電子書籍フォーマット XMDF と作成環境<br>花田 恵太郎（シャープ株式会社）     |
| 15:05-15:25 | 休憩（20 分）                                            |
| 15:25-16:05 | 講演 3: 電子出版には、WEB ブラウザだけがあればいい<br>林 純一（株式会社ボイジャー）    |
| 16:05-16:45 | 講演 4: いま Adobe が考える電子出版の制作フロー<br>岩本 崇（アドビシステムズ株式会社） |
| 16:45-17:15 | 総合討論 司会: 原田隆史（同志社大学）                                |
| 17:15-17:20 | 閉会挨拶 村井源（情報知識学フォーラム実行委員長）                           |
| 17:45-      | 懇親会（一般：4000 円、学生：2000 円）                            |

◇開催趣旨

昨年度の電子書籍に関するフォーラムは好評を博しましたが、あれから一年の間に、電子書籍とそれを取りまく端末・ビューワー、さらには利用者の意識などにも新しい流れが次々と出てきています。そこで今年度も昨年度に引き続き電子書籍、中でも電子書籍のフォーマットに焦点を当てたフォーラムを開催いたします。現在日本で主流の電子書籍フォーマットや、今後の発展が有力視されている国際的なフォーマットなど、複数のフォーマットの関係者の方々からの講演を中心に、電子書籍フォーマットとそれを取りまく新しい潮流についてのオープンな議論ができる場を提供できればと考えております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◇参照 URL：<http://www.jsik.jp/?forum>

\*\*\*\*\*

【選挙管理委員会の設置について】

平成 24-25 年度役員選挙管理委員会が下記の 5 名の委員で設置され、10 月 3 日に第一回選挙管理委員会が開催される予定です。来年 1 月の公示・投票に向けて活動を開始し、早速、公示に先立つ候補者の推薦受付が始まります。学会誌第 21 巻第 4 号および学会ホームページをご覧ください。なお詳しくは、学会の定款および役員選出規定にある選挙

の手続き等をご覧ください。

記

- ◇委員長 神立 孝一（創価大学）
- ・委員 児島 秀樹（明星大学）
  - ・委員 大槻 明（お茶の水女子大学）
  - ・委員 松村 敦（筑波大学）
  - ・委員 中西 陽子（日本大学）

※参照 URL：

- ・定款 <http://www.jsik.jp/?teikan>
- ・役員選出規定 <http://www.jsik.jp/?senshutsu>

\*\*\*\*\*

---

◇◆後援行事のご案内◇◆

---

\*\*\*\*\*

【人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん 2011）

「デジタル・アーカイブ」再考—いま改めて問う記録・保存・活用の技術—】

◇開催日程：2011 年 12 月 10 日(土)～11 日(日)

◇会場：龍谷大学 大宮キャンパス（京都市下京区）

◇主催：情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会

◇共催：龍谷ミュージアム、龍谷大学古典籍デジタルアーカイブセンター、  
花園大学国際禅学研究所、花園大学文化遺産学科

◇実行組織

実行委員会：岡田至弘（龍谷大学）[委員長]、曾我麻佐子（龍谷大学）、  
後藤真（花園大学）、師茂樹（花園大学）、関野樹（総合地球環境学研  
究所）、高田智和（国立国語研究所）

プログラム委員会：鈴木卓治（国立歴史民俗博物館）[委員長]

◇開催趣旨

「デジタル・アーカイブ」は、すでに 10 年を超えて人文科学とコンピュータ研究会が中心にすえてきたテーマである。その蓄積は多くの成果を生み、さまざまな形で文化資源の流通の一端を担ってきた。それら、多くの成果を受け、いかにこれらの「デジタル・アーカイブ」が人文科学研究に寄与してきたのか、さまざまに問いなおす議論も生まれてきている。それは、アーカイブ（ズ）の本質的な意義を問いなおす動きや、人々の記録・記憶をどのように取り扱うか、という問題設定がより大きく現れてきた状況に規定されているといえよう。そこで、本シンポジウムでは「「デジタル・アーカイブ」再考」をテーマにすえたい。

本研究会が今まで培ってきたデジタル・アーカイブをはじめとする、人文科学へのデジタル技術の応用研究の必要性がますます増している。たとえば、今回の東日本大震災とそれに連なる災害は、同時に多くの文化遺産・資料を窮地に陥らせた。

それは、地域の人文科学研究の基礎、ひいては豊かな社会生活や、地域の記憶の基礎を失うこととなっている。このような例では、地域の人々の記憶を、文化を災害から取り戻すため、それらの資料を一つでも多く救済することが強く望まれる。その救済・活用手法としてデジタル技術は有効であることは言を俟たない。

また、人文科学の基礎資料を保存し、支えてきた博物館・資料館などの諸機関も、近年「MLA 連携」の議論の高まりなどあらたな展開を迎えようとしている。この「MLA 連携」の場面でも、デジタル技術が、その鍵を握る存在として扱われている。

そのような状況を踏まえると、記録・保存したデジタル資料を社会に広く公開し、還元・活用することで、人々の記憶にどのように資することができるのだろうか。広く社会に人間の文化的な生活にどのように資することができるのか、また、日本の豊かな人文科学の資料を国際的に発信するためのデジタル技術の利用にはどのような可能性があるか。これらの問題群を問いなおすことの重要性は、以前より増していると言えるであろう。

さらに、これら記録・保存・活用の議論は、既存の資料や歴史的存在のみを対象とするものではない。現代社会における人々の活動を私たちはどのように後世に残していくのかも重要な課題として位置づけられる。現在の人々の営みもデジタル・アーカイブの活動の一端として位置づけた議論を行う必要があるであろう。

デジタル・アーカイブのさまざまな側面を再考する機会を設けることを通じ、デジタル・アーカイブや人文科学へのデジタル技術の応用研究が、さまざまな場に資することの意味を問いなおすことを、本シンポジウムの主眼としたい。多くの可能性の提示を強く望む。

◇詳細は <http://jinmoncom.jp/sympo2011/#1>

\*\*\*\*\*

---

◇◆関連行事のお知らせ◇◆

---

\*\*\*\*\*

◆「情報を評価し判断する力をいかに育むか」

◇開催場所：立教大学池袋キャンパス

<http://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/direction/>

◇プログラム

第1回 2011年9月24日（土）15時～17時 ⇒※終了

- ・テーマ： 「知性の自由」を求める教育
- ・講師： 中尾ハジメ氏（京都精華大学教授）

第2回 2011年10月29日（土）15時～17時

- ・テーマ： メディアとメディアリテラシー論者と図書館
- ・講師： 影浦峯氏（東京大学教授）

第3回 2011年11月26日（土）15時～17時

- ・テーマ： 読書の歴史から学ぶ・教える

- ・講師： 和田敦彦氏（早稲田大学教授）
- 第4回 2011年12月17日（土）15時～17時
- ・テーマ： 情報リテラシーとシティズンシップ
- ・講師： 小玉重夫氏（東京大学教授）
- 第5回 2012年1月28日（土）13時～17時を予定
- ・（まとめ）第1回から第4回の受講者の代表者を中心となつてのディスカッション  
によって構成する予定
- ◇主催：立教大学 学校・社会教育講座 司書課程
- ・（連絡先・同課程主任 中村百合子；[yurikon@rikkyo.ac.jp](mailto:yurikon@rikkyo.ac.jp) ;03-3985-3831）
- ・企画協力：足立正治（大阪樟蔭女子大学非常勤講師）
- ◇詳細は <http://www.rikkyo.ac.jp/events/2011/09/9589/>

☆★.....

◆「電子書籍と図書館の可能性」

- ◇日 時：平成23年10月14日（金） 10:00 ～ 16:30
- ◇会 場：調布市文化会館たづくり くすのきホール
- ◇主 催： 日本図書館協会 全国図書館大会  
第3分科会 電子書籍と図書館

◇開催趣旨

昨年度は Kindle や iPad に代表されるテクノロジーの面での進歩に加えて、出版社による電子書籍の生産・流通の取り組み、図書館における資料デジタル化の進展などが一つの潮流となり、電子書籍の定着に向けて大きな前進がありました。電子書籍がこの先どう展開していくのか、それによって図書館はどう変わっていかねばならないのかを考える上で最初の節目を迎えているのではないのでしょうか。

電子書籍は様々な視点から考えるべき問題であり、今回は大学図書館部会、出版流通委員会、著作権委員会、障害者サービス委員会の協同で企画し、国内の図書館全体にとっての課題の整理、問題提起の場としたいと思います。

- ◇詳細は <http://www.jla.or.jp/rally/bunkakai/section3/tabid/246/Default.aspx>

☆★.....

◆INFOPRO2011 第8回情報プロフェッショナルシンポジウム

- ◇会 期：2011年10月27日（木）午後～28日（金）
- ◇会 場：日本科学未来館（東京都江東区青海2-3-6）
- ◇プログラム

1. 一般発表 27日（木） 13:00～15:05、28日14:00～17:05
2. 特別講演 27日（木） 15:30～17:00  
『『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行、その7年間の歩み』  
川口淳一郎先生（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）
3. パラレル トーク&トーク 28日10:00～12:30  
「あなたの会社の特許を評価する!?（仮題）」  
「電子書籍の浸透を阻むものは何か（仮題）」
4. プロダクトレビュー 28日午後

5. 展示コーナー、知財インフォプロ相談コーナー

6. 情報交流会 27日 17:30~19:30 7階レストラン

◇詳細は <http://www.infosta.or.jp/symposium/infopro2011sankabosyu.html>

☆☆.....

◆第13回図書館総合展/学術情報オープンサミット2011

◇会 期：2011年11月9日（水）～11月11日（金）10:00-18:00

◇会 場：パシフィコ横浜

◇開催趣旨

第1回図書館総合展が1999年に開催されて以来、年に一度のペースで開催が続  
き、本年度で13回目を迎えることとなります。

図書館総合展とは、図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をして  
いる人達が、「図書館の今後」について考え、「新たなパートナーシップ」を築いて  
いく場です。当日会場では、図書館にまつわる様々なフォーラムやプレゼンテーシ  
ョン、多様な団体によるポスターセッション、そして企業による最新の技術や動向  
が伺えるブース出展など、様々な企画が行われます。

◇詳細は <http://2011.libraryfair.jp/>

☆☆.....

◆JST 文献情報提供事業の今後について（報告書公開）

◇概要

科学技術振興機構にて「文献情報提供事業（JDreamII）の民間への移行について」  
に関して、「JST 文献情報提供事業のあり方に関わる有識者会議意見書」および「科  
学技術情報流通の官民連携における収益構造検討委員会報告書」が公開されました。

◇詳細は <http://pr.jst.go.jp/new/info20110908.html>

☆☆.....

◆平成23年度第4回NII市民講座

「漢字コードの迷信を打破する！インターネット時代の文字コード」

◇講 師： 宮澤 彰（国立情報学研究所教授）

◇日 時： 2011年10月5日（水）18:30~19:45 （講義・質疑応答）

◇会 場： 学術総合センター 2階・中会議場

◇概 要

漢字コードは足りない？ 日本の漢字と中国の漢字は違う？ といった疑問から、  
なぜウェブページやメールで文字化けがおこる？といった問題まで、文字コードの  
仕組みと文字にかかわるさまざまな議論を文字コードの歴史にさかのぼって解説し  
ます。

※「文字通訳」を行います。

※参加費無料

◇詳細は [http://www.nii.ac.jp/?page\\_id=315&lang=japanese](http://www.nii.ac.jp/?page_id=315&lang=japanese)

---

☆☆.....☆☆

編集後記

厳しい残暑の後は台風と 9 月も天候に悩まされました。10 月は落ちついた秋を過ごしたいと思いますが、秋といえばスポーツの秋、食欲の秋、そして読書の秋です。昨年は電子書籍元年といわれ、いろいろな電子書籍サービスが立ち上がりました。10 月 29 日に開催される情報知識学フォーラムでは、昨年に引き続き『電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流』と電子書籍をテーマに取り上げています。皆様、是非、ご参加下さい。

ご意見・ご感想の宛先 : [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メールマガジン 9 月号担当 : 白鳥 裕)

☆★.....★★

## 役員候補者の推薦について（公告）

平成 23 年 10 月 29 日

情報知識学会役員選挙管理委員会

委員長 神立 孝一

情報知識学会の現役員は、定款第 24 条の規定により、平成 24 年 3 月末日で任期満了となりますので、役員選出規定により平成 24-25 年度役員選挙を実施することになりました。

役員選出規定第 11 条により、公示に先立って役員候補者の推薦を受け付けます。役員選出規定第 12 条に従い、下記により推薦してください。

役員の種類および選出手続きについては、定款および役員選出規定（本号学会記事および下記 URL）を参照してください。

定款 <http://www.jsik.jp/?teikan>

役員選出規定 <http://www.jsik.jp/?senshutsu>

### 記

推薦人資格： 推薦人は正会員・協賛会員および特別協賛会員

被推薦者資格：被推薦者（役員候補者）は正会員・学生会員・ユース会員およびシニア会員。ただし、役員選挙に当選し役員に就任する際には、ユース会員およびシニア会員は正会員に種別変更する必要があります（学生会員はそのまま可）。

推薦形式： 自薦または他薦

推薦人の数： 3 名（この中に被推薦者を含むことができます）

締切： 平成 23 年 11 月末日

推薦方法： 別紙様式を電子メール、郵送またはファックスで送付すること。なお、必要事項が揃っていればこの様式でなくても受け付けます。

送付先： 〒110-8560

東京都台東区台東 1-5 凸版印刷内 情報知識学会事務局

E-mail: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) Fax: 03-3837-0368

## 平成 24-25 年度役員候補者推薦書

平成 年 月 日

役員選出規定に従い、下記の方を役員として推薦します。

### 推薦人

| 氏名 | 所属 | 連絡先 (E-mail) |
|----|----|--------------|
|    |    |              |
|    |    |              |
|    |    |              |

(必ず 3 名の連名で推薦してください)

### 被推薦人

| 役職 | 氏名 | 所属 |
|----|----|----|
| 会長 |    |    |
| 理事 |    |    |
|    |    |    |
|    |    |    |
|    |    |    |
|    |    |    |
| 監事 |    |    |
|    |    |    |

(8 名全員ではなく、一部のみの推薦も可能です)

## 情報知識学会役員選出規定

### 第 1 章 会長、副会長、理事、監事の選出

第 1 条 本会役員の選出は、この規程により行う。

第 2 条 会長、理事、監事は正会員、賛助会員、特別賛助会員の無記名投票による選挙によって選出する。ただし特別賛助会員から指定される理事（2 名以内）は、会長の指名によって選出する。

第 3 条 選挙にあたっては、選挙管理委員会を組織する。

第 4 条 選挙管理委員会は、委員長と 4 名の委員で構成される。

第 5 条 選挙管理委員長は常務理事会において正会員中から推薦し、会長が任命する。

第 6 条 委員は委員長が推薦し、常務理事会の承認を得る。

第 7 条 委員長および委員は、役員を兼ねることができない。

第 8 条 委員長および委員の任期は、新役員が決定するまでの間とする。

第 9 条 役員の選挙は、原則として任期満了の 1 ヶ月以前に完了する。

第 10 条 選挙実施後に欠員の生じた場合には、常務理事会の決定に基づき、次点の者を繰り上げ当選とすることができる。

第 11 条 選挙管理委員会は、選挙公示に先立って、役員候補者の推薦を求めることができる。

第 12 条 選挙管理委員会の求めに対して、すべての正会員は自薦をも含め正会員を、役員候補者として推薦することができる。

2. 推薦者は、会長 1 名、理事 5 名、監事 2 名の枠内で、一度の推薦行為で複数の役員候補者を推薦できる。

3. 役員候補者の推薦にあたっては、本人を含め 3 名の推薦者を必要とする。

第 13 条 役員候補者の推薦があった場合、選挙管理委員会はこれを公示する。

第 14 条 正会員の無記名投票による会長、理事および監事の選挙は次の各号により行う。

- (1) 会長の選挙は単記投票とする。
- (2) 理事の選挙は 5 名以内の連記投票とする。
- (3) 監事の選挙は 2 名以内の連記投票とする。
- (4) 同一人を複数回記載した投票は、会長、監事、理事の順により、1 票のみを有効票とする。
- (5) 会長の次点以下の者に対する投票は、理事としての得票に算入して集計する。
- (6) 当選となる得票数が同数となった場合には、当該の役職について、この時点までの連続当選回数のない者を上位とし、なお順位のつかない場合には抽選とする。

第 15 条 選挙管理委員長は、前条に定める選挙の結果を当選者に通知し、就任承諾書への署名を要請する。

第 16 条 選挙管理委員長は、選挙の結果を常務理事会に報告する。

## 第 2 章 副会長、常務理事の決定

第 17 条 副会長、常務理事は、会長が、理事の中から指名する。

## 第 3 章 規程の改廃 †

第 18 条 本規程を改廃しようとするときは、理事会の議を経て、総会において出席正会員の過半数の同意を得なければならない。

付則 この規程は平成 17 年 5 月 28 日より施行する。

付則 この規程は平成 19 年 5 月 25 日より施行する。

付則 この規程は平成 20 年 5 月 24 日より施行する。

付則 この規程は平成 21 年 5 月 16 日より施行する。

付則 この規程は平成 22 年 5 月 16 日より施行する。

## 情報知識学会定款

### 第 1 章 総則

第 1 条 本会は、情報知識学会 (Japan Society of Information and Knowledge) という。

第 2 条 本会は、事務所を東京都におく。

### 第 2 章 目的および事業

第 3 条 本会は、情報知識学に関する学術、知識の進歩発達をはかり、会員相互間、関連学協会、産業界との連絡研修の場となり、もって学術文化および社会の発展に寄与することを目的とする。

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- (1) 研究発表会およびシンポジウムなどの開催
- (2) 学会誌および他の学会刊行物の刊行
- (3) 会員への情報提供
- (4) 関連する国際機関へ加盟、連絡および協力
- (5) 研究および調査
- (6) 関連学協会との連絡および協力
- (7) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

### 第 3 章 会員

第 5 条 本会の会員の種別は、次の 5 種とする。

- (1) 正会員：本会の目的および事業に関して専門の学識および相当の経験を有する者
- (2) 賛助会員：本会の目的および事業に賛同し、支援する者、法人、または団体
- (3) 特別賛助会員：高額な会費を納入あるいは高額な寄付を行った賛助会員
- (4) 学生会員：大学学部および大学院、またはこれに準ずる学校の在学学生
- (5) ユース会員：正会員たる資格を有する 35 歳未満の者で、本種別を選択する者
- (6) シニア会員：正会員たる資格を有する退職者で、本種別を選択する者
- (7) 名誉会員：本会の諸活動において、特別の功績があり、理事会の議決を経て推薦された者

第 6 条 本会の入会費および年会費は総会で定める。

2. 名誉会員は、会費を納めることを要しない。

3. その他とくに理事会の決議によって認められた場合、入会金を免除する。

第 7 条 本会への入会には理事会の承認を要する。

2. 名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもって会員となる。

第 8 条 会員は、本会の諸活動に参加し、刊行する機関誌の配布および図書の優先的配布を受けることができる。

2. 賛助会員は上記の活動および資料の配布に関して、会費納入金額に応じた特典を受けることができる。

第 9 条 会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- (1) 退会
- (2) 禁治産および準禁治産の宣告
- (3) 死亡、失踪宣言ならびに会員団体の解散
- (4) 除名

第 10 条 会員で退会しようとする者は、理由を付して退会届を提出しなければならない。

第 11 条 会員が次の各号の一つに該当するときは、理事会の議を経て、会長が、これを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき

第 12 条 既納の会費は、いかなる理由があっても、返還しない。

#### 第 4 章 組織

第 13 条 本会の重要事項を議決する最高機関は総会とする。

2. 総会は会員で構成する。

第 14 条 本会の活動全般にわたる審議・執行機関として理事会をおく。

2. 理事会は会長、副会長、理事で構成する。

第 15 条 理事会の活動を支援するために、必要に応じて常務理事会をおくことができる。

2. 常務理事会は会長、副会長、常務理事で構成する。

第 16 条 本会の日常業務を執行するために事務局をおく。

第 17 条 本会の活動全般にわたる助言・提言を行うための機関として評議員会をおく。

#### 第 5 章 役員および職員

第 18 条 本会には、つぎの役員をおく。

会長 1 名、理事 10 名以上 22 名以内、監事 2 名

2. 会長の指名により、理事のうち 2 名以内を副会長とすることができる。

3. 会長の指名により、理事のうち 8 名以内を常務理事とすることができる。

4. 会長の指名により、理事のうち 2 名以内を特別賛助会員からの指定者とするすることができる。

第 19 条 会長、理事（前条 4 項の理事を除く）、監事は、正会員、学生会員、ユース会員、シニア会員のうちから選挙により選出し、総会で承認する。ユース会員、シニア会員が選出され役員就任を受諾する場合には、正会員に移行するものとする。

2. 理事および監事は、互に兼任することができない。

第 20 条 役員の選出に関する規程は、理事会の議を経て別に定める。

第 21 条 会長は、本会の事務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3. 常務理事は、会長および副会長を補佐し、理事会の決議に基づき日常の事務に従事し、総会の決議した事項を処理する。

第 22 条 理事は、会長、副会長とともに理事会を組織し、この定款に定めるもののほか、本会の総会の権限に属する事項以外の事項を決議し、執行する。

第 23 条 監事は、民法第 59 条の職務を行う。

第 24 条 役員の任期は 2 年とする。

2. 会長は、必要に応じ理事会の議を経て、役員を補充し、また第 18 条に規定の定員にかかわらず役員を増員して任命することができる。

3. 補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

4. 会長は連続して 3 期その職につくことができない。

5. 役員は、その任期満了後でも、後任者が就任するまでは、引き続きその職務を行う。

6. 役員は、本会の役員たるにふさわしくない行為のあった場合、または、特別の事情のある場合には、その任期中といえども総会および理事会の議決により、これを解任することができる。

第 25 条 役員は有給とすることができる。

第 26 条 本会の事務を処理するために、職員をおくことができる。

## 第 6 章 評議員

第 27 条 会長は理事会の承認を経て、正会員のうちから評議員を委嘱することができる。

2. 評議員は、20 名以内とする。

3. 評議員は、評議員会を組織し、会長の諮問に応じ、本学会の事業の遂行について、会長に助言する。

第 28 条 評議員には、第 24 条の規程のうち、3 項以外の規程を準用する。この場合、第 24 条 3 項以外の規程のうち、「役員」とあるのは、「評議員」と読み替える。

## 第 7 章 部会および委員会

第 29 条 本会の目的・事業を推進するために編集委員会を設ける。

2. 編集委員会には編集委員長をおく。編集委員長は一貫した編集方針のもとに、学会誌の継続的向上をはかるものとする。

3. 編集委員長は常務理事会で選任する。

4. 編集委員長は理事会に出席し、意見を述べることができる。

5. 編集に関する規程は、理事会の議を経て、別に定める。

第 30 条 本会の事業を円滑に運営するため、理事会の議を経て、部会あるいは支部、および委員会をおくことができる。

第 31 条 前条による部会の部会長および委員会の委員長等は、理事会の議を経て、会長が委嘱する。

第 32 条 部会長および委員長等は理事会に出席し、意見を述べることができる。

第 33 条 部会あるいは支部、および委員会に関する規程は、理事会の議を経て、別に定める。

## 第 8 章 会議

第 34 条 理事会は、年 2 回以上会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、または、構成員の 3 分の 1 以上から会議の目的たる事項を示して請求のあった場合、会長は臨時理事会を招集しなければならない。会合による理事会のほかに、電子メール等による理

事会も、開くことができる。

3. 理事会の議長は会長とする。

4. 退任会長は、退任後2ケ年間、理事会に出席することができる。

第35条 理事会は構成員の2分の1以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。

2. 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除き、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3. 電子メール等による理事会については、本条の規定にかかわらず、構成員の過半数の賛成をもって決する。

第36条 常務理事会は、適宜会長が招集する。

第37条 通常総会は、毎年1回、会計年度終了後2ヶ月以内に会長が招集する。

第38条 臨時総会は、理事会または監事が必要と認めたときは、1ヶ月以内に招集しなければならない。

第39条 会長は正会員現在数の10分の1以上から会議に付議すべき事項を示して、総会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から1ヶ月以内に、臨時総会を招集しなければならない。

第40条 評議員会は、必要あるごとに会長が招集する。

第41条 通常総会の議長は会長とし、臨時総会の議長は、会議のつど会員の互選で定める。

第42条 総会の招集は、少なくとも10日以前に、その会議に付すべき事項、日時および場所を記載する書面をもって通知する。

第43条 次の事項は、通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

(1) 事業計画および収支予算に関する事項

(2) 事業報告および収支決算に関する事項

(3) 財産目録に関する事項

(4) その他、理事会において必要と認めた事項

第44条 総会は、正会員現在数の10分の1以上が出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。

第45条 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第46条 総会の議事の要領および議決した事項は、会員に通知する。

第47条 総会および理事会の議事録は、議長が作成し、議長および出席者代表2名以上が署名または記名押印のうえ、これを保存する。

## 第9章 表彰

第48条 本会の発展に顕著な功績のあったものに対し、これを表彰することができる。

2. 表彰は、本会表彰規定によるものとする。

## 第 10 章 資産および会計

第 49 条 本会の資産は、次のとおりとする。

- (1) 本会設立当初、別紙財産目録記載の財産
- (2) 入会金および会費
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 資産から生ずる果実
- (5) 寄付金品
- (6) その他の収入

第 50 条 本会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前に、会長が編成し、理事会の議を経なければならない。事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。

第 51 条 本会の収支決算は、毎会計年度終了後 2 ケ月以内に会長が作成し、その年度の財産目録および事業報告書ならびに会員の異動状況書とともに、監事の意見を付して、理事会および総会の承認を受けなければならない。

第 52 条 収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務を負いまたは権利を放棄しようとするときは理事会の議を経なければならない。借入金(その会計年度内の収入をもって償還する一時借入金を除く)についても同様とする。

第 53 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

## 第 11 章 定款の変更ならびに解散

第 54 条 この定款は、理事会および総会の議決を経なければ、変更することができない。

第 55 条 本会の解散は、理事会および総会の議決を経なければならない。

付則 この定款は 1988 年 4 月から施行する。

付則 この定款は 2005 年 5 月 28 日から施行する。ただし第 24 条 4 項は、この定款改定後に選出された会長から適用する。

付則 第 18 条の規定にかかわらず、この定款改定時の役員の定数は、従前のとおりとする。

付則 第 24 条の規定にかかわらず、この定款改定時の役員の任期は、当該年度末までとする。

付則 この定款は 2007 年 5 月 26 日から施行する。

付則 この定款は 2008 年 5 月 24 日から施行する。

付則 この定款は 2009 年 5 月 16 日から施行する。

付則 この定款は 2010 年 5 月 16 日から施行する。

## 事務局からのお知らせ

### 〔１〕入会申込方法

本学会に入会をご希望のかたはホームページ <http://www.jsik.jp/> から入会申込フォームに記入して送信するか、または入会申込書(pdf形式, doc形式)をダウンロードして、必要事項記入のうえ本会事務局に FAX または郵便にてお送りください。ご連絡くだされば事務局から入会申込書を郵送することもできます。

入会申し込みが届いてから、記入内容を確認したうえ、入会承認通知と年会費請求書を郵送いたします。ただし、会員資格が正式に認められるのは、会費のお振り込みが確認されたあとになります。

会員種別ごとの年会費および選挙権等諸権利は下表のとおりです。

| 会員種別   | 年会費<br>(円)          | 論文投稿 | 役員<br>選挙権          | 役員<br>被選挙権 | 総会<br>議決権          | 適格要件                                       |
|--------|---------------------|------|--------------------|------------|--------------------|--------------------------------------------|
| 正会員    | 8,000               | 可    | 有                  | 有          | 有                  |                                            |
| 学生会員   | 4,000               | 可    | 無                  | 有          | 無                  |                                            |
| ユース会員  | 4,000               | 可    | 無                  | 有          | 無                  | 35歳未満の者は本人希望により選択可(35歳以降、または役員就任の際は正会員に移行) |
| シニア会員  | 4,000               | 可    | 無                  | 有          | 無                  | 退職者は本人希望により選択可(復職時、または役員就任の際は正会員に移行)       |
| 名誉会員   | 0                   | 可    | 無                  | 無          | 無                  |                                            |
| 協賛会員   | 1口<br>30,000<br>以上  | 可    | 口数にか<br>かわらず<br>1票 | 無          | 口数にか<br>かわらず<br>1票 | 当該団体所属の個人は論文投稿可                            |
| 特別協賛会員 | 5口<br>150,000<br>以上 | 可    | 口数にか<br>かわらず<br>1票 | 無          | 口数にか<br>かわらず<br>1票 | 当該団体所属の個人は論文投稿可                            |

事務局の業務は土日祝日を除き、月曜から金曜日までの毎日行っています。お問い合わせなどの電話は、できるだけ午後 1 時半から 5 時までをお願いします。連絡には電子メールや F A X も、どうぞご利用ください。

### 〔２〕現会員で年会費未納のかたは納入をお願いします

年会費は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間単位です。未納のかたへ本年 7 月に請求書を郵送しましたが、まだ振込されていないかたは早急に下記へお願いします。退会する場合はメールまたは郵便・FAX でお知らせください。書式は問いません。その際、年会費未納のかたには本年 4 月 1 日から退会届提出日までの年会費を四半期単位の割引で計算し、事務局から改めてお知らせいたしますので、その金額を下記へお振り込みください。

1 年間の年会費は正会員 8 千円、学生会員・ユース会員・シニア会員は 4 千円です。過去数年分未納のかたは合計額を納入してください。特定の請求書が必要な場合、その旨を事務局へ電子メールその他でお知らせくだされば郵送いたします。

1. 振込先（振込手数料はご本人負担をお願いします）

- a. 郵便振替口座 00150-8-706543 情報知識学会（代表 根岸正光）
- b. ゆうちょ銀行 〇一九店（ゼロイチキュウ店）当座 0706543 情報知識学会  
（代表 根岸正光）

2. 納入した年月日の確認方法

お手元へ届く学会誌などの宛名ラベルをご覧ください。〔 〕内に過去4年間、ご自分の納入日が印字されているので確認できます。納入年（西暦の下2桁）、月（2桁）、日（2桁）の6桁です。年会費を滞納している場合は、〔未納〕と表示してあります。金融機関へ振り込まれた日から、事務局へ通知が届き、宛名ラベルに印字、発送するまで約10日かかりますので、ご了承ください。

〔2〕電子メールアドレスをお知らせください

毎月発行している情報知識学会メールマガジンは学会の諸活動を会員の皆様へ迅速にお知らせしています。電子メールアドレスを未登録のかたや最近更新されたかたは、必ず事務局 [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) へご連絡ください。

情報知識学会事務局

〒110-8560 東京都台東区台東1-5 凸版印刷㈱内

TEL:03-3835-5692 FAX:03-3837-0368

E-mail:[jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) URL:<http://www.jsik.jp>

「情報知識学会誌」投稿規定

2002年8月27日 制 定

2003年3月19日 一部改定

2006年8月 1日 一部改定

0. 情報知識学会誌編集規程による本会機関誌「情報知識学会誌（以下、会誌という）」への投稿に関する事項は、この規定の定めるところによる。

1. 投稿資格

投稿者の少なくとも1人は本会員でなければならない。ただし、編集委員会による依頼原稿の場合にはこの限りではない。

2. 投稿原稿

- 2.1 広い意味での情報知識学に関連し、またその発展に貢献するもの（情報／知識の収集、整理、蓄積、検索および各種解析、利用などに関するもの）とする。刊行時において未発表の原著でなければならない。本会誌の記事の種類を以下に示す。

- 2.2 投稿者は会誌記事の種類を明記して投稿しなければならない。ただし、編集委員会に変更することがある。

- (1) 研究論文 (Research Paper) : オリジナルな研究論文で、内容の主要な部分が学術論文として他に公表されていないもの。
- (2) 事例／調査報告 (Report) : 情報知識学に関連したシステムなどの開発、利用、調査に関するもの。資料も含む。
- (3) 解説／展望 (Review) : 情報知識に関連した特定分野の論文や学説などを総括、解説、紹介、あるいは技術動向などを展望したもの。技術、研究上の処理、解析方法などに関する解説。
- (4) 論談 (Proposal Paper) : 情報知識学に関連した新たな意見の表明、提案など。
- (5) 討論 (Discussion) : 本会誌に掲載された論文についての学術的な討論。
- (6) 研究速報 (Notes) : 技術、手法、新事実などの簡単な報告。
- (7) 講座 (Lecture) : 情報知識学の各分野に関する基礎理論、技術の適用などについて、テーマを定めて系統的に説明するもの。
- (8) 学会記事 (News) : 本会の事業、運営などの報告、記事、資料など。
- (9) ニュース、お知らせ (News) : ニュース、お知らせ。最近刊行された単行本やモノグラフの紹介
- (10) 講演 (Lecture) : 特別号などにおける講演資料。
- (11) その他 : 編集委員会が適当と判断したもの。

- 2.3 会誌記事の種類のうち、(1)から(6)までは査読を行う。その他については編集委員会で編集を行う。

3. 投稿原稿

3.1 原稿の形式

(1) 最初の投稿時

原則として、以下の体裁で作成された電子ファイル (PDF形式) を電子メールに添付し

た投稿とする。体裁は、刷り上り原稿を想定したレイアウト（A4判，2段組，20字×46行×2段）にして、図，表は希望の位置に配置すること。その他の執筆に関する詳細は「執筆要領」を参照のこと。

## (2) 採択決定後の原稿

PDFとその元になったファイル（Word fileなどで編集可能なもの）。

## 3.2 原稿の制限

### (1) 原稿の長さを原則として次のように制限する。

研究論文，事例／調査報告，解説／展望，論談：刷り上がり20ページ以内

討論，研究速報，講座：刷り上がり6ページ以内

ニュース他：刷り上がり2ページ以内

### (2) 冊子体の図原稿（原図）の大きさはA3判を越えないものとする。

### (3) 原則として，図版も含めてモノクロ印刷とする。ただし，カラーでなければならぬ図版を使用する場合は，別途編集委員会と相談する。なお，カラーページやページを超過する分については，印刷費を著者の全額負担とする。本学会誌はJ-STAGEから電子ジャーナルとしても公開するので，カラーの図をWeb上の電子付録とすることができる。また，冊子体よりもより詳細な図表やさらには動画も電子付録とすることが可能である。電子付録はすべて無料で利用できる。

### (4) 使用言語は日本語または英語とする。

## 4. 原稿の採否

投稿原稿の採否は，専門家による査読の後，編集委員会において決定する。

## 5. 査読のプロセス

学会員の中から編集委員会が指名した査読者2名によって査読を行う。内容によっては，編集委員会は著者に照会し，原稿の修正を求めたうえで，再査読を行うことがある。

## 6. 校正のプロセス

採択が決定した投稿原稿は，掲載原稿として著者に校正を依頼する。著者による校正は原則として1回とする。その際，字句の修正以外は原則として認めない。

## 7. 別刷

別刷（抜刷）は著者の実費負担とする。希望部数を事務局に申し出ること。

## 8. 投稿の手続き

最初原稿投稿時には下記のファイルを電子メールに添付する。

### 8.1 必要ファイル

a. 投稿原稿整理カード：ホームページからコピーして，必要事項を記入したテキストファイル。

b. 論文原稿のPDF形式ファイル（図，表を含む）

### 8.2 原稿の送付先

学会誌編集委員会委員長 E-mail: kunisawa@rs.noda.tus.ac.jp

なお，以下の2つのアドレスにもCCメールとして送ること。

学会誌編集委員会副委員長 E-mail: ashino@acm.org

情報知識学会事務局 E-mail: jsik@nifty.com

### 8.3 原稿の受付

事務局が原稿を受け取った日を受付日とする。受付の確認を1週間以内に投稿者の連絡先にE-mailで通知する。不備のある投稿原稿は返送し，再提出するものとする。

### 8.4 著者は査読候補者リスト（5名程度の住所、所属、電子メールアドレスを記入した

もの)を提出できるものとする。

9. 原稿提出期日

投稿は随時とする。ただし、特集号などは除く。

10. 著作権

10.1 機関誌『情報知識学会誌』に掲載された論文(電子版を含む)の著作権(著作財産権, copyright)は情報知識学会に帰属する。

10.2 掲載論文は冊子による出版の他、電子的に蓄積し、本会が行う情報提供サービスなどを通じて公開する。

10.3 本学会誌に掲載された執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされた場合には、執筆者がその責任を負う。

11. 規定の改訂

11.1 本規定の改訂は、編集委員会の議を経て、理事会の承認を得なければならない。

12. 施行

12.1 本規定は2006年7月1日より施行する。

12.2 本規定の施行により、現行規定(第5版(暫定板)2003年3月)は廃止する。

13. 改訂履歴

2003年3月19日一部改訂。「10. 著作権」に、10.3項を追加。

2006年8月 1日一部改訂。投稿手段を郵送から電子メールに変更。

論文種別 ←「論文」、「調査報告」、「第XX回年次大会予稿」等を記入。MSゴチ10pt

**「情報知識学会誌」執筆要領(中央揃え, MSPゴチ, 16pt)**

**Title in English (centered, Times New Roman, Bold, 16pt)**

国沢隆<sup>1\*</sup>, 芦野俊宏<sup>2</sup> (中央揃え, MSPゴシック, 12pt, 連絡先の著者に'\*'をつける)  
Takashi KUNISAWA<sup>1\*</sup>, Toshihiro ASHINO<sup>2</sup> (centered, Times New Roman, 12pt)

1 東京理科大学(左揃え, MS明朝, 10pt)

Tokyo University of Science(left-aligned, Times New Roman, 10pt)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3(左揃え, MSP明朝, 10pt)

E-mail: kunisawa@rs.noda.tsu.ac.jp(left-aligned, Times New Roman, 10pt) [アドレスの記入は任意]

2 東洋大学

Transdisciplinary Research Integration Center, Toyo University

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: ashino@acm.org

\*連絡先著者 Corresponding Author

この部分には要旨を記述する。研究論文, 事例／調査報告, 解説／展望, 論談の原稿には, 和文および英文で要旨をつける。和文要旨の長さは400 字以内とする。要旨中には, 図, 表, 数式などを用いない。本文中の図, 表, 数式, 文献などを番号で引用しない。情報知識学会誌に投稿する場合は, この執筆要領に従って作成すること。ただし, フォントについては, 明朝・ゴシックを基本とする。この文書では特定の環境に依存した指定があるが (MSP明朝やMSPゴシック等), 単に明朝・ゴシックと指定するとウエイトの違いなどのかかなり体裁の異なったものができてしまう可能性をできるだけ回避するために指定しているものであるため, あくまでも目安とすること。(MSP明朝 11pt.)

English abstract. within 200 words. If you submit a Research Paper, Research Note,....., you have to add a abstract. In the abstract, you should not cite figures, tables and formula expression in the article. (Times New Roman. 11pt).

キーワード: キーワード1, キーワード2, キーワード3, キーワード4, キーワード5,(MSP明朝,10pt)

Keyword1, Keyword2, Keyword3, Keyword4, Keyword5(Times New Roman, 10pt)

(研究論文, 事例／調査報告, 解説／展望, 論談, 討論, 研究速報, 講座にはキーワードをつける。和文および英文でそれぞれ5 個程度, 和文と英文のキーワードは, 対応することが望ましい。キーワードはカンマ(,)で区切る。)

## 1 一般的な事項 (MSPゴシックまたはTimes New Roman 14pt, Bold)

本文は二段組、MS明朝またはTimes New Roman、11ptを用い、ページ設定は、用紙をA4縦として、余白は上35mm、下25mm、左右25mmとする。

本会誌への投稿は、「投稿規定」に従い、投稿原稿は本執筆要領に従って作成されなければならない。本会誌の投稿原稿の種類には、研究論文、事例／調査報告、解説／展望、論談、討論、研究速報、講座、本会記事、講演、ニュース、その他がある。

## 2 日本語原稿の構成

### 2.1 全体構成 (MSPゴシックまたはTimes New Roman, 12pt, Bold)

- ・ 標題 (和文および英文)
- ・ 著者名 (和文およびローマ字、ローマ字による著者名は、名、姓の順で、姓は全て大文字を使用する。)
- ・ 所属 (和文および英文による所属機関名)
- ・ 住所 (和文による所属機関の住所、E-mail。)
- ・ 本文 (和文または英文)
- ・ 文献、付録など (和文または英文)
- ・ その他 (とくに長い論文の場合、読者の便宜を考えて内容目次を付してもよい。ただし、章、節の見出し程度とする。)

## 2.2 本文 (Body)

### 2.2.1 構成 (MSPゴシック, 12pt, Bold)

章、節などの構成は、第1 レベルは1, 2, …, 第2 レベルは1.1, 1.2, …, 第3 レベルは1.1.1, 1.1.2, … のようにする。

### 2.2.2 脚注

脚注はできるだけ避ける。止む無く使用する場合は簡潔な文とする。

### 2.2.3 図および表

図、表にはそれぞれ通し番号をつける。図1 (Fig. 1), 図2 (Fig. 2), … 表1 (Table 1), 表2 (Table 2), … など。

### 2.2.4 数式、化学式

a. 数式 (独立式), 化学式は、段落外で記

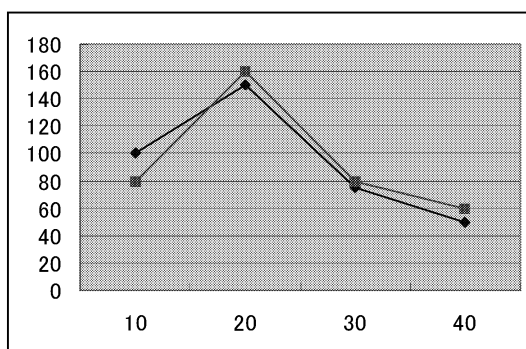


図 1 通し番号とともに説明文 (キャプション) をつける。キャプションの位置は、図は下部に、表は上部とする (図表番号は MS 明朝または Times New Roman, 10.5pt, Bold, キャプションは MS 明朝または Times New Roman, 10pt)

述されているものも本文中で一回は参照する。

b. 数式には、通し番号を振る。

### 2.2.5 リスト (または箇条書き)

- a. 記号なしリスト。
- b. 記号つきリスト。リストの記号は、数字、アルファベット、記号を用いることができる。ただし、これらの混在した使

表1 一段組みにした図表のキャプションは中央に揃える

| Fertilizer | 1977 | 1991 | 1992 |
|------------|------|------|------|
| Mineral    | 1000 | 204  | 135  |
| Nitrogen   |      | 87   | 65   |

用は避ける。アルファベットは1 論文中では大文字，小文字の使い分けをしない。

c. 複雑化を避け，せいぜい2段（親子関係）のリストとし，ネストを跨ぐ順序づけを用いない。

### 2.2.6 注記および参考文献

本文中で少なくとも一回は参照すること。次記のように，[通し番号]として参照し，タイトルなどでの参照は避ける[1]。

## 2.3 後付け(End)

### 2.3.1 注記および参考文献

- 注記または参考文献には，参照順に通し番号を付し，本文の最後に番号順にまとめて記述する。章番号は用いない。章題は「参考文献」とする。
- 1つの番号には1つの注記または参考文献を対応させる。
- 注記中には参考文献を含めない。注記はできる限り簡潔に表現すること。
- 参考文献の記述形式は，以下の形式を満たさなければならない。
- URLを参照してもよいが，移動または削除される可能性があるので，極力避ける。原著がURLでのみしか参照できない場合など，やむをえない場合は用いてい。その場合，参照時点でのハードコピーを保管しておくなど，参考文献へのアクセス手段を確保するよう努力しなければならない。

#### 【参考文献の形式】

#### 1. 雑誌中の1論文

[引用通し番号] 著者名：論文名，雑誌名，巻号，掲載ページ，出版年，その他。

#### 2. 図書1冊

[引用通し番号] 著者名：書名，版表示，出版地，出版社，総ページ数，出版年，その他。

#### 3. 図書の1部

[引用通し番号] 著者名：論文名，書名，版表示，出版地，出版社，掲載ページ，出版年，その他。

#### 4. 会議報告

[引用通し番号] 著者名：論文名，書名（会議名），版表示，編集者名，会議開催地，会議開催年，会議開催機関，出版地，出版社，掲載ページ，出版年，その他。

#### 5. インターネット上の論文

[引用通し番号] 著者名や標題など可能な限り詳細な書誌事項，URL，参照年月日。（単なるホームページなどは参考文献にしないこと）。

#### 【参考文献の記述】

#### 1. 著者名，編集者名の記述

(1) 個人著者名は，姓，名の順に記述する。欧文著者名は，カンマ（,）で姓，名を区切る。

(2) 複数著者の場合は，各著者をセミコロン（;）で区切る。

(3) 翻訳図書などの翻訳者名の場合は，著者名の後に括弧（ ）に入れて記述する。

#### 2. 論文名，書名の記述

(1) 論文名、書名は、和文の場合はかぎ括弧（「」）、欧文の場合はダブルクォーテーション（” ”）に入れて記述する。

(2) 図書中の一部を引用した場合の書名は、和書の場合は二重かぎ括弧（『』）に入れ、欧文の場合はイタリック体で記述する。

### 3. 掲載ページの記述

(1) 論文の場合は、開始ページと終了ページを記述する。「pp. 開始ページ- 終了ページ」とする。

(2) 図書の場合は、総ページ数とする。「総ページ数p.」とする。

## 3 文章と文体

1. 文体はひらがなと漢字による口語常態（である調）とし、現代かなづかいを用いる。

2. 漢字は当用漢字とする。ただし、固有名詞や学界で広く用いられている慣用の術語はこの限りではない。

3. 句読点その他には「，」「．」を用いる。

4. 本文中の人名には敬称をつけない。ただし、謝辞の人名はこの限りではない。

5. 数量を表す数字はアラビア数字とする。

6. 数式は印刷に便利のように十分注意して記号を記すこと。原則として数量（変化量）を表す記号はイタリックとする。

7. ローマ字の人名の姓は大文字体とする。

8. 固有名詞で読み誤るおそれのあるものにはふりがなをつける。

9. 英数字は原則として半角英数文字で記述する。

## 4 英文原稿

英文による投稿原稿の場合も、原則として

和文による投稿原稿の諸規定に従う。英語圏以外の著者の場合、著者名表記にその国語による表記を認めるが、可能な限り英文表記とする。

・研究論文、事例／調査報告、解説／展望、論談、討論、研究速報などの原稿は英文でもよい。

・英文原稿は語学的に難点の少ないものであることを必要とし、著者の責任において完全を期する。

・英文原稿には、英文による要旨 200 語程度、ならびに日本語による 400 字以内の要旨をつける。ただし、著者が日本語を理解できない場合は日本語要旨を省略できる。

## 5 J-STAGEの電子付録

本学会誌の記事のうち学術的なものはJ-STAGEからも公開する。したがって、カラーの図や冊子体よりも詳細な図表を電子付録としてWeb上で公開可能である。動画なども電子付録として受け付ける。ただし、査読論文の電子付録は査読の対象となり、掲載決定後に内容の変更はできない。

## 6 その他

原稿は和文または英文によるものとする。文章は語学的に難点の少ないものであることとし、著者の責任において完全を期する。編集委員会は語学的校正を行わない。

## 7 要領の改訂

本要領の改訂は、編集委員会の承認を得なければならない。

## 8 施行

本規定は2002年8月27日より施行する。

## 9 改訂履歴

2003年5月2日一部改訂。英語要旨の長さを500語から200語に変更。図、表のキャプション位置を訂正。

2009年7月24日一部改訂。表題と本文フォントおよび著者表記の変更。

2011年3月1日一部改訂。原稿最初のページの左肩に論文種別を付記するよう変更。

## 謝辞

本文の最後に続けて記述する。章番号は用いない。章題は「謝辞」とする。最終原稿時に記述することが望ましい。

## 参考文献

[1] 藤原譲：「情報知識学試論」，情報知識

学会，Vol. 1，No. 1，pp. 3- 10，1990.

[2] 原正一郎；安永尚志：「国文学研究支援のためのSGML/XML データシステム」，情報知識学会，Vol. 11，No. 4，pp. 17- 35，2002.

[3] Fujiwara, Shizuo: “East-West Communication and Information Transfer — Coordination of Specificity”, Journal of Japan Society of Information and Knowledge, Vol.4, No.2, pp.11-18, 1994.

[4] Ellis, David (細野公男監訳，斎藤泰則，鈴木志元，村上泰子訳)：「情報検索論」，丸善，180p.，1994.

[5] 根岸正光：「学術情報の流通と利用」，『情報学とは何か』情報学シリーズ3，丸善，pp. 43- 69，2002.

[6] 名和小太郎：「デジタル図書館と著作権」，デジタル図書館，No. 4，  
<http://www.dl.ulis.ac.jp/DLjournal/No4/nawa/nawa.html> (2002 年 8 月 27 日参照)

## 情報知識学会誌 編集委員会

|        |              |        |                |  |
|--------|--------------|--------|----------------|--|
| 編集委員長  | 国沢 隆         | 東京理科大学 |                |  |
| 副編集委員長 | 芦野 俊宏        | 東洋大学   |                |  |
| 編集委員   |              |        |                |  |
| 相田 満   | 国文学研究資料館     | 石井 守   | 情報通信研究機構       |  |
| 石塚 英弘  | 筑波大学         | 岩田 覚   | 東京大学           |  |
| 内田 努   | 北海道大学        | 宇陀 則彦  | 筑波大学           |  |
| 江草 由佳  | 国立教育政策研究所    | 大久保 公策 | 国立遺伝学研究所       |  |
| 岡本 由起子 | 欧州情報協会       | 小川 恵司  | 凸版印刷(株)        |  |
| 神立 孝一  | 創価大学         | 五島 敏芳  | 京都大学博物館        |  |
| 阪口 哲男  | 筑波大学         | 白鳥 裕   | 大日本印刷(株)       |  |
| 菅原 秀明  | 国立遺伝学研究所     | 太原 育夫  | 東京理科大学         |  |
| 田良島 哲  | 東京国立博物館      | 時実 象一  | 愛知大学           |  |
| 中川 優   | 和歌山大学        | 長田 孝治  | 東京都ビジネスサービス(株) |  |
| 長塚 隆   | 鶴見大学         | 中山 堯   | 神奈川大学          |  |
| 中山 伸一  | 筑波大学         | 西川 信孝  | みずほ情報総研(株)     |  |
| 西澤 正巳  | 国立情報学研究所     | 西脇 二一  | 奈良大学           |  |
| 根岸 正光  | 国立情報学研究所名誉教授 | 原 正一郎  | 京都大学           |  |
| 原田 隆史  | 同志社大学        | 藤井 賢一  | 産業技術総合研究所      |  |
| 藤原 譲   | 筑波大学名誉教授     | 細野 公男  | 慶應義塾大学名誉教授     |  |
| 村川 毅彦  | 和歌山大学        | 安永 尚志  | 人間文化研究機構       |  |
| 山本 毅雄  | 国立情報学研究所名誉教授 | 山本 昭   | 愛知大学           |  |

## 第16回情報知識学フォーラム実行委員会

|         |       |           |
|---------|-------|-----------|
| 委員長     | 村井 源  | 東京工業大学    |
| 実行委員会顧問 | 根岸 正光 | 国立情報学研究所  |
| 元実行委員長  | 長塚 隆  | 鶴見大学      |
| 委員      | 江草 由佳 | 国立教育政策研究所 |
|         | 小川 恵司 | 凸版印刷株式会社  |
|         | 阪口 哲男 | 筑波大学      |
|         | 白鳥 裕  | 大日本印刷株式会社 |
|         | 高久 雅生 | 物質・材料研究機構 |
|         | 原田 隆史 | 同志社大学     |

### ■複写をされる方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

著作物の転載、翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619 E-mail: naka-atsu@muji.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA. 01923, USA

TEL: 978-750-8400 FAX: 978-750-4744 URL: <http://www.copyright.com/>

情報知識学会誌 Vol. 21, No. 4 2011 年 10 月 29 日発行 編集・発行情報知識学会

頒布価格 3000 円

## 情報知識学会(JSIK: Japan Society of Information and Knowledge)

会長 根岸 正光

事務局 〒110-8560 東京都台東区台東 1-5-1 凸版印刷(株)内

TEL: 03(3835)5692

FAX: 03(3837)0368

E-mail: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

URL: <http://www.jsik.jp>

# *Journal of Japan Society of Information and Knowledge*

## ~~~~~ Contents ~~~~~

**Preface :** Actions Required for The New Movements in Information Technology  
That Drastically Affect Our Intellectual Activity

.....Kimio HOSONO...419

**Special Issue : The 16<sup>th</sup> Information and Knowledge Forum**  
**"New Trends Surrounding the E-book Formats"**

The Chance of E-books and the Printing Companies Action

.....Hiroyuki CHIBA...423

X MDF E-Book Format and Its Authoring Tools

Keitaro HANADA, Azusa UMEMOTO, Yuji SAWADA, Hisashi SAIGA...430

E-Publishing Needs Only Web Browsers

.....Toshiaki KOIKE, Junnichi HAYASHI...441

Adobe's Digital Publishing Workflow

.....Takashi IWAMOTO...452

## ~~~~~ Mail Magazine Archives ~~~~~

Mail Magazine (2010 Nov. to 2011 Sep.) .....456

## Information

Nomination of Candidates for Executive Board.....518

Constitution and Bylaws.....520

Others.....527

~~~~~

情報知識学会誌 第21巻4号 2011年10月29日発行

編集兼発行人 情報知識学会 〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1 凸版印刷(株)内

TEL:03(3835)5692 FAX:03(3837)0368 E-mail:jsik@nifty.com

URL: <http://www.jsik.jp/>

(振替:00150-8-706543)

学術刊行物 ISSN0917-1436